

宮崎大学医学部整形外科

同門会誌

第 35 号
令和 7 年 1 月

医学部開講 50 周年記念誌

宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

宮崎大学医学部整形外科

同
門
会
誌

第 35 号
(医学部開講五十周年記念誌)

宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

宮崎大学医学部整形外科

同 門 会 誌

発 行 日 令和7年1月

発 行 者 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

編集責任者 大 田 智 美

印 刷 所 宮崎県宮崎市潮見町 13-5
株式会社ヒダカ印刷



令和5年度 宮崎大学医学部整形外科学教室新入教室員歓迎会
令和5年4月8日 於：宮崎観光ホテル



令和5年度宮崎大学医学部整形外科同門会 令和5年11月25日 於 宮崎観光ホテル

目 次

御挨拶	平川 俊一	1
新入教室員歓迎	帖佐 悦男	2
医局長挨拶	中村 嘉宏	4
医学部開講 50 周年記念号		
宮崎大学医学部整形外科学教室 同門会のあゆみ		6
木村 千仞 (初代教授)		10
田島 直也 (第 2 代教授)	田島 直也	12
帖佐 悦男 (第 3 代教授)	帖佐 悦男	14
河野 雅行 (同門会 初代会長)	河野 雅行	17
平川 俊一 (同門会 第 2 代会長)	平川 俊一	18
中村 嘉宏 (宮崎大学医学部整形外科 医局長)	中村 嘉宏	19
追悼		
父を偲んで (菅田育穂先生)	菅田 耕	20
鶴田明土先生を偲んで	作 良彦	21
近況報告インタビュー ～開業医編～		
医療法人 岡田整形外科	福嶋 秀一郎	22
医療法人社団健友会 岡本整形外科	岡本 健太郎	23
医療法人社団紘真会 押川整形外科医院	押川 紘一郎	24
近況報告インタビュー ～関連病院編～		
宮崎大学整形外科学教室 近況報告		
整形外科 診療状況報告		25
下肢グループ		39
脊椎グループ		39
スポーツ・上肢グループ		40
リハビリテーション部		41
救命救急センター		41
学会賞受賞・学位取得報告		
JOA-KOA traveling fellowship のご報告	横江 琢示	42
第 1 回日本膝関節学会優秀ポスター賞の受賞報告	森田 雄大	44
第 17 回宮崎整形外科医学奨励賞の受賞報告	川野 啓介	45
第 17 回宮崎整形外科医学奨励賞を受賞して (学位取得報告も含めて)	永井 琢哉	46
学位取得 報告 “Insertion sites of the muscles attached to the clavicle: a cadaveric study of the clavicle”	今里 浩之	47

短期留学支援 報告

短期留学支援 報告

Kyushu Shoulder Arthroscopy Course in Hawaii に参加して	神谷 俊樹 . . .	48
--	-------------	----

同門会・医局行事

第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会を終えて . .	荒川 英樹 . . .	49
第25回同門会テニス大会報告	尾田 朋樹 . . .	50
第30回同門会ゴルフ大会を終えて	平川 雄介 . . .	51
第20回帖佐杯ゴルフ大会報告	益山 松三 . . .	52
2023年西日本整形外科親善野球大会のご報告	長澤 誠 . . .	54
第97回日本整形外科学会学術総会 サッカー大会を振り返って	藤田 貢司 . . .	55
野球検診報告 2023	大野 鉄平 . . .	56
2024年 医局旅行 in 霧島	肥後 聖 . . .	57

開院の御挨拶

開院の挨拶	川畑 武彦 . . .	59
開院の挨拶	深尾 悠 . . .	61

新入会員紹介（賛助会員）

入会のご挨拶	菅田 真生 . . .	63
------------------	-------------	----

新入会員紹介（正会員）

自己紹介	佐々木 一駿 . . .	64
自己紹介	榊 昂典 . . .	65
自己紹介	鮫島 勇汰 . . .	
自己紹介	田中 涼太 . . .	66
自己紹介	土屋 慧祐 . . .	
自己紹介	山下 紀美子 . . .	67
自己紹介	坂本 竜一 . . .	
自己紹介	天野 翔太 . . .	68

1年を振り返って		69
--------------------	--	----

同門会総会議事報告		73
---------------------	--	----

教室同門の研究業績（2022年）		75
----------------------------	--	----

編集後記	大田 智美 . . .	107
----------------	-------------	-----



御挨拶

同門会 会長

ひらかわ整形外科クリニック 平川 俊一

宮崎大学整形外科教室も今年、開講 50 周年を迎えました。宮崎医科大学として開学致しましたが、2003 年に宮崎大学との統合が行われました。宮崎医科大学の名前がなくなりました時には寂しさを覚えましたが、いつの間にか宮崎大学整形外科教室の名称にも慣れ親しんできました。

開学時は玉井達二病院長、木村千仞助教授でスタートしたと伺っております。木村先生が教授に就任され、田島直也先生が助教授として赴任されました。その半年後に私達の学年が入局いたしました。教室員合計 10 数名の時であり、関連病院もまだ在りませんでした。その後年を追うごとに入局があり教室の形が作られていきましたし、宮崎県における地域医療を担うようになりました。

木村教授はリウマチ、関節外科を専攻され、田島教授は脊椎外科、スポーツ医学を専攻されましたが、追って宮崎県のスポーツランド構想が出てまいりました。帖佐悦男教授は股関節外科、スポーツ医学、ロコモティブシンドロームを主導されました。ロコモティブシンドロームは今では日本整形外科学会の活動の主要な柱となっています。今年の 10 月から亀井直輔先生を新教授としてお迎えし、先生の御専門は脊椎外科、再生医療医学と伺っております。更なる教室の発展を期待いたします。

教室が刻んできました五十年の歴史は、諸先輩方と現在の教室員の努力の賜物です。数少な

い教室員で力を合わせ関連病院を増やし維持して、地域医療に貢献してきました。しかしながら教室の刻んだ歴史も一般社会の変化、度々変わる政府の推し進めた行政改革、この数年ではコロナによるパンデミックの発生と無関係ではありませんでした。今の時期になって厳しく感じる事は、患者の医療に対する意識の変化、医療に対する過大な要求です。昭和 50 年の平均余命は大凡 70 歳であったものが、この五十年間に十年以上伸びており、人生百年時代という言葉も出来てきました。20 年間持てば良しとした術式や治療に対する考え方も平均寿命の延伸により実情に合わないものと成り果てました。我々をとりまく医療制度も日本経済の栄枯盛衰と無関係でなく、それもまた人口数の減少に影響を受けています。現在の人口ピラミッドは歪な形を呈しており、将来は極々小さなピラミッドが出来上がりそうです。当然医療介護の現場も働き手が減少し、更に働き方改革と銘打って労働時間の短縮が義務付けられました。過重労働を防ぎ医療人の保護にはなっていますが、現場の働き手の減少という形で医療の縮小を余儀なくされるという影響を及ぼしています。

日々の変化は小さくともこの五十年間の時代の変化は予想もつかなかった程の大きいものがあったと思います。医学の発展が皆様の健康幸福に役立つ事は真理であると思っています。



新入教室員歓迎

宮崎大学医学部附属病院 コミュニティ・メディカルセンター
特別教授 田野病院 帖 佐 悦 男

「令和6年度」を迎え、先生方におかれましては、新たな気持ちで、診療にあたられていることと思います。日本では能登半島地震、羽田空港航空機事故と痛ましい出来事から始まり記録的豪雨が各地で発生しました。宮崎では日向灘地震（南海トラフ地震注意）、台風（竜巻）、宮崎空港不発弾爆発など全国でも取り上げられる出来事が発生しました。被害に遭われました方々にお見舞い申し上げます。

宮崎県は、九州唯一の医師少数県ですが、今年度は佐々木一駿先生、柿昂典先生、鮫島勇汰先生、田中涼太先生、土屋慧祐先生、山下紀美子先生、天野翔太先生、リハビリ科に坂本竜一先生を新入教室員として迎えることができ、同門会員一同大変喜んでおります。これから専門医を目指す先生方には、夢と目標、情熱をもって診療・研究に励んで頂きたいと思っています。

新しく開始された専門医制度では様々な領域の疾患を経験する必要があります。保存療法はもちろん、十分な手術症例の経験を積むことができるのが宮崎大学医学部附属病院整形外科専門研修プログラムの特徴の一つです。また、リハビリテーション専門医を取得することもできます。教室員一丸となって教育・診療・研究・地域貢献を実施しますので、若い先生方には様々な症例を経験し、是非多くのことを学んでほしいと思います。

運動器を扱う地方の整形外科医は、自分の専門を二つ以上持つことが望ましいと思いますの

で、専門医を取得した後は、多様なスペシャリティで自分の理想像を目指して励んでください。もちろん研究に専念したい場合は大学院へ進むことも貴重な経験になりますし、当大学には夜間大学院制度を活用して研究している先生方も多数在籍しています。

さて、大学に関しては大型プロジェクトとして、ミッション実現戦略経費の健康寿命日本一に向けた異分野融合研究を行っています。循環動態生理学分野の渡邊望教授を代表者として、循環器と運動器を中心に行うプロジェクトで様々な事業を開始しています。また、田島卓也先生がスポーツ庁の「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」を進めています。その他、ロコモ関連事業として延岡市でのNobel-studyや国循との共同研究も継続して実施しています。そして、10月から亀井直輔先生が教授に就任され、先生のライフワークである再生医療が加わることでさらに幅が広がりますので、教室員の先生方は夢と希望をもって研究・臨床に邁進してもらいたいと思います。

教育においては、整形外科は旧制度と並行して新専門医制度を開始しており、昨年もCBT形式で実施されている専門医試験を受験した先生方全員が見事に合格し嬉しい限りです。卒前教育と卒後教育を通して人間味のある医師を養成し、整形外科専門医で subspecialty 医師を育成し、同時にリハビリテーション科の専門医も育成してまいります。また、要支援・要介護

になる原因として運動器の障害が最も多くの割合を占めていますので、リハビリテーション医学・医療は整形外科においても診療の中心であり、地域医療分野では今後益々重要な位置を占めることは間違いありません。

一方、児童・生徒の健全な発育・発達のため、運動器を中心に宮崎から様々な対策を発信してきました。本年度は河野県医師会会長が全国学校保健・学校医大会を主催されました。その際、法制化された運動器検診の課題や特に側弯症検診の問題が指摘されました。本県も参画しています新たな機器を利用した側弯症検診プロジェクト研究の今後の動向を注視する必要があります。また、超高齢社会ならびに 2027 年に宮崎で開催されます国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向け、宮崎県、宮崎市や宮崎大学の重点事業にも指定されてます「スポーツメディカルランド宮崎」、「ロコモザワールド宮崎」構想をより一層進めていただきたいと思っています。

教室主催の全国学会に関しまして、昨年度は、宮崎で初めての「第 7 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会：2023 年 11 月 3 日～5 日」を、現地とオンデマンド形式で開催し、多くの方々にご参加を頂き成功裏に終了することができました。これもひとえに教室・同門の先生方や準備・運営にあたって頂きました多くの皆様のお蔭です。あらためまして御礼申し上げます。

新たに 8 名の新入教室員を迎え地方大学としては有り難いところですが、整形外科医の担う対象患者数の多さを考えますと、関連病院への医師派遣が十分とは言えない状況が続いています。幸い教室・同門の先生方のご理解・ご支援により、どうにか乗り切ることができています。地域・社会貢献を使命として、保存療法から手術療法まで地域に必要とされる医療を提供できる医師を育成していくことで、私たち宮崎大学医学部整形外科の将来は明るいと確信しております。このように教育制度や研修施設など受け入れ体制は充実していますので、教室員のみならず同門の先生方におかれましても、今後多くの教室員が増えますようご協力をよろしくお願い致します。

最後になりましたが、亀井直輔先生が教授に就任されましたので、新たな気持ちで教室員一丸となり質の高い臨床・研究を実施し、地域社会に開かれた特色ある臨床外科系講座として貢献していただきたいと思います。本年度は、教室開講 50 周年を迎え、これからの 100 周年を目指す節目の年でもあります。教室のみならず会員も年齢を重ねてきております。くれぐれも健康には十分ご留意いただき、これまで以上のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

教室・同門の先生方の今後ますますのご活躍と、教室・同門の発展を祈念して筆を置くこといたします。



医局長挨拶

宮崎大学医学部整形外科学教室 中村 嘉宏

シャウカステン(独 Schaukasten)を知らない？

皆さま、こんにちは。2022年4月1日より医局長を務めております中村嘉宏です。このたび、医局長就任3年目を迎えるにあたり、ご挨拶を申し上げます。当教室は、初代の木村千仞教授が宮崎医科大学整形外科として開局されて以来、二代目の田島直也教授、三代目の帖佐悦男教授へと伝統を引き継ぎながら発展してきました。そして2024年10月、新たに亀井直輔教授が就任され、新体制のもとで新たなスタートを切りました。

亀井教授は、孔子の言葉「これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」を理念に掲げ、「知る」「好む」「楽しむ」という三段階の精神を基盤とした診療・研究・教育を推進されています。また、「学ばずにはいられない環境」を目指し、医局全体の活性化にも尽力されております。

働き方改革への対応

2024年4月から、「医師の働き方改革」が本格的に始動しました。長時間労働が当たり前とされてきた日本の医療現場において、働きやすい環境の整備は喫緊の課題です。当教室でも、この改革を機に、働き方の見直しと改善に取り組んでいます。亀井教授は、厚生労働省が掲げる「多様な働き方を選べる社会の実現」に応え

るため、医局員一人ひとりが「知る」「好む」「楽しむ」を効率的に実現できる職場環境の構築を目指しています。

多様性を尊重した活力ある医局づくり

当教室には、個性豊かで多様な専門性を持つ整形外科医が集まっています。それぞれが「知りたい」「好む」「楽しむ」という意欲を持ち続けられる環境を整えることで、医局全体の活力が高まり、個々が「学ばずにはいられない」と感じられる組織を築けると信じています。

亀井教授が掲げるもう一つの理念は「楽しく働く」です。「楽しく働く」とは、単に結果としての楽しさを得るだけでなく、目標を設定し、やりがいを感じ、良好な職場環境を作るプロセスそのものを指します。その一環として、若手医師が早期に経験を積む「Early Exposure（早期体験）」の機会を充実させ、若手医師が生き生きと働き、やりがいを実感できる場を提供しています。

時代の変化に適応する学び方

時代の進展に伴い、整形外科の学び方も変化を遂げています。現在では電子カルテやデジタル画像データが普及し、必要な情報が即座に得られる環境が整っています。先日、「シャウカステンで見てみようか？」と提案したところ、若い専攻医から「シャウカステンって何です

か？」と問われました。かつて診療に欠かせなかったシャウカステンも、今や過去の遺物になりつつあります。

また、手術技術の進歩が速い現代では、分厚い教科書よりも、YouTubeなどの動画を活用した学習が効率的で実践的とされる場面も増えています。このような新しい学び方が一般化する中で、膨大な情報から必要なものを選び出す「鋭い審美眼」を育むことも重要な課題となっています。

効率が重視される現代において、適切なツールを活用して必要な知識や情報を効率よく得る

ことは不可欠です。しかしながら宮崎大学整形外科の根底にある philosophy である「患者を治したいという情熱」は今後も脈々と受け継がれることと思います。当教室では、こうした過去を重視しながらも新しいスタイルを積極的に取り入れつつ、医局員全員が成長しやりがいを持てる環境を構築していくことになると思います。

これからも、皆さまのご協力を賜りながら、医局のさらなる発展に向けてご支援いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



シャウカステンを前にカンファレンスされている様子
(木村先生、田島先生、帖佐先生など)

宮崎大学医学部整形外科学教室同門会のあゆみ

1974 (昭和 49) 年 6 月	宮崎医科大学設置
1977 (昭和 52) 年 10 月	宮崎医科大学医学部附属病院
1978 (昭和 53) 年	同門会設立 (会長: 木村千仞先生)
1979 (昭和 54) 年 1 月	木村千仞教授就任
1980 (昭和 55) 年	整形外科野球チーム “Sun and Green” の結成
2 月	第 16 回九州リウマチ研究会
1981 (昭和 56) 年 11 月	第 62 回西日本整形・災害外科学会
1985 (昭和 60) 年	宮崎医科大学整形外科学教室開講 10 周年記念
1986 (昭和 61) 年 7 月	第 27 回九州リハビリテーション医学懇話会
	第 14 回日本リウマチ・関節外科学会
10 月	同門会会則の発効
1987 (昭和 62) 年 2 月	木村千仞先生還暦祝い
1988 (昭和 63) 年 1 月	同門会誌創刊
1990 (平成 2) 年 3 月	木村千仞教授退官
4 月	田島直也教授就任
5 月	田島直也教授就任祝賀会
10 月	河野雅行先生会長就任



昭和 51 年 12 月 附属病院棟周辺環境工事 (大学 HP より)



昭和 52 年 10 月 29 日宮崎医科大学竣工・附属病院開院記念式典挙行(大学 HP より)



昭和 54 年開院時の医局スタッフ

- | | |
|---------------------|---|
| 1990 (平成 2) 年 11 月 | 第 80 回西日本整形・災害外科学会 |
| 1991 (平成 3) 年 | 第 4 回九州スポーツ医・科学会 |
| 1992 (平成 4) 年 10 月 | 第 39 回九州リハビリテーション医学会懇話会 |
| 1993 (平成 5) 年 3 月 | 第 2 回日米整形外科スポーツ医学会国際会議 |
| 7 月 | 第 19 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 |
| 1994 (平成 6) 年 5 月 | 宮崎医科大学整形外科学教室開講 20 周年記念
第 44 回九州リウマチ研究会
(第 7 回日本リウマチ学会九州支部九州リウマチ学会) |
| 1996 (平成 8) 年 11 月 | 第 30 回日本側弯症学会 |
| 1997 (平成 9) 年 10 月 | 田島直也教授還暦のお祝い |
| 11 月 | 第 48 回西日本脊椎研究会 |
| 1998 (平成 10) 年 4 月 | 第 8 回日台整形外科シンポジウム |
| 11 月 | 第 25 回臨床バイオメカニクス学会 |
| 11 月 | 第 6 回日本腰痛研究会 |
| 1999 (平成 11) 年 2 月 | 第 5 回日本リハビリテーション医学会九州地方会 |
| 1999 (平成 11) 年 3 月 | 第 54 回九州リウマチ研究会
(第 17 回日本リウマチ学会九州支部九州リウマチ学会) |
| 11 月 | 第 98 回西日本整形・災害外科学会 |
| 2000 (平成 12) 年 10 月 | 第 11 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 |
| 2002 (平成 14) 年 6 月 | 第 31 回日本脊椎椎髓病学会 |
| 2003 (平成 15) 年 3 月 | 田島直也教授退官記念会 |
| 2003 (平成 15) 年 10 月 | 宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、宮崎大学を創設 |



昭和 55 年 新入医局員歓迎会



昭和 57 年 10 月 宮崎医科大学全体写真 (医学部 HP より)



昭和 59 年 6 月 30 日 宮崎医科大学
整形外科科学講座 開講 10 周年記念祝賀会



昭和 62 年 10 月 宮崎医科大学医学部
附属病院 開院 10 周年記念式典

- 2004 (平成 16) 年 5 月 帖佐悦男教授就任
- 7 月 帖佐悦男教授就任祝賀会
- 11 月 宮崎医科大学整形外科科学教室開講 30 周年記念
- 2006 (平成 18) 年 3 月 第 31 回九州リウマチ学会
- 2007 (平成 19) 年 1 月 第 23 回九州小児整形外科集談会
- 2 月 第 21 回日本リハビリテーション医学会 九州地方会
- 2008 (平成 20) 年 8 月 第 15 回西日本整形外科スポーツ医学研究会
- 11 月 第 116 回西日本整形・災害外科学会学術集会
- 2011 (平成 23) 年 8 月 第 11 回大学生・高校生のためのスポーツ医学セミナー
- 2012 (平成 24) 年 5 月 第 85 回日本整形外科学会学術総会親善野球大会優勝
- 8 月 第 8 回学生のためのスポーツ医学セミナー
- 2013 (平成 25) 年 12 月 木村千仞先生米寿祝賀会
- 2014 (平成 26) 年 2 月 第 35 回九州手外科学会
- 2 月 第 35 回日本リハビリテーション医学会・九州地方会
- 3 月 第 50 回宮崎県スポーツ学会 記念大会
- 2014 (平成 26) 年 4 月 宮崎大学医学部整形外科科学教室開講 40 周年記念祝賀会
- 帖佐悦男教授就任 10 周年記念祝賀会
- 9 月 田島直也先生喜寿祝賀会
- 2015 (平成 27) 年 7 月 第 27 回日本運動器科学会
- 11 月 第 130 回西日本整形・災害外科学会学術集会
- 2017 (平成 29) 年 9 月 第 43 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会
- 11 月 帖佐悦男先生還暦祝賀会



平成 2 年 4 月 21 日 木村千仞教授退官記念



平成 2 年 5 月 26 日 田島直也教授就任記念



平成 15 年 3 月 22 日 田島直也教授退官記念会

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 2018 (平成 30) 年 12 月 | 第 31 回九州・山口スポーツ医・科学研究会 |
| 2019 (令和 1) 年 8 月 | 第 26 回西日本整形外科スポーツ医学研究会 |
| 8 月 | 第 62 回西日本整形外科親善野球大会 |
| 10 月 | 第 46 回日本股関節学会学術集会 |
| 2020 (令和 2) 年 11 月 | 第 31 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 |
| 2021 (令和 3) 年 11 月 | 第 48 回日本臨床バイオメカニクス学会 |
| 2022 (令和 4) 年 2 月 | 第 51 回日本リハビリテーション医学会・九州地方会 |
| 10 月 | 第 37 回日本整形外科学会基礎学術集会 |
| 2023 (令和 5) 年 11 月 | 第 7 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 |
| 2024 (令和 6) 年 3 月 | 帖佐悦男教授退官 |



平成 16 年 7 月 3 日 帖佐悦男教授就任祝賀会



平成 16 年 11 月 20 日
宮崎大学医学部整形外科学教室開講 30 周年記念会



令和 6 年 9 月 28 日
帖佐悦男先生を囲む会 (退官記念) 1



令和 6 年 9 月 28 日
帖佐悦男先生を囲む会 (退官記念) 2



初代教授

1979～1990

木村 千仞

【経歴】

昭和 25 年 3 月 第五高等学校理科卒業
 昭和 29 年 3 月 熊本医科大学卒業
 昭和 34 年 3 月 熊本大学大学院医学研究科（整形外科科学）
 博士課程修了
 昭和 29 年 1 月 長崎県西彼杵郡高島町三菱高島礦業所病院にて
 医学実地修練
 昭和 30 年 3 月 同実地修練終了
 昭和 30 年 4 月 熊本大学附属体質医学研究所病理学講座に
 研究員として入局
 昭和 30 年 6 月 大学院入学のため同講座を退局
 昭和 34 年 4 月 国立鹿児島療養所 厚生技官（整形外科医長）
 昭和 36 年 6 月 熊本大学医学部 助手（整形外科科学）
 昭和 38 年 12 月 熊本大学医学部附属病院 講師
 昭和 46 年 9 月 文部省在外研究員として「リウマチおよび
 関節の外科」研究のため 1 年間欧米出張
 帰国
 昭和 47 年 8 月 宮崎医科大学 助教授
 昭和 49 年 6 月 宮崎医科大学 教授就任
 昭和 54 年 1 月 宮崎医科大学 教授退官
 平成 2 年 3 月 宮崎医科大学 教授退官
 平成 2 年 4 月 医療法人善仁会 市民の森病院顧問
 平成 5 年 4 月 医療法人弘仁会 熊本総合医療福祉学院長
 （平成 6 年 3 月退任）
 平成 5 年 4 月 医療法人寿量会 熊本機能病院顧問
 （平成 25 年 3 月退任）

【主催学会】

昭和 56 年 11 月 第 62 回西日本整形・災害外科学会
 昭和 61 年 10 月 第 14 回日本リウマチ・関節外科学会



S52.8.20 開院前の医局旅行（志布志大黒）



医学部開講 10 周年記念祝賀会



S61.10 第 14 回日本リウマチ・関節外科学会



S55.8.24 野球大会初出場（初戦完敗）



木村先生退官記念会



第二代教授

1990～2003

田島 直也

【経歴】

昭和37年 3月 長崎大学医学部卒業
昭和38年 5月 医師免許取得
昭和42年 3月 医学博士
昭和45年 4月～昭和46年3月 英国留学
(Stoke Mandeville Hospital, Aylesbury, Bucks, England Royal National Orthopaedic Hospital, London and Stanmore, England)
昭和48年 1月 長崎大学医学部附属病院整形外科 講師
昭和50年 3月～4月10日 東南アジアにおける Medical Rehabilitation に関する調査 (フィリピン、シンガポール、タイ) <財団法人日本国際医療団>
昭和52年 3月 長崎大学医学部整形外科 助教授
昭和52年 4月 三菱重工長崎造船所病院整形外科 医長
昭和54年 11月 宮崎医科大学医学部整形外科 助教授
昭和56年 12月～昭和57年9月 文部省在外研究員・スウェーデン、アメリカ、カナダ留学 (University of Gothenburg, Pittsburgh and Toronto)
平成 2年 4月 宮崎医科大学整形外科 教授就任
平成 14年 4月 宮崎医科大学医学部医学科長
平成 15年 3月 宮崎医科大学医学部 教授退官
平成 15年 4月 宮崎医科大学名誉教授 (現宮崎大学名誉教授)
平成 15年 4月 財団法人弘潤会野崎東病院メディカルセンター長
平成 16年 4月 財団法人弘潤会野崎東病院病院長
平成 23年 4月 財団法人弘潤会野崎東病院名誉院長

【主要・主催学会】

平成 5年 3月 第2回日米整形外科スポーツ医学会国際会議
Hawaii (The 2nd AOSSM Trans-Pacific Meeting)
平成 5年 7月 第19回日本整形外科スポーツ医学会
平成 8年 11月 第30回日本側弯症学会
平成 10年 11月 第25回日本臨床バイオメカニクス学会
平成 10年 11月 第6回日本腰痛研究会
平成 10年 4月 第8回日台整形外科シンポジウム
(The 8th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium)
平成 12年 10月 第11回日本臨床スポーツ医学会学術集会
平成 14年 6月 第31回日本体育科学学会

宮崎大学医学部開講 50 周年に寄せて

宮崎大学医学部は、此度 50 周年を迎えることになりました。宮崎大学医学部の前身の宮崎医科大学は昭和 48 年に大学準備室ができ、昭和 49 年 6 月 7 日に開学しました。宮崎医科大学の開学の柱として「医の倫理に徹した人間形成を基盤に高度に発達した医学知識を習得させ、信頼しうる臨床及び医学教育者を育成する」とあります。新設医大の創設目的としてはまず、地域医療の充実が上げられました。整形外科学教室の方は、当初、熊本大学整形外科教室から木村千仞講師が整形外科主任、助教授として赴任され、平成 2 年に教授に昇任されここに、宮崎医科大学整形外科講座が誕生いたしました。

私は昭和 54 年 11 月に長崎から助教授として着任し、その後、平成 2 年 4 月から平成 15 年 3 月まで主任教授として勤めさせていただきました。在籍したのは、23 年 5 カ月でした。開講当初の 5 年間は、研究棟・病院の建設された時期であり、まさに創世期で学生教育、診療、研究と大変多忙な時期でした。

昭和 54 年ごろは教室員も 5～6 名でしたが、次第に出身大学が異なる入局者も増えてきました。全員のコミュニケーションをはかる目的もあり、野球を取り入れました。しかし、初めは院内医局対抗戦でも敗戦が続きましたが私が退官する頃には、全国トップクラスのチームになっていました。

木村千仞初代教授が在任された時は教室の充実、発展期にあたった時期で、木村教授は全国規模の学会として初めて昭和 61 年日本関節リウマチ外科学会を主催されました。その後、私の時は次第に主催する学会も増え、全国規模の学会として日本脊椎椎間病学会、日本整形外科スポーツ医学会、日本側弯症学会、日本臨床バイオメカニクス学会、日本腰痛学会、日本臨床スポーツ医学会等を開催しました。又、日米整形外科スポーツ医学会をハワイで共同開催しました。学会を開催することは負担も大きい面もありますが、自分達の研究成果を発表し、パネル・シンポジウムに参加できるチャンスでもあります。しかし、学会開催に当たり同門の他、県医師会の先生にも多大の協力を頂きましたことを改めて御礼申し上げます。

平成 16 年 5 月から令和 6 年 3 月まで帖佐悦男教授が教室を主宰され、教室の発展円熟期を迎え教室主催の学会も増え、日本整形外科学会基礎学術集会、日本リハビリテーション学会秋季学術集会、日本股関節学会、日本臨床スポーツ医学会等、日本整形外科スポーツ学会、日本運動器科学会、日本臨床バイオメカニクス学会等多くの学会を主催されました。特に関本朝久講師を中心として遺伝子関節の研究等は素晴らしい業績をあげられました。一方、スポーツ医学関連では、地域はもとより全日本クラスの野球、サッカー、ラグビー等のチームドクター、大会帯同ドクターを出し、スポーツランド宮崎を支援し社会的大きな貢献をしています。帖佐教授は令和 3 年 10 月から 3 年間宮崎大学附属病院院長を務められました。教室だけでなく病院全体のかじとりをされ、大学病院の大きな実績をあげられました。長い歴史からみると、50 周年は一つの通過点ですが過去 50 年の現状をもとに今後 50 年が始まります。亀井教授の下に新しい宮崎大学整形外科がさらなる発展を遂げられることを心から祈願し宮崎大学医学部開講 50 周年に寄せての言葉とします。



平成2年5月26日 田島教授就任祝賀会



平成5年7月22日
第19回日本整形外科スポーツ医学会学術集会



平成6年 野球大会



平成11年4月19日 SICOT



平成13年7月12日 記念写真



H15年1月24日 田島直也先生記念会



平成24年10月 桑田真澄さんと



平成26年9月23日 田島直也先生喜寿祝賀会



第三代教授

2004～2024

帖佐 悦男

【経歴】

昭和 52 年 3 月 鹿児島県立鶴丸高等学校 卒業
 昭和 59 年 3 月 大分医科大学医学部医学科 卒業
 昭和 59 年 6 月 宮崎医科大学附属病院医院 整形外科入局 研修医
 昭和 61 年 1 月 熊本市立熊本市市民病院麻酔科
 昭和 61 年 7 月 宮崎医科大学医学部附属病院整形外科 医員
 昭和 62 年 1 月 宮崎県立こども療育センター整形外科 医師
 昭和 62 年 7 月 高千穂町国民健康保険病院整形外科 医師
 昭和 63 年 7 月 宮崎社会保険宮崎江南病院整形外科 医師
 平成 2 年 7 月 宮崎医科大学医学部附属病院整形外科 医員
 平成 3 年 5 月 宮崎医科大学医学部整形外科 助手（教官助手）
 平成5年9月～平成6年8月 スイスベルン大学留学
 平成7年4月～平成7年7月 スイスベルン大学留学
 平成 9 年 2 月 宮崎医科大学医学部整形外科 講師（教官講師）
 平成 10 年 5 月 宮崎医科大学医学部整形外科 助教授（教官助教授）
 平成11年12月～平成12年3月 スイスベルン大学留学
 平成 15 年 10 月 宮崎大学医学部整形外科 助教授（教官助教授）
 平成 16 年 5 月 宮崎大学医学部整形外科 教授就任
 平成 16 年 5 月 宮崎大学医学部附属病院 リハビリテーション部 部長
 平成 17 年 10 月 宮崎大学医学部附属病院 副病院長
 平成 28 年 1 月 宮崎大学医学部附属病院リハビリテーション科 科長
 平成 28 年 4 月 宮崎大学医学部附属病院 副病院長
 平成 30 年 10 月 宮崎大学医学部 副学部長
 令和 2 年 10 月 宮崎大学 学長特別補佐
 令和 3 年 10 月 宮崎大学 理事 宮崎大学医学部附属病院 病院長
 令和 6 年 3 月 宮崎大学医学部整形外科 教授退官

【主催学会】

平成 19 年 1 月 第 23 回九州小児整形外科集団会
 平成 19 年 2 月 第 21 回日本リハビリテーション医学会九州地方会
 平成 20 年 8 月 第 15 回西日本整形外科スポーツ医学研究会
 平成 20 年 11 月 第 116 回西日本整形外科・災害外科学会
 平成 24 年 8 月 第 8 回学生のためのスポーツ医学セミナー
 平成 26 年 2 月 第 35 回九州手外科研究会
 平成 26 年 2 月 第 35 回日本リハ医学会九州地方会
 平成 27 年 7 月 第 27 回日本運動器科学会
 平成 27 年 11 月 第 130 回西日本整形・災害外科学会
 平成 29 年 9 月 第 43 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会
 平成 30 年 2 月 第 51 回宮崎救急医学会
 平成 30 年 12 月 第 31 回九州・山口スポーツ医・科学研究会
 令和 元年 8 月 第 26 回西日本整形外科スポーツ医学研究会
 令和 元年 9 月 第 62 回西日本整形外科親善野球大会
 令和 元年 10 月 第 46 回日本股関節学会学術集会
 令和 2 年 10 月 第 31 回日本臨床スポーツ医学会学術集会
 令和 3 年 11 月 第 48 回日本臨床バイオメカニクス学会
 令和 4 年 2 月 第 51 回日本リハビリテーション医学会・九州地方会
 令和 4 年 10 月 第 37 回日本整形外科学会基礎学術集会
 令和 5 年 11 月 第 7 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会

医学部開講 50 周年に寄せて

この度、教室開講 50 周年を迎え歴史の重みを感じるとともに、節目を迎えることができましたので皆様方と振り返りたいと思います。

宮崎医科大学は昭和 49 年に新設医科大学として開学し、同年 6 月 7 日に木村千仞先生が熊本より助教授として赴任され開講しました。昭和 52 年に附属病院が開院し、昭和 54 年 1 月に初代教授に木村千仞先生が就任されました。その当時は同門会名誉会員の玉井達二先生が第二代学長になられていました。研究棟や病院の新設時期に加え、数少ない教職員で教育・研究・診療を行うなど、創設期ならではの苦労が多かったことと拝察いたします。そして、昭和 54 年に田島直也先生が長崎より赴任され木村教室の体制が確立しました。

木村千仞教授時代は、関節リウマチを中心に保存療法から、手や肘関節の形成術、膝・股関節の人工関節置換術、脊椎固定術などの手術療法を実施され、中間挿入膜、骨塩量や機能評価に関する臨床研究を実施されました。私も入局した際、骨塩量を測る機械を操作したことを思い出します。

その後、平成 2 年 4 月に田島直也先生が第二代教授に就任されました。田島先生は、ライフワークであります脊椎外科やスポーツ医学の推進に尽力され、脊椎疾患の中でも腰椎後側方固定術、脊柱管拡大術、田島式後方インスツルメンテーション固定術を実施されました。また、国立大学病院として初めてのスポーツ外来の設置、診療だけでなく、多くの帯同・専属医師の養成に尽力されるなど宮崎県の地域医療の充実を推進され、研究・教育に関しましても着実に実績をあげてられました。

両先生をはじめとしまして教職員・事務・研究員・病院スタッフなど全てのスタッフの努力の甲斐があり、開講以来の同門数は 292 名となり、関連病院・施設へと発展を遂げ、本学で最も大きな教室のひとつとなっております。また、年間 1500 件の手術を実施し現在同規模クラスの大学病院ではトップクラスの実績で地域医療に貢献しています。50 年にわたり、教室を支えていただきました教職員、同門の先生方、大学・附属病院関係者、関連病院関係者に深甚なる感謝の意を表します。

私個人としましては、昭和 59 年に卒業後、木村千仞教室に入局し、主に関節リウマチや脊椎を中心に学びました。当時は、病院数や整形外科医が少なかったこともあり外傷を含め様々な疾患を経験できたので、運動器をトータルな面から考えることができ、このことが現在の診療・教育・研究に大変役立ちました。

田島直也先生のもとで、学生教育ではコアカリキュラム、診断学実習や OSCE などを担当し、臨床は下肢関節やスポーツを中心に行いました。また、ベルン大学（GANZ 教授）に留学する機会をいただき、股関節を中心に関節外科や外傷の臨床および研究を行いました。研究に関しては、臨床で疑問に感じたクリニカルクエストを中心に研究し、臨床ヘフィードバックするという臨床外科医にとり非常にありがたい環境を与えていただきました。

教室として、臨床ではグループ制（脊椎、下肢、上肢、スポーツ）の充実を図ることで、最新の安心安全な治療法を実施することで地域貢献をはかってきました。

脊椎班は幅広く多くの疾患の治療を行い、合併症を有する高齢者の手術が増加し、椎体形成術や経皮的椎弓根スクリューを用いた多椎間固定など顕微鏡、O-armや電気生理学的機器を用い低侵襲脊椎手術を推進してきました。社会活動として、側弯症学校検診を継続して行い、県内の脊柱変形患者の早期発見に努めています。

上肢班は変形性関節症、キーンベック病、絞扼性神経障害、機能再建、リウマチ性関節症、先天性疾患などの手術的治療を行い、肩・肘・手関節疾患では、鏡視下手術を実施しています。少年野球検診は、上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の早期発見につながり、保存療法で障害なく治癒する選手が増えています。

スポーツ班は膝関節、足関節疾患を中心に多くの鏡視下手術を行い、前十字靭帯損傷を中心に臨床研究をすすめてきました。診療だけでなく多くの帯同・専属医師を養成し日本代表（サッカー、ラグビー、パラスポーツなど）やスポーツ選手のメディカルサポート（スポーツメディカルランド宮崎：野球検診・国スポ障害検診）を実施しています。また、ロコモティブシンドロームの啓発や予防活動（ロコモザワールド宮崎：児童・生徒の運動器検診）をいち早く取り入れ、産官学連携のもと「健康寿命延伸」を目指しています。今後、再生医療の推進が期待されます。また、県内の各施設で同門会員がそれぞれの専門分野において活躍してきました。

研究活動はこれまでの研究を踏襲し、1) 椎間板の実験的研究（Chemonucleolysis など）、2) バイオメカニクス（①有限要素法：脊椎疾患、スポーツ整形領域でみられる疲労骨折、股関節や人工膝関節置換術後、股関節骨切り術などの力学解析）②インストルメント：新しいインストルメント・マテリアル：脊椎、股関節などの開発）、3) 骨粗鬆症の病理学的研究、4) 生体の運動制御システムの共同研究（VK Goel 教授）5) アドレノメデュリン（生体活性ペプチド）の関節リウマチとの関連性を明らかにしました。また、骨・軟骨

疾患や関節リウマチに対し新規遺伝子の単離、およびそのノックアウトマウスの解析や遺伝子工学を用いた研究を熊本大学と行い国内外に報告しています（関本准教授）。6) スポーツ外傷・障害の病態解明（文科省特別教育研究経費）、7) ロコモティブシンドロームに関する啓発・治療法の開発など医工連携（ロボット、人工半月板など：山子工学部准教授）、国際共同研究（Verdonschot 教授）を実施し特許の取得や社会実装につなげています。8) リハビリテーション医学に関する研究（現リハビリテーション部荒川英樹教授）、9) HMGB2 に関する研究や肩関節疾患の病態解明（現鹿児島大学谷口昇教授）、10) 関節内血腫による軟骨変性の原因究明、膝靭帯損傷に関するトランスレーショナルリサーチやラグビー競技に関する共同研究など（田島卓也准教授）を行っています。以上について、教室員に加え、海外から大学院留学生を受け入れており多くの研究結果を国内外に発信し、特許の取得や国内外で数多く受賞するなどの評価を受けてきました。

2024 年 10 月に赴任された亀井直輔教授の再生医療等の研究も加わることで研究領域の幅がさらに広がり新たな発展が期待されます。

このような研究結果の報告ならびにフィードバックすることで、患者さんにとってより良い診療につながっています。

さらに、教室員・同門会員全てのスタッフの臨床・研究活動を通して全国学会や国際学会等を開催し、本学のスローガンである「世界を視野に地域から始めよう」を実施しました（表 1）。

今後も教室員の和を大切に、質の高い臨床・研究を行い、学内外連携を推進し開かれた特徴ある臨床外科講座として貢献してもらいたいと思っています。

そのためにも、私たち教室員だけですばらしい花を咲かせることは困難ですので、皆様方の御指導・御鞭撻をこれまで以上によりしくお願い申し上げます。

最後になりますが、宮崎大学医学部整形外科教室ならびに同門会の益々の発展を祈念し、開講 50 周年の寄稿とさせていただきます。



平成 27 年 11 月 第 130 回西日本整形・災害外科学会



平成 30 年 9 月 22 日 タイ バンコクでのキャダパートレーニング



令和元年 10月25日
第46回日本股関節学会学術集会 会長



令和4年 10月13日
第37回日本整形外科学会基礎学術集会 会長



令和5年 11月3日 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 会長



医局集合写真



令和5年 12月10日 第37回青島太平洋マラソン 2023



令和6年 9月 手術時



整形外科開講 50 周年

宮崎県医師会 会長
河野 雅行

医学部 50 周年、重ねて整形外科開講 50 周年おめでとうございます。以前の同門会誌にも寄稿しましたので、新たに述べる程の話題も無く既稿の繰り返しになりますが、年寄りの昔話・繰り言として受け止めていただければ幸いです。古い事柄で記憶が正確でなく間違った表現になるかも知れませんが、ご容赦ください。

50 年を経て医学部・付属病院も随分と様変わりしたようです。時間経過や社会変革に連れて組織も変化せざるを得ません。構成人員の交代は当然ですが、大きな変化の一つは、臨床研修医制度により医局の在り方が変わったことではないでしょうか。以前は専門医並びに学位取得を目指して卒業生の殆どが各科に入局してそれなりに人員が確保されていました。最近では外部でも専門医取得が可能で大学に残らない医師も多く、中には研修無しで即就職する例もあるそうです。医学部・医学教育や社会の変化と共に地域医療も大きな影響を受けています。宮崎県では以前からの医師不足問題が更に悪化しました。宮崎大学では毎年 100 名卒業しますので、その大半が宮崎に残れば医師不足はとっくに解消していたはずですが。医師不足の問題点は、地域偏在と科の偏在です。宮崎市近辺では医師数にはゆとりがあるものの科によっては不足しています。県内の人口過疎の地域では更に深刻な状況です。いくつかの市町村では産科医師不在でお産ができません。これに輪をかけて「働き方改革」が重く押し掛かってきています。そこで、昨今は地域医療における医師不足対策として、他県からの招聘努力は元より、卒業後は宮崎に残る前提で宮大入学者に地域枠が設けられました。当初は 10 名から始まり、現在では毎年 40 名に達しています。目論見通りに残れば（残らない人もいます）将来の医師不足は緩和されるでしょう。それでも科の偏在は現在のところ対策が難しいよう

です。一方、人口減少は急速に進行中であり、将来は地域によっては医師過剰に悩む時代が来るかもしれません。

少し昔話になります。私が宮崎医科大学に奉職した当時、大学病院は建設途中で県立宮崎病院裏のバラック内に医局がありました。整形外科教授は空席で木村助教授、伊勢、矢野助手、米倉補助員の 4 名が雑然とした狭い部屋で開設準備中でした。当座は仮入局扱いで、県立延岡病院への出向を命じられました。永田副院長、谷脇医長の下で、岡田、武内先生と共に勤務し、時々 3 人で片道 2 時間を運転交代しながら医局や県整形医会の CC に参加しておりました。その後、短期間の江南病院（上塚部長）を経て開院した大学病院勤務となりました。開院と同時に大野、野津原、栄先生等が加わり医局・教室も一気に賑やかになりましたが、整形外科に割り当てられた部屋は、机・椅子と電話以外には何も無く広すぎて殺風景でした。当初から外来患者は多く、病棟と共に少ない人数でやりくりし、先輩方の都合によっては週 3 日当直したこともあります。当直翌日は通常勤務で、働き方改革なんぞは夢物語でした。その後の教室の隆盛は皆様御存知の通りで、現在のように大学でも屈指の教室になるとは想像すらできませんでした。

元の話に戻ります。時の経過と共に状況が変化するのは当然で、世の中の趨勢は時代と共に展開がますます急激になっています。今後は大学内部も別天地とは言えず、様々な変化に柔軟に対応する能力も身につけなければならないようです。これからも若い俊才を積極的に加えてますます発展し、50 年後には更に輝かしい教室であることを期待します。



開講 50 周年に寄せて

同門会 会長

ひらかわ整形外科クリニック

平 川 俊 一

宮崎大学整形外科科学教室も今年、開講 50 周年を迎えました。この様な原稿依頼が来ますと数十年前の古い話しか書けなくなりましたので、残念に感じています。薄れ行く記憶を振り絞り書いております。

私も先輩方から伺った話ですが、県立宮崎病院の一室を借りてのスタートだったそうです。宮崎医科大学として医学部、病院の建物が完成移転し教室としての活動が始まったそうですが、開学時は玉井達二副学長、木村千仞助教授でスタートしたと伺っております。木村先生が教授に就任され、田島直也先生が助教授として赴任されました。その半年後の昭和 55 年に戸田勝先生と私の二名が入局いたしました。朝は病棟外来の仕事の前に週一回の教室全体での原著論文の抄読会、それ以外に田島助教授、渡辺雄医局長、山口一郎先生達も参加されてバイオメカニクス関連の英語本の輪読会、とまずは勉強のやり方を叩き込まれました。ネットや翻訳ソフトのない時代です、当直先に辞書を持ち込んで四苦八苦していました。夜はひと段落着くのが夕方の七時くらいでしょうか。しかし先輩方は全く帰宅する素振りを見せられません。最初の一週間で定時に帰宅することを諦めました。夕方 5 時に仕事が終わろうものなら何か忘れていないか、やり残していないか不安になる位でした。

木村教授はリウマチ、関節外科を専攻され、毎水曜日のリウマチ外来は大混雑で、治験薬でも始まると大変な苦勞をして陪席を務めていました。田島教授は脊椎外科の他、当初よりスポーツ医学を主導され、本来休診日の土曜日にスポーツ外来相談室を行なっておられました。その後に宮崎県に各種スポーツの合宿等が集中するようになり、宮崎県のスポーツランド構想は田島教授の発想の後追いであったと思います。帖佐悦男教授は股関節外科、スポーツ医学、ロコモティブシンドロームを主導されました。ロコモティブシンドロームは運動器の十年の世界的活動の後にも日本整形外科学会の二本の柱の一つとなっています。

私が在局したのは昭和 55 年からのおおよそ 17

年間になります。幸いなことに関連病院での勤務は一年半であり、殆どの期間を医局で勉強させていただきました。同期の戸田先生が手の外科をやりたいと当初より言っていましたので、私は関節外科から始めました。途中田島教授の御指示で脊椎外科を勉強させて頂きました。従いまして私の脊椎外科は随分と遅いスタートでしたが腰椎の手術もそこそこに、主に頸椎の手術を担当しました。当時頸椎の手術を行う医療機関は県内数えるほどしかなく、患者さんも頸椎の手術を受けると車椅子で退院する事になると家族親戚揃って反対するつもりで受診される時代でした。一人一人の症例を大切に、また松本宏一先生の力も借りながら徐々に手術症例を増やしていきました。宮崎県では脳神経外科も頸椎手術を始めしており、整形外科も負けないように頑張った次第です。

開業してからでしたが田島教授から日本整形外科学会の代議員に推薦して頂き、毎年 5 月の日整会代議員会に出席するために学会参加する事になりました。教室員と触れ合う良い機会ですので、医局にお願いして宿泊も皆さんと同じにしてもらい野球大会やサッカー大会の応援のために前夜の打ち合わせ、そして朝 5 時から教室員と同行する事を自分に義務付けて、毎年の学会を楽しみにしていました。コロナパンデミックのために学会に行くことも出来なくなり教室員と行動をとる機会が無くなったのが残念です。

2003 年に宮崎大学との統合が行われました。宮崎医科大学の名前がなくなりました時には寂しさを覚えましたが、いつの間にか宮崎大学整形外科科学教室の名称にも慣れ親しんできました。そうは言ってもつい「医大は」と言ってしまうのは私だけでしょうか。昔を懐かしむのは老いた証ですが、使いこなせなくてもそれなりにネット社会を享受しております。今後 AI の更なる進化があると思いますが、AI も私たちが使用する便利な道具の一つです。過去の経験と将来の進歩のバランスを取って進んでいくことが、これからの先生方に求められている事だと思っています。



宮崎大学医学部 50 周年に寄せて

宮崎大学医学部整形外科学教室 中 村 嘉 宏

宮崎大学医学部の設立 50 周年を迎えるにあたり、整形外科教室の歩みを振り返りつつ、近年の世界的な変化について考えてみたいと思います。当教室は、初代木村千仞教授のもと、1974 年に宮崎医科大学整形外科として開局され、以来、伝統と革新を重ねながら発展を続けてまいりました。その後、二代目田島直也教授、三代目帖佐悦男教授、そして 2024 年からの四代目亀井直輔教授へとバトンが渡され、時代ごとのニーズに応じた診療・研究・教育が展開されています。

振り返れば、1970 年代は日本が高度経済成長期の真っただ中にあり、全国で医療施設や医学部の新設が相次いだ時代でした。宮崎医科大学もその一環として設立され、地域医療を支える中核的な役割を担うべくスタートしたのです。私自身、宮崎医科大学とほぼ同じ年月を歩んでおり、50 年という時の流れに感慨深いものを感じます。

この 50 年間で、整形外科分野ではどのような進展があったのでしょうか。たとえば、人工股関節の歴史を振り返ると、その進化の軌跡が分かりやすいかもしれません。Charnley 型人工股関節がちょうど 50 年前に英国の John Charnley によって開発されました。この人工関節は、初めてポリエチレンと金属を組み合わせた設計を採用し、現在の人工関節の基本デザインの礎となりました。現在の人工関節は、その基本デザインを継承しつつ、革新的な改良を重ねており、表面コーティングや低侵襲アプローチによる早期機能回復、ロボット支援手術などの技術が進化しています。一つの人工関節だけをとっても、50 年間の進化の大きさには驚かされます。

一方、医療を取り巻く環境も劇的に変化しています。特にデジタル技術の発展は、診療や教育の形を一変させました。数年前宮崎大学病院に電子カルテの導入された際には操作方法を学ぶために臨床の忙しい中パソコン教室のような講義を苦勞して受けたものですが、今の若い医師たちはどの富士通だろうがカムナビだろ

うがどんなシステムであってもすぐに使いこなしてしまいます。こうした技術革新により必要な情報を瞬時に検索できるようになり、画像診断や検査データの活用が格段に効率化されました。さらに、近年では若い先生たちは海外の医療系 YouTube チャンネルやオンラインプラットフォームを活用した整形外科手術手技の学習など、若手医師は迅速かつ効果的にスキルを習得しており学び方のスタイルもずいぶん変えてきております。古い人間にはこうした効率化に嫌悪感を感じるのかもしれませんが、この「タイパ (タイムパフォーマンス)」を重視した新しい学びのスタイルは、整形外科分野においてもスタンダードになってくる可能性を秘めているのかもしれません。

宮崎大学医学部の 50 年にわたる教育と研究の積み重ねが進化につながっているものと思われませんが、整形外科教室員個人も、この伝統を未来へつなぎ、新しい時代のニーズに応えるべく努力を続けているところであります。技術が進化し、情報が容易に得られる時代だからこそ、改めて患者一人ひとりに寄り添う「人間味のある医療」の重要性を忘れてはならないのはいうまでもないと思います。宮崎大学医学部 50 周年という節目を迎え、この先の未来に思いを馳せると、5 年後、10 年後、そして 50 年後にどのような宮崎大学医学部が築かれていくのか、大いに楽しみになります。これまで積み重ねてきた伝統と、私たちが共に描く未来へのビジョンが融合し、医療と教育の新たな地平を切り開かれていくことでしょう。



時代の流れで変化する人工関節デザインの驚き
左：先日抜去して Charnley 型と思われるステムとカップ (数十年前のシステム)
右：最新デザインの人工関節システム



父を偲んで

びろうの樹整形外科 菅田 耕

父はR 5年10月1日に77歳の誕生日を迎え、10月7日亡くなりました。

R 3年11月に進行性胃癌がわかり、抗がん剤治療を開始し、治療を継続しておりました。オプジーボなどの免疫チェック療法も受けておりました。本人は1年もてばいいかなと思っていたようで、1年すぎたころからは、抗がん剤治療も毎回これで最後にしたそうでしたが、最後まで続けておりました。

仕事もそろそろ引退を考えていたようですが、結局10月5日まで外来診療をしていました。10月6日も病院まで来たようですが、駐車場から外来まで歩くのがきつく、この日は家に帰っていました。後から聞くと、家の畑でジャガイモを植えていたようです。同日夜には状態が悪くなり、母から連絡がきましたが、予想通り病院にはいかないというので、兄と一緒に点滴や酸素などの救急処置機材を自宅に持ち込み、最後は母と一緒に自宅で看取ることができました。自分の親の、死亡診断書を書く息子も珍しいのかもしれませんが。最後の一言は「これで俺も最後か、畜生」でした。覚悟も準備もしていたのでしょうか、まだまだしたいことがあったのかもしれませんが。そんなに長い時間があるとは思っていませんでしたが、母も兄弟もこんなに急とは思っていませんでした。本人ももう少し時間があると思っていたと思います。検査項目の指示のメモや、痛みがでてきた時の麻薬の使用量などの指示のメモもありましたが、使う

ことなく終わってしまいました。

自分はさすがに、死ぬ前日まで仕事はできないので、できたら65歳ごろには引退したいと思います。父はあまり趣味のない人でしたが、畑仕事は趣味のひとつだったので、好きなことを最後までできたのかもしれませんが。ちなみに死ぬ間に植えたジャガイモは、その後大収穫となり、おいしく頂きました。

父は脳外科医でしたが、勤務医のころも、開業した後も忙しすぎたように思います。私はR 2年10月に実家の整形外科を引き継ぎ、開業医となりましたが、父が開業したころのように働いているのかは、自信がありません。私は、父をみて医師となりましたが、父をみて、脳外科医は無理と思い整形外科医となりました。医師として3年間実家のクリニックで、父と一緒に仕事ができよかったと思います。

生前父がいろいろと手配し、来年には脳外科と整形外科を合併し、病院として移転開業を予定しています。父が最後まで願っていた、都会で受けられる医療を、田舎でもという思いに近づけるように、兄弟力を合わせて、頑張りたいと思います。

最後になりましたが、帖佐先生をはじめ医局の先生、多くの先生方より弔問を頂き、ありがとうございました。この場をかりて、お礼申し上げます。



鶴田明士先生を偲んで

作 良 彦
整形外科

鶴田明士先生が、亡くなって早くも6ヶ月が過ぎようとしています。

先日、同門会編集担当者から、『鶴田明士先生を偲んで』というテーマでの投稿依頼がきました。改めて鶴田明士先生との思い出を振り返っています。(以後、鶴田君と呼ばせてください)

鶴田君は、本当に長い時間を共有した友であり仲間です。

小学校5・6年生の進学学習塾からの仲間であり

日向学院高校の昭和53年卒業(53の会)の時の仲間であり
宮崎大学整形外科同門会の仲間です。

整形外科医として、一緒に同じ職場で仕事をしたわけではないのですが、同じ場所で同じ時間を過ごした友であり、いつもどこかそばにいていつも気になる仲間です。

そんな彼が、53の会の飲み会の時、「今度大学の整形外科の同門会の賛助会員になるのに麻生に入会の推薦状を出してもらってから、作も推薦してくれや!」なんてことで、晴れて平成23年に同門会の仲間になりました。ちなみに、同門会の53の会メンバーには、麻生邦典先生をはじめ津曲孝康先生、村田潔先生が在籍しています。翌日の同門会ゴルフでは、同組で私のエンジョイゴルフに付き合ってもらって楽しい時間を過ごした思い出が蘇ります。

ゴルフと言えば、53の会のメンバーで2ヶ月に1回のペースでゴルフをしています。還暦過ぎた爺さんたちが身体を労わりながらのエンジョイゴルフです。鶴田君とは常連メンバーとして、どこが痛いだのここが痺れるだの言いながらも、高校時代に戻って楽しんでおりました。

5年くらい前だったでしょうか、産業医の研修会に参加した時のことです。休憩時間に、鶴田君の方から声をかけてきまし

た。毎年PET検診を受けていたところ、たまたま胸部X線写真を撮る機会があつて癌が見つかったというのです。早期発見、早期治療であつたため、無事手術も終わり、フォローの化学療法も順調な経過であつたようです。令和5年の53の会のゴルフに参加して楽しい時間を過ごす事ができていました。病気の事も過去の出来事として忘れてしまいそうでした。

令和5年8月にあつた53の会の飲み会で会った時、鶴田君が「数日前に死にかけた」と、九死に一生を得た危険な状況であつた事を話してきました。アルコールは口にせずの参加でした。みんなに心配させることもなく気丈に振舞っていました。本当はすごくきつかったはずなのに・・・。別れには、またゴルフすっぞ!と約束して別れたのを覚えています。

11月の同門会の忘年会では、以前鶴田君と一緒にラウンドしたことのある樋口誠二先生(彼の母校藤田医科大学の後輩です)と、また近々鶴田君を誘ってゴルフをしようと話しておりました。数週間が過ぎようとした12月8日突然の訃報でした。樋口誠二先生からのショートメールに愕然としてしまいました。

彼は、いつも全体を見据えて思慮し懐の深い行動をとる男です。患者さんの為なら少しでも良いことをしてあげようとする医師です。葬儀の時、兄の曜三先生から倒れる前日まで診療していたと聞いた時は、いつまでも患者さんに寄り添ういかにも鶴田君らしい最後だと思いました。誠に、あつ晴れな人間でした。

鶴田明士君 本当にありがとうございます。今の私は、思い出のジグソーパズルの真ん中のワンピースがなくなってしまったような心境ですが、探していたらまたどこかで会いそうな気がしています。お世話になりました。安らかに眠ってください。

合掌

第34号より連載企画として、開業医、関連病院の先生方の近況報告インタビューを掲載することになりました。（※開業医編は地域別あいうえお順で毎年アンケートを実施予定）
アンケートにご協力いただきました先生方、ありがとうございました。

岡田整形外科（福島 秀一郎）

【1】病院または医院の特色

生目中学校の近くにあります。2011年1月より岡田光司先生から私が院長職を引き継ぎました。2014年10月に現在のクリニックに建て替えました。19床の有床診療所で同建物内に通所リハビリ（デイケア）があり、また同敷地内にデイサービスとグループホーム（18床）を併設しています。最近トレーニングやテニス、フットサルができる屋外グラウンドを作りました。ときどきテニスの練習をしています。

【2】先生の医院のおすすめの治療や得意分野

現在手術はしておらず、運動器リハビリを中心とした保存的加療を行っております。

【3】新規治療、機器の導入状況

物療機器のほかにトレーニング器具を入れて、私を含めてスタッフ一同筋トレに励んでいます。

【4】リハビリテーションの現状

PT：14人、トレーナー：7人で入院、外来、通所リハビリ、デイサービスのリハビリおよびトレーニングを行っています。

【5】多く見られている症例

特に専門はなく、高齢者から小学生まで診療をしています。入院に関しては外来で診察した保存的加療の患者や、総合病院で手術されリハビリ目的で転院してきた患者を診ています。

【6】診療受診について

予約制導入	予約不可
診療 受付時間	月・火・水・金 <午前> 9：00～12：30（新患受付12：00まで）
	<午後> 14：00～17：30（新患受付17：15まで）
	木・土 <午前> 9：00～12：30（新患受付12：00まで）

【7】先生の近況を教えてください。(趣味、マイブームなど)

コロナ禍の2020年8月（飲みにも行けず暇なため）にTikTokを始め、フォロワー4万人を越え、めざせ5万人を目標に動画（リクガメと犬の動画）を上げ続けるも、2022年6月にアクセスできなくなりあえなく終了。しばらくSNSから離れるも、最近Instagramを再開。今はフォロワー1000人を目指して、無理しない程度に動画を上げています。

「愛の不時着」を見てから韓ドラにはまり、健康のためにルームランナーで走りながら、タブレットで韓ドラをみるのが、ちょっとした楽しみです。

医療法人社団健友会 岡本整形外科（岡本 健太郎）

【1】病院または医院の特色

当院は、膝関節、股関節の手術を中心に年間500件程の手術を行っております。

【2】先生の医院のおすすめの治療や得意分野

2023年手術実績	総手術件数	515件
	人工関節手術	計250件
	高位脛骨骨切り術	19件
	関節鏡手術	109件

【3】リハビリテーションの現状

理学療法士 4名、作業療法士 1名 在籍しています。

【4】多く見られている症例

変形性膝関節症・・・人工膝関節手術
高位脛骨骨切り術
変形性股関節症・・・人工股関節置換術
膝半月板損傷・・・関節鏡下半月板縫合術
切除術

【5】診療受診について

予約制導入	予約不可
診療 受付時間	月、火、木、金 <午前> 8:30～11:30
	<午後> 14:00～18:00
	水、土 <午前> 8:30～11:30
	※午前中の受付は11:30までです ※12:00～14:00に手術を行っております

【1】病院または医院の特色

整形外科領域を含めた痛みを主訴とした疾患に対し、神経ブロックを併用した治療をおこなっています。

昭和大学ペインクリニック増田豊教授の診療日を月1回（要予約）設けています。

臨床筋電図検査を用いて、末梢神経疾患の電気診断を行なっています。

【2】先生の医院のおすすめの治療や得意分野

頸肩腕領域に対し、星状神経節ブロック、脊椎疾患に対し、硬膜外ブロック、神経根ブロック、顔面痛や、三叉神経痛、帯状疱疹後神経痛などの難治性疼痛疾患に対するブロック治療を中心に診療しています。

障害に対する筋電図検査 毎週木曜日 中村誠司先生担当、要予約

骨密度検査 毎週木曜日 要予約

【3】新規治療、機器の導入状況

透視下での治療が可能な、X線治療室を完備し、専任の放射線技師が対応。

島津メディカル天井走行撮影装置、外科用Cアーム、コニカCR装置、ルナー社骨密度測定装置

【4】多く見られている症例

頸肩腕関連の疾患、および脊柱関連の疾患

上肢の末梢神経疾患

帯状疱疹後神経痛

外傷後の難治性疼痛疾患

【5】診療受診について

予 約 制 導 入	予約可
診 療 受 付 時 間	月、火、水、金 <午前> 8:30～12:30 <午後> 2:00～5:30
	土 <午前> 8:30～12:30
	※木曜日は、外来は休診です（温熱療法と、検査のみ対応） ※筋電図検査、骨密度検査（要予約）

【6】先生の近況を教えてください。（趣味、マイブームなど）

6月30日開催の第26回シーガイアトライアスロン大会の準備に追われています。

大会の救急医療部門を毎年、医局の皆さまにご支援いただいております。

厚くお礼を申し上げます。

今回の近況報告インタビューは、「最近の病院の取組み、同門会の先生方にお知らせしたいこと」などをお伺いしました。

アンケートにご協力いただきました先生方、ありがとうございました。

宮崎江南病院

益山 松三、甲斐 糸乃、吉川 大輔、鎌田 綾、福永 幹、當瀬 雅大

昨今、当院では外来患者数の増加に伴い、待ち時間が長くなっております。患者様の負担を軽減するため、2024年5月1日より新規紹介患者を対象に完全予約制を導入いたしました。この変更によりご不便をおかけすることと存じますが、医療連携室を通じた所定のFAXでの予約をお願い申し上げます。なお、緊急の場合は電話にてお問い合わせください。

宮崎市郡医師会病院

森 治樹、池尻 洋史、岩佐 一真、川越 悠輔、大野 鉄平

2023年実績

総手術件数1295例	大腿骨転子部骨折251例	人工骨頭挿入術196例
人工関節136例	橈骨遠位端骨折90例	大腿骨頸部骨折（骨接合）55例
小児骨折99例	四肢切断20例	時間外患者数452人

宮崎善仁会病院

黒田 宏、松岡 篤、木戸 義隆、山元 楓子

昨年4月に、教室のご厚意により常勤派遣医師を増員していただきました。これで少しは仕事も楽になるかと思いきや、人数が増えた分受け入れも多くなり、結局忙しい日々を送っています。おかげさまで昨年度は開院以来初の手術症例600超を記録しました。骨折観血の手術が255例と一番多く、以下人工膝関節138例、人工股関節83例、人工骨頭55例、といったところです。人工関節に関しては、現在ロボット導入を検討していますが、まだ何も決まらないのでいろんな情報を集めて決定予定です。何かご意見がありましたらよろしくご指導ください。

宮崎県立こども療育センター

川野 彰裕、梅崎 哲矢、福島 研人

当センターは障害児や小児整形疾患の診療が主体です。

障害児医療としては脳性麻痺、二分脊椎、骨系統疾患、先天性疾患などの治療を、小児整形疾患としては発育性股関節形成不全、Perthes病、大腿骨頭すべり症、斜頸、O脚・X脚、歩容異常などの治療を行っております。

外来では痙縮に対するボツリヌス毒素療法、乳幼児の股関節エコーや、内反足に対するPonseti法などの治療が可能です。入院では脳性麻痺児の股関節脱臼や尖足変形に対する筋解離術、股関節脱臼に対する牽引治療、Perthes病、斜頸、大腿骨頭すべり症、脚長差などに対する手術が可能です。合併症などで当センターでの麻酔管理が難しい場合には大学病院にご協力いただき、大学病院にて手術を行っております。

ここ数年では大学病院の脊椎班と連携し、脳性麻痺に対するバクロフェン髄注療法（ITB）の症例も増えてきております。

可能な限り対応したいとは思っておりますが、CT・MRIの設備がなく、麻酔科も小児科も非常勤のため、急性期の対応が難しい状況です。地域連携室がないので、何かお困りの時は遠慮なく直接ご連絡ください。

野崎東病院

田島 直也、久保 紳一郎、増田 寛、三橋 龍馬、福田 一

【1】病院または医院の特色

脊椎・スポーツ外傷・関節疾患などに対する手術を中心に、大学病院等での術後患者に対するリハビリを積極的に行っています。

【2】新規治療、機器の導入状況

変形性膝関節症に対するUKA、リバーズ型人工肩関節、椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入法、鏡視下半月縫合時に、自己血や骨髄由来のフィブリンクロットを併用しています。

【3】リハビリテーションの現状

リハビリテーション部では、術後患者や高齢者、学生スポーツ選手などの多くの方のリハビリ治療を行っています。

【4】主な症例

腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・腰椎（分離）すべり症

膝半月板損傷・靱帯損傷・肩腱板損傷

変形性膝関節症・変形性股関節症 各種外傷 など

【5】診療受診について

予 約 可	
診 療 受 付 時 間	平日 【初診】＜午前＞8：10～11：00 ＜午後＞～16：30 【再診】＜午前＞8：10～12：00 ＜午後＞～17：00 ※手術予定によっては午後休診の場合もあります。 土曜日 ※令和6年1月より休診となりました。

【6】外来、病床の混雑状況

外来は、混雑する時間帯は平日8：10～10：00頃、また、毎週月曜・木曜の午前中は混雑する傾向にあります。

病床は、7～8月および10月、整形中心の3階病棟稼働数は満床傾向にあります。

【7】転院について

窓 口	地域連携室 TEL：0985-28-8555（8：30～17：30）
曜 日 な ど	転院希望日や曜日は要相談 転院日の到着時間は10時をお願いしております。

【8】急患対応について

対応不可

国立病院機構 宮崎東病院

黒木 浩史

本院は、独立行政法人国立病院機構が運営する250床の病院で、整形外科のほか、呼吸器内科、脳神経内科、内科、小児科、外科・呼吸器外科、放射線科、腫瘍内科、児童精神科といった診療科があります。宮崎空港に隣接し、宮崎インターチェンジが近く、県内各地からのアクセスは良好です。

当科では整形外科全般の外来診療を毎日行っており、入院患者も適宜、受け入れています。手術については、火曜日の午後に枠を設け、主に脊椎除圧手術を手掛けています。

本院の利点として、CT、MRIなどの画像診断は、予約が混雑していないため比較的早急に対応できます。またリハスタッフも10名が在籍し（理学療法士6名、作業療法士3名、言語療法士1名）、心大血管疾患リハを除く、運動器リハ、呼吸器リハ、脳血管疾患リハ、がんリハなどほぼすべての疾患に対応しています。そして手術室は2室整備され常に稼働できる状態にあります。手術機器、麻酔医を手配することで、来院して手術を執刀して頂くことが可能です。その後、入院での術後管理、リハも引き続き行えます。ご希望、ご興味のある先生はご連絡下さい。

こちらに赴任し11年目になりました。中規模病院ではありますが一人勤務で制約も多く、なかなか診療の幅を上げられずにいます。しかしできる範囲で地域医療に資する努力を継続して参ります。今後ともご支援ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

潤和リハビリテーション振興財団、潤和会記念病院

整形外科：大野 和男、川野 啓介、河野 翔、リハビリテーション科：迫田 京佳

2022年度5月より整形外科が二人体制になり少しずつ手術件数も増加傾向です。その中で特に脊椎手術と関節手術（人工関節）に重点的を置いて診療を行っております。

2022年度は114件、2023年度は170件となっております。（2024年度はさらに増加する見込みです）

いつも多くの患者さんをご紹介いただき感謝申し上げます。

まだまだ、マンパワー不足のためすべての急患に対応できないのが現状です。手術枠の関係もあり緊急対応が必要な骨折などの治療はお断りする場合があります。しかしながら、下肢麻痺など脊椎の急患は可能な限り対応いたしますのでご連絡ください。

また、圧迫骨折など保存治療での入院加療も対応しております。

今後ともよろしくお願いします。

＜手術＞ 月曜日、水曜日、金曜日が手術日です。

脊椎や人工関節（THA,TKA,UKA）を中心とした関節手術を中心に行っております。

＜外来＞ 川野（啓）と河野（翔）は火曜日と木曜日を担当しております。（HP参照）

初診は予約不要で紹介状を持参して11時までには受付となっておりますが、前日までに患者さんからご連絡いただけると助かります。急患の場合は川野までご連絡ください。

入院希望の場合はあらかじめご連絡いただけると可能な限り対応いたします。

宮崎市立田野病院

渡邊 信二、鳥取部 光司、黒木 啓吾

宮崎市立田野病院は宮崎市の南西部に位置し、大学病院を除けば、清武・田野地区では唯一の有床医療機関です。

リハビリ部門はPT 3名・OT 2名・ST 1名で、比較的充実しておりますので、術後のリハビリいつでもOKです。

病床は42床で少ないですが、ベッドには余裕があることが多いですので、いつでも転院の受け入れ可能です。

手術は人工関節が主ですが、大学と協力しながら少しずつ増えています。

宮崎県立延岡病院

栗原 典近、小藺 敬洋、北島 潤弥、座間味 陽、肥後 聖

県立延岡病院は病床数410床の県北で唯一の公立急性期病院です。延岡西白杵医療圏と日向入郷医療圏の約23万人2次、3次救急医療を担っています。

医師数は67名で、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、腎臓内科、循環器内科、小児科、外科、

呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、放射線科、病理診断科、麻酔科、救命救急科、総合診療科、リハビリテーション科があります。

令和5年の救命救急センターの受け入れ件数は4825件です。平成24年からヘリポートを救急外来屋上に併設、広大な医療圏を補うため令和3年からドクターカーも導入しています。

整形外科は5名で、自治医大の医師が研修に回ってくることがあります。病床数は47床です。

理学療法士11名、作業療法士5名、言語療法士3名で、現在少しずつ長期間の休日中にも対応する準備を進めています。

2023年度の手術症例は751例で、480件が外傷ですが、人工股関節置換術が37件、人工膝関節置換術が48件、脊椎疾患が74件で、幅広い症例を治療しています。

トップが高齢化しており、新しい力を必要としています。ぜひ延岡病院で働いてみませんか。

高千穂町国民健康保険病院

塩月 康弘、鮫島 央

令和6年4月1日より高千穂町・五ヶ瀬町・日之影町の国保病院が合併しまして「西臼杵医療センター」という名称へ変更されました。昨年度まで県立延岡病院の病院長を務められました寺尾公成先生をセンター長へ迎えまして、その人脈を生かし地域のためにご尽力いただいております。実診療的にはもともと西臼杵に整形外科は当院にしかなく、骨折・外傷等はほぼすべて当院で引き受けておりましたのであまり変化は感じておりません。

また、熊大消化器外科から出向されておりました久米前院長の転勤に伴い常勤の外科医師不在となりましたが、熊大からの当直を含めた派遣を増やしていただいたおかげで当直負担はむしろ減ったくらいです。

延岡、熊本方面への高速道路も徐々に開通しており、私の赴任当初（22年まえ）から比べるとアクセスは格段に良くなっておりますが、九州中央自動車道の早期完成が待ち望まれます。

国立病院機構 宮崎病院

安藤 徹、三股 奈津子、泉 俊彦、川越 秀一

当院の整形外科は令和6年6月現在、常勤医師が3名、非常勤医師が1名体制となっております。一般外傷をはじめ、従来からの変形性関節症に対する人工関節置換術（TKA、UKA、THA）はもちろんのこと、近年は肩関節領域の手術も増えており、腱板断裂に対する関節鏡下腱板修復術や、腱板断裂性肩関節症に対するリパース型人工肩関節全置換術なども行っております。その他にも脊椎領域では腰部脊柱管狭窄症に対する椎弓切除術、椎間板ヘルニアに対するヘルニア摘出術など、スポーツ領域では反復性肩関節脱臼に対する関節鏡下Bankart修復術、膝前十字靱帯損傷に対する関節鏡下靱帯再建術など幅広く対応しております。また今年は全身麻酔の手術枠が週2日から3日に増加したことから、より多くの症例に対して手術対応が可能となりました。一方、手術

だけでなく骨折予防のための骨粗鬆症や機能回復を目指すリハビリテーションにも力を入れており、小児から高齢者まで幅広い年齢層、疾患を対象に日々診療を行っています。西都児湯郡を中心に地域の病院と連携し、また他の診療科と協力しながら、地域内で医療を完結できるようこれからも努めてまいります。

宮崎県済生会 日向病院

内田 秀穂、大倉 俊之

恩賜財団済生会は、1911年に明治天皇の「恵まれない人にも医療の手を差し伸べるように」と済生勅語により創設されました。当院は1958年に地域の強い要望を受け、門川町と日向市のちょうど境界のところに開設されました。今年で開院66年になります。診療科は、内科、糖尿病内科、脳神経内科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、形成外科があります。耳鼻咽喉科、形成外科、麻酔科は非常勤の先生達に診療をお願いしています。その他の診療科についても、宮崎大学附属病院の先生達を中心に、非常勤の先生達のお力を借りて運営しています。ベッド数は、現在149床が稼働しており、一般病床が77床、回復期リハビリテーション病床が42床、地域包括ケア病床が26床、感染病床が4床です。

2024年3月まで、整形外科は常勤1人と大学からの応援医師（森田雄大先生、藤田貢司先生）により運営していました。2024年4月から大倉俊之先生が常勤として赴任され、2人体制となりました。1人体制の時は救急患者を受け入れることが困難な状況でしたが、現在は積極的に救急患者を受け入れています。手術件数は、2024年4月1日から7月9日までの期間で、人工関節置換術と骨折を中心に57件の手術を行っています。その他の分野においても、スポーツの疾患では、森田雄大先生に関節鏡での手術を中心に施行して頂いています。患者さんが希望された場合は、大学病院から脊椎グループの先生達に来て頂いて手術を行うこともあります。

今後も地域に愛される済生会日向病院を目指して、頑張っていきたいと思います。

美郷町国民健康保険西郷病院

外山 宗樹

国民健康保険西郷病院は美郷町西郷地区にある29床のへき地医療拠点病院です。自治医大卒業義務年限中の派遣で勤務しております。残念ながら私より下の学年の卒業生に整形外科志望がおらず、今後も西郷病院での整形外科診療が存続できるか検討中です。

当院事務と数年の交渉を経て下半期にDEXAを導入予定です。導入にあたりFLSチームを立ち上げ、まずはコメディカルとの知識共有・教育を進めています。同時に、当院かかりつけ患者の中で二次骨折予防が必要な患者をリストアップし介入を始めました。少しずつ進めていきます。

手術は月数件程度外傷や手根管解放術などをメインに行っています。腰椎麻酔、腋窩ブロックで対応可能な症例はできるだけ対応していますが、一人では対応困難なことも多くあり、とくに日向延岡地区の先生方には転院などで大変お世話になっております。

延岡リハビリテーション病院

所属整形外科医 金井 一男、リハ科専攻医 川崎 弘貴

【1】病院または医院の特色

病棟は、回復期病棟45床、地域包括ケア病棟20床、医療療養病棟15床です。

外来では、子供療育センターと連携し脳性麻痺などの障害児のリハビリ、また毎週金曜日には神経内科専門外来も継続しています。県北の砦としての県立延岡病院と密に連携を取りながら、回復期以降のリハビリ・諸雑務を担っています。

【2】リハビリテーションの現状

回復期病棟は365日、病院併設で延リハデイケア、訪問リハ、訪問看護はまかぜが活動し、訪問診療も行っています。

・理学療法士19名、作業療法士17名、言語療法士4名が在籍

【3】主な症例

2023年の年間入院受け入れ人数を呈示します。

- (1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など112人、(2) 外傷性脊髄損傷23人、
- (3) 運動器疾患・外傷234人、(4) 小児疾患20人（外来リハ）、
- (5) 神経筋疾患31人、(6) 切断・義足2人、(7) 内部障害61人、他

【4】診療受診について

予 約	可
受 付 時 間	<午前> 8:30～11:30 <午後> 13:00～17:00

【5】外来、病床の混雑状況

- ・病院の入退院業務があるため、外来は予約制とし受付の新患枠の人数を絞っています
- ・金曜日は神経内科外来中心

【6】転院について

窓 口	地域連携科 TEL: 0982-21-6211
曜 日 な ど	月～金曜日まで（上記①窓口で予約してからになります。）

【7】急患対応の可否について

対 応 可 否	可
急 患 扱 い の 症 状	当院は救急告知病院ではなく、救急対応の診療内容は限られますが、かかりつけの患者さんの救急要請には対応しています。

連 絡 先	0982-21-6211（業務時間内の通常窓口）
受 付 時 間	基本的には、診療受付時間内での対応になります。

都城医療センター

濱田 浩朗、吉川 教恵、喜多 恒允

当院、整形外科・リウマチセンターでは、リウマチ性疾患約460例/年加療しています。リウマチに関する手術としては、人工関節をはじめ、鏡視下滑膜切除術、骨切り術、外反母趾・前足部形成術等、脊椎手術以外の手術加療を積極的に行っています。

リウマチ以外では、小児の外傷、透析患者の外傷や感染、人工関節、四肢切断や合併症のある高齢者の手術、また、癌拠点病院のため、癌患者さんの病的骨折に対する加療等幅広く行っています。

2020年からは、股関節のアプローチに筋腱完全温存AL-Spine Approachを導入し、人工骨頭やTHAでは、術後の疼痛軽減、入院期間の短縮に努め、Forgotten Hipを目標にしています。また、2023年からは皮切をTransverse incision（ビキニラインでの皮切）にすることで、整容面からも患者さんに喜ばれています。

橘病院

柏木 輝行、吉田 尚紀、小島 岳史、石田 翔太郎

人工関節置換術（股、膝）を中心に、スポーツ外来、サーフィン外来も行っております。

2024年4月より石田翔太郎先生を大学から派遣頂き、膝周囲骨切り術もスタート致しました。人工関節ではない膝治療もシームレスに実施できる環境となっております。

また、Instagram（フォロワー2384人）やTikTok（フォロワー1034人）などSNSを活用した情報発信にも力を入れております。

2021年11月～Mako（先進テクノロジーロボティックアーム）を宮崎県で初導入し、

2024年3月末時点でTKA341例、THA240例、UKA22例 施行しております。

2023年5月～PRP療法を開始、1年間で178例実施しました。

2024年4月～第1手術室をリニューアル、新透視機を導入し骨折治療時に非常に見やすくなりました。

主な手術症例として、

- ・人工関節置換術（股、膝）：2023年293例
- ・スポーツ外傷（鏡視下半月板縫合、靱帯再建術）：2023年74例
- ・一般外傷
- ・膝周囲骨切り術

2023年の手術総件数は634例になります。

当院はSDGs活動にも力を入れております。職員に対しても働きがいのある職場を目指しています。小島副院長をイクボス隊長とし、職員の仕事と生活の両立を考え応援する「イクボス宣言」を取り入れています。2024年度は、誕生日や記念日に有給休暇が取れる「アニバーサリー休日制度」を導入し、職員、家族の幸せも目指せるようにしました。

藤元総合病院

矢野 浩明、黒木 智文、神谷 俊樹

藤元総合病院は都城市の西部、都城市役所の近くに位置する総合病院です。

当科においては小児から高齢者まで、手外科・脊椎外科・肩関節外科・外傷領域を中心に急性期から慢性期まで診療を行っております。

手術は一般外傷による骨接合術や人工骨頭挿入術などに加え、2023.4.より勤務している黒木 Dr.・神谷 Dr. がそれぞれ特に力を注いでいる脊椎外科・肩関節外科の症例が最近増えてきています。

脊椎外科においては昨年度60件の手術実績があり、頸椎椎弓形成術（黒川法）・顕微鏡視下後方除圧術・後方椎体間固定術（PLIF）脊椎圧迫骨折に対するセメント治療（経皮的椎体形成術：BKP）・PPS percutaneous pedicle screw：経皮的椎弓根スクリュー固定を用いた低侵襲脊椎固定術（minimally invasive spinal fixation：MIS）など行っています。

肩関節外科においては10件であり、鏡視下腱板修復術・鏡視下バンカーと修復術・リバー型人工肩関節置換術などを行っています。

時折我々だけでは対応が難しい症例においては大学病院の先生方にご協力いただきながら治療を行っております。（いつもありがとうございます）

患者さんが笑顔になれるよう、力を合わせて日々奮闘しています。

えびの市立病院

黒沢 治

一番の変化は、今年1月から進めてきた電子カルテが導入され、4月から稼働した事です。

現在、殆どの医療機関でカルテは電子化されている中、当院は紙カルテで診療しておりましたが、ようやく他院に追いついた形となりました。院内で即時に診療情報が参照でき、検査オーダー・薬の処方等が端末で可能となり、時間短縮と労力負担の軽減につながり、現在非常に助かっております。

最近の取り組みに関しましては、脊椎圧迫骨折の症例が紹介を含め多い様に感じます。骨粗鬆症の治療薬に関して、現在、骨形成促進薬はナイーブ（未治療）で早期からの骨密度上昇が見込めると分かってきたとの事で、当院でも適応を判断し、PTH製剤の自己注射やモロソズマブを積極的に導入する事としております。

当院の利点と思われる事は、小規模の病院である事よりソーシャルワーカー・理学療法士・ナースとの連携が取りやすく、患者様の退院に向けて必要な医療サービス等の提供の検討ができています。具体例としては、患者様が退院する前に家屋調査を行い、段差の解消や手すり設置等の検討を行い、退院後の生活環境を整備する事を行っております。

都城市郡医師会病院

海田 博志、森田 恭史、川越 亮

昨年度は症例数も約500件となり、多忙な日々が続いております。

都城地域の救急医療を担っている病院ですので、他科と連携しながらの整形外科として頑張っております。

難渋な症例の相談など医大にもお世話になっております。今後ともよろしくお願いします。

小林市立病院

上通 一師、戸田 雅

平素よりお世話になっております。

西諸県郡圏内の超高齢者の外傷や変形性関節症、脊椎疾患をメインに頑張っています。

対応困難な症例は脊髄損傷、骨盤骨折、小児骨折などです。戸田 雅先生が赴任されたので上肢疾患、外傷などに力を入れたいと思います。また、簡易ナビゲーション使用下の人工関節置換術や二次性骨折予防に取り組んでいます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

宮崎県立日南病院

松岡 知己、平川 雄介、北堀 貴史、松永 美穂

【1】病院の特色

県南地域の中核病院の位置づけで急患、紹介患者などの治療を行っています

高齢化に伴う合併症のコントロール（心疾患、糖尿病）を他科の協力を受け治療しています。また、高齢者の一人暮らしや老々介護の問題あり患者支援センターが在宅復帰を目指した地域連携パスでの連携病院と関係を持っています。

【2】リハビリテーションの現状

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士はいますが数が十分でないのが問題です

【3】主な症例

外傷から変性疾患まで対応はしています

【4】診療受診について

予 約	基本紹介受診です
診療受付時間	初診：月曜日、水曜日、金曜日（10時まで） 再診：毎日行っています

【5】転院について

窓 口	地域連携室（患者支援センター）
-----	-----------------

【6】急患対応について

可能

なんごう病院

川添 浩史、川越 隆行

年間手術件数 毎年240－250件程度。

通常の外傷手術なども行っていますが手術の中心になっているのは膝関節手術です。

膝関節鏡では半月板損傷からACL再建など行っており、半月縫合に関しては通常の縫合からルートリペア、セントラリゼーションなど縫合方法のバリエーションは増えています。

人工膝関節に関しては、総数に対しUKAの割合が増えており、ここ数年は50%以上がUKAになっています。

最近の取り組みとしてはOA膝に対し脛骨近位骨切りを行っています。矯正角度の比較的小さいものはOWHTO、矯正角度が大きいものは逆V骨切りで対応しています。

様々な膝疾患に対応できるようになってきており、2人態勢での状況で大変な所もありますが頑張ります。

串間市民病院

河野 勇泰喜

外来は平日（月～金）の午前、手術は主に月曜日・木曜日の午後としています。

高齢化、人口減少の著しい串間市で日々診療しています。脊椎圧迫骨折の保存入院がとて多く、認知症の方も多いためリハビリスタッフにご尽力頂いています。手術は基本的な外傷のみ対応しています。症例や合併症のある場合は紹介させて頂いていますが、県立日南病院を筆頭に受け入れていただき大変ありがとうございます。

また、県南病院の土曜日非常勤枠の整形外科の先生方にも紹介頂いたり、その後のフォローをお願いしたりお世話になっております。

これからもよろしくお願いいたします。

愛泉会日南病院

柳園 賜一郎

重度心身障害児者約120名の病棟があり、その健康管理を行っています。

入所者の高齢化もあり、必要とされる医学的処置は、多岐にわたり知識、技術が必要とされます。気管切開、胃瘻、膀胱瘻を受けている患者さん、呼吸器管理をされている患者さんも多数おられます。

一方当院常勤医師も高齢化が進み、院内医師では対応できないこともあり、宮崎大学整形外科をはじめ、小児科、産婦人科の医師に助けをもらいながら、当直業務を手伝ってもらっています。

一般整形外科外来も開設しており、MRI装置もあることから、地域住民の診察を行い、関連施設病院の先生方にご相談しながら、診療を行っています。

高速道路の影響か、離職者が多く看護師確保が困難で昨年度から当院一般病棟の入院制限を行っており、今までできていた紹介した患者さんの手術後の転院リハビリができなくなりました。

県立日南病院をはじめ関連施設病院の先生方にはご迷惑をおかけします。

公立多良木病院

浪平 辰州、飯田 暁人

当院では令和6年4月より二次骨折予防継続管理料1・2・3を加算として取れるようになりました。年間70例前後の大腿骨近位部骨折の手術加療と人吉医療センターでの手術患者の受け入れ、退院後のフォローを骨粗鬆症治療と合わせて取り組んでおります。

令和5年度の手術室での手術症例は284例でした。外来での脱臼整復、創縫合等は約60例程度の症例数でした。

主な手術症例は大腿骨近位部骨折手術70例、橈骨遠位端骨折38例、人工関節置換術32例などです。半数は骨折、外傷関係が占めています。

1年間の入院延べ患者数は9,449人、総整形外科外来受診患者数は22,025人でした。

2人体制でなかなか厳しい面もありますがなんとかやりくりしています。

土日の整形待機に派遣していただいていることも大変助かっています。

今後とも公立多良木病院をよろしくお願いいたします。

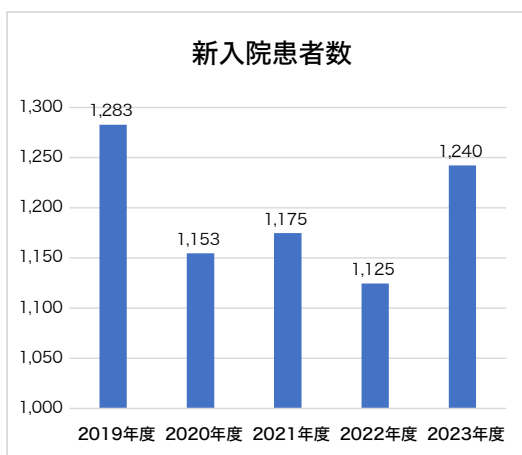
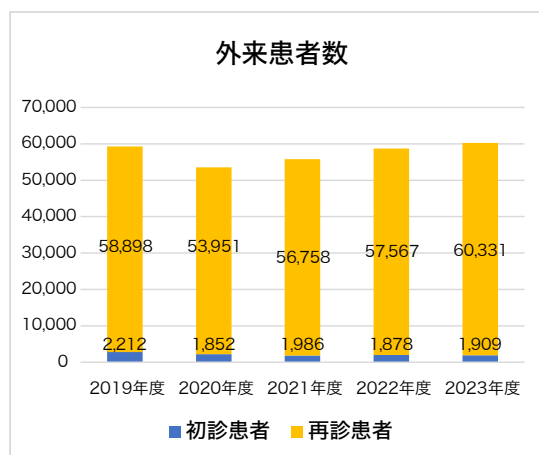
宮崎大学医学部附属病院 整形外科 診療状況

整形外科医師数（2024.7月時点）

下肢	脊椎	上肢・スポーツ	リハビリテーション部	救命救急センター
9人	8人	8人	3人 (うち2人兼任)	2人 (うち1人兼任)

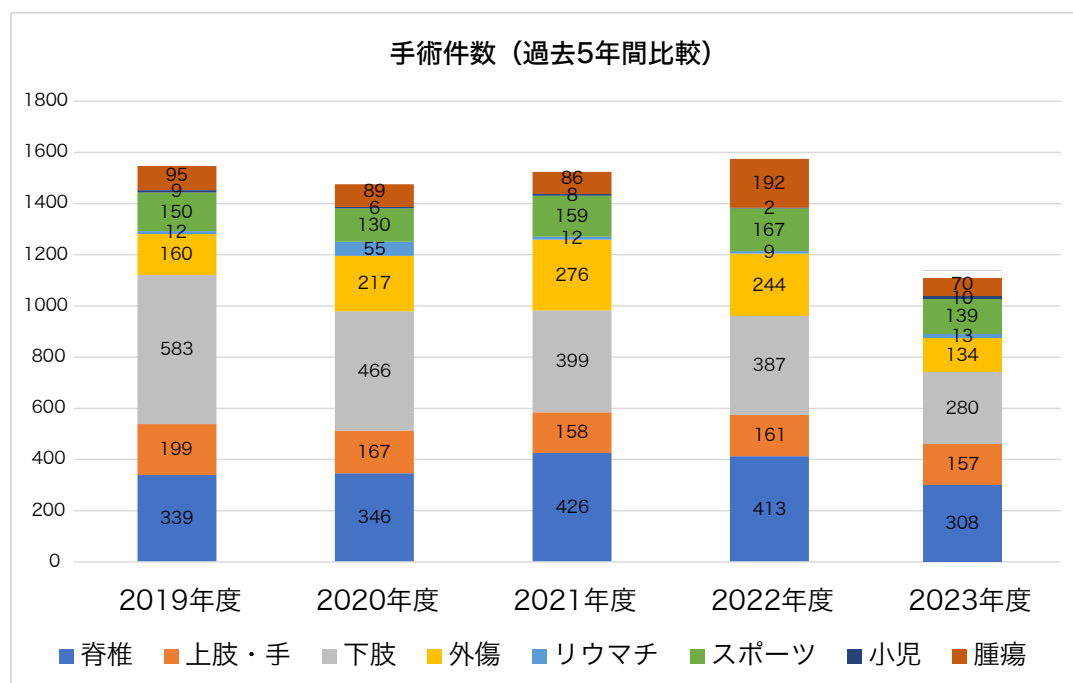
外来・入院稼働状況（過去5年間比較）

年度	外来（人）				入院（人）		
	初診患者	再診患者	計	1日平均患者数	新入院	1日平均患者数	病床数／床 (2023.10)
2019年度	2,212	58,898	61,110	252.5	1,283	54.9	62
2020年度	1,852	53,951	55,803	230.6	1,153	48.9	58
2021年度	1,986	56,758	58,744	242.7	1,175	47.0	58
2022年度	1,878	57,567	59,445	243.6	1,125	45.7	53
2023年度	1,909	60,331	62,240	256.1	1,240	51.0	53



手術件数（過去5年間比較）

年度	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	合計
2019年度	339	199	583	160	12	150	9	95	1,547
2020年度	346	167	466	217	55	130	6	89	1,476
2021年度	426	158	399	276	12	159	8	86	1,524
2022年度	413	161	387	244	9	167	2	192	1,575
2023年度	308	157	280	134	13	139	10	70	1,111



初診受付について

■初診患者予約制（令和2年6月より開始）

ご紹介いただく際には、初診予約申込書と診療情報提供書をFAXにてお送りください。

＜初診予約申込書提出先＞ FAX：0985-85-9715（予約専用）

詳細は宮崎大学医学部整形外科教室のホームページ（「診療案内」＞「外来診療」ページ）よりご確認ください。

転院依頼について

当院への転院のご相談については、主治医から直接お問い合わせください。

その後、入院支援担当者からご連絡いたします。

宮崎大学医学部整形外科学教室 近況報告 グループ紹介

各グループの最近の取組み、お知らせしたいことなどをご報告いたします

下肢班

坂本 武郎、中村 嘉宏、船元 太郎、山口 洋一郎、今里 浩之、藤田 貢司、帖佐 直紀、
榊 昂典、田中 涼太（2024年7月時点）

下肢班は、股関節、膝関節、足関節、足部等下肢の種々の疾患や外傷、腫瘍に対して治療を行っています。扱う疾患は様々ですが、股関節の関節温存手術、人工股関節置換術、人工膝関節置換術を中心に行っております。最近は人工関節後感染や緩みなどの再置換術を必要とする紹介が徐々に増えてきていております。また膝周囲の骨切術を必要とする症例が増加しており、半月処理を必要とする例も多いため、スポーツグループと協力して対応しております。

また、変形性足関節症に対する骨切術や人工足関節置換術症例も増加してきています。

手術方針に関しては詳細な診察・検査を行い、下肢グループ内と整形外科全体での2回のカンファレンスを通じてその患者さんに合った適切な治療を選択します。また、大学病院の特徴を生かして術後の大きな合併症に対しては各科と連携し迅速に対応・治療致します。

関連病院の先生方には、多数の患者さんを紹介していただいておりますのに、入院までに日数がかかったり、また術後の転院などで多大な迷惑をおかけしております。

今後ともよろしくお願いいたします。

脊椎班

濱中 秀昭、黒木 修司、比嘉 聖、永井 琢哉、高橋 巧、松本 尊行、佐々木 一駿、
山下 紀美子（2024年7月時点）

脊椎班は、濱中、黒木修司、比嘉、永井、高橋、松本尊行（+専攻医）のメンバーで頑張っています。年間300例を超える脊椎手術を行っています。合併症の多い症例や腫瘍、感染など大学ならではの手術を行っていますが、最近内視鏡手術の機械を購入しました。これまで顕微鏡手術を中心に行ってききましたが、昨今の脊椎手術の流れから内視鏡手術も取り入れる方向で考えています。手術枠の問題もあり、なかなかヘルニアの手術などは難しい状況ですが内視鏡手術Percutaneous Endoscopic Discectomy (PED) のいい適応である外側ヘルニアなどあれば紹介いただければ助かります。外側ヘルニアはこれまでは、Wiltseアプローチで行うか、椎体間固定まで行うことが多かったですが、内視鏡手術では9mmの皮切で行うことができる低侵襲手術であるため患者様にも喜ばれると考えています。

また、広島大学から亀井直輔先生が教授として、脊椎グループに入っていただくことになり新しい脊椎の風が吹くものと確信しています。これまでの田島先生、平川先生、久保先生、黒木浩史先生から語り継がれていた宮崎の脊椎外科に亀井先生の広島大学の脊椎の風が合わさり新生脊椎グループが誕生します。今後ともよろしくお願いいたします。

スポーツ・上肢

田島 卓也、山口 奈美、大田 智美、長澤 誠、森田 雄大、横江 琢示、鮫島 勇汰、土屋 慧祐（2024年7月時点）

【2023 年手術実績】

スポーツグループ：Total 167例

- ・膝関節靱帯再建術（Revision、複合靱帯含む）54例
- ・半月板縫合術（単独例）24例
- ・足関節手術 14例
- ・膝周囲骨切り術 6例

上肢グループ：Total 178例

- ・関節鏡下腱板修復術 41例
- ・肩関節脱臼 14例
- ・肘離断性骨軟骨炎 5例
- ・人工指 3例
- ・手根管症候群 24例

【主な手術症例】

スポーツグループ：

- ・膝関節靱帯・半月板断裂（関節鏡下靱帯再建術、半月板手術）
- ・関節軟骨損傷（自家培養軟骨移植術）
- ・膝アライメント異常・変形性関節症（高位脛骨骨切り術、遠位大腿骨骨切り術）
- ・足関節外側靱帯損傷・軟骨損傷などの足関節疾患

上肢グループ：

- ・肩腱板断裂・肩関節脱臼（関節鏡手術）、変形性肩関節症（人工肩関節）
- ・野球肘（離断性骨軟骨炎）
- ・手機能再建手術、人工関節（肘、指）、手根管症候群（アミロイドーシス関連を含む）

【英語論文】

- ・膝関節 5 篇（Sci Rep, Knee, J Knee Surg）田島卓也、森田雄大、横江琢示
- ・足関節 4 篇（KSSTA, J Clin Med, Medicina）横江琢示
- ・肘関節 1 篇（JSES）長澤誠

【受賞】

- ・森田雄大、第1回日本膝関節学会、優秀ポスター賞
- ・長澤誠、第35回肘関節学会、We Love Elbow「世界に発信」褒章
- ・横江琢示、JOA-KOA トラベリングフェロー

【グラント】

- ・田島卓也、スポーツ庁委託事業「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」
- ・田島卓也、日本運動器科学会学術プロジェクト「こどもロコモプロジェクト」

【研究報告】

- ・人工半月板研究（工学部共同研究）

【施設認定】

- ・2024.2.1 一般社団法人 日本手外科学会 基幹研修施設
大田 智美（日本手外科学会 専門医）

リハビリテーション部

荒川 英樹、山口 洋一郎、森田 雄大（2024年7月時点）

医学部附属病院では、ほぼ全ての診療科からご紹介をいただいております。右肩上がりに新患数は増加しています。また、宮崎市立田野病院でもボツリヌス治療などの診療を行っています。昨年度に引き続き、今年度も新たな専攻医（坂本先生、沖縄ちゅうざん病院で研修中）が加わり、宮崎県でのリハビリテーション医療の充実、発展を担ってくれるものと期待しています。

救命救急センター

日吉 優、藤田 貢司（2024年7月時点）

現在、救命センターに搬送されてこられた多発外傷患者や開放骨折患者等に対して全身管理、ならびに手術を含め診断・治療介入を行っております。脊椎外傷に関しては脊椎グループの先生方のお力をお借りしております。救命センター専属となった2023年度の1年間では救命センターに入院した患者で約110件の手術を行っております。

骨盤・寛骨臼骨折に関しては1年間で約20件の手術を行っております。IVR可能な病院が少なく、IVRを要するような骨盤輪骨折は救命センターに、全身状態が安定している寛骨臼骨折などに関しては整形外科病棟を借りたり、手術枠の制約もあるため、収容先の病院で手術をさせていただくような場合もあります。

開放骨折に関しては年間15－20例程度の治療を行っております。GustiloⅢB、ⅢC症例に対しては全身状態によっては、当院・他院関係なく、遅滞のない治療が行えるようにヘリによる転院搬送を含めて調整を行っています。

また、県内の重度四肢外傷（GustiloⅢB/ⅢC）の状況を確認するため、各施設の開放骨折の受け入れ状況をお伺いしており、日常業務で大変お忙しい中、御報告頂きましてこの場をお借りして感謝申し上げます。結果をまとめまして、1年に1回行っております宮崎重度四肢外傷Peer Review Meetingや今年度は6月の西日本整形外科学会にて宮崎県の現状の発表を行わせて頂いております。

現在、日本骨折治療学会主体の寛骨臼骨折の治療成績に関するレジストリー作成ならびに多施設共同研究に参加しており、また、開放骨折のレジストリーを作成中です。開放骨折の受け入れ、手術をされておられる施設に関しましては今後骨折治療学会のHPでも公募が始まりますので御参加頂きたい存じます。

救命センターの性質上、当院で長くリハビリ加療というわけにもいかず、早期のリハビリ転院等、大変御迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、是非フィードバック頂き、御指導頂ければと思います。



JOA-KOA traveling fellowshipのご報告

宮崎大学医学部整形外科学教室 横江 琢 示

2023年度のJapanese Orthopaedic Association (JOA) -Korean Orthopaedic Association (KOA) fellowshipに北海道大学整形外科の清水智弘先生、東京大学整形外科の川口航平先生と私の計3名を選出いただき、2023年10月12日～14日に仁川の松島コンベンシアで開催された第67回韓国整形外科学会学術集会に参加させていただきましたのでご報告させていただきます。本学会ではスライドおよびプレゼンテーションは全て英語で、KOAの国際志向の強い表れであると感じました。各国からfellowが参加し計15名のfellowが参加しました。また、今回は日本がguest nationであり全国のご高名な日本人整形外科医がinvited speakerとして参加されていました。私は超音波検査による足関節外側不安定性に関する研究について発表させていただきました。発表後には複数の質問をしていただき、今後の研究につながる有意義な討論をさせていただくことができました。学会を通して多くの韓国人整形外科医は流暢な英語を話され、英語の勉強を引き続き頑張ろうと決意しました。KOAが計画していただいたソウル観光ツアーにも参加させていただき、天候にも恵まれおいしいブルコギもご馳走になりました。アジ

ア諸国からのfellowとも交流する機会もいただきました。Presidential dinnerおよびGala dinnerにも参加させていただき、たくさんの国内外の整形外科医と交流する機会もいただきました。

国際学会にJOAのfellowとして参加させていただくのは緊張しましたが非常に光栄な事であり、かけがえのない有意義な経験をさせていただけたと感じます。何より、清水智弘先生、川口航平先生という非常に優秀な先生と様々な事についてお話をさせていただき、また友人になれたことは今後の大きな財産となりました。この経験を今後活かせるように引き続き精進して参ります。

最後になりますが、このような貴重な経験をさせていただけたのも帖佐悦男教授、田島卓也先生をはじめとする同門の先生方のご指導があったことと存じます。JOA以外にも様々な学会でfellowship制度がありますので、同門の若手の先生方にも頑張ってもらいたいと思います。わからないことがあれば、私で良ければ気軽に相談していただければと思います。以上、簡単ではございますがご報告させていただきました。同門会の先生方におかれましては引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



写真 1. 川口航平先生（写真左）、清水智弘先生（写真中央）と学会会場で



写真 2. 清水智弘先生（写真左）、アジア諸国からのフェローと景福宮で



第 1 回 日本膝関節学会優秀ポスター賞の 受賞報告

宮崎大学医学部整形外科学教室 森 田 雄 大

この度、2023 年 12 月 8・9 日に横浜市で開催された第 1 回日本膝関節学会において優秀ポスター賞をいただきましたのでご報告いたします。膝学会は、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）と日本整形外科学会（JOSSM）が統合し新たに日本膝関節学会（JKS）と日本スポーツ整形外科学会（JSOA）が発足され、昨年第 1 回学術集会が開催されました。

今回の学会では、「大腿骨遠位骨端部に発症し、膝関節軟骨を穿破した Brodie 膿瘍の経験と短期経過」という演題でポスター発表を行いました。Brodie 膿瘍は若年の長管骨骨幹端部に好発する膿瘍で搔爬・骨移植、抗菌薬投与で予後良好と報告されています。今回は 6 歳男児で比較的稀な骨端部に発症し、関節軟骨を穿

破したため化膿性膝関節炎となり緊急手術（関節鏡下デブリードマン）を行いました。その際、関節軟骨も脆弱であり骨軟骨を搔爬した結果、約 10 mm 大の軟骨欠損、約 20 mm の骨欠損を認めました。術後定期的に画像フォローしていくと、次第に軟骨下骨の修復、関節軟骨様の組織での被覆が確認でき、若年であれば骨移植や骨膜パッチなどを行わなくとも修復が期待できるのではないかと考察しました。現在もフォロー中であり、制限なく運動も許可しています。

記念すべき第 1 回の膝学会で優秀ポスター賞を受賞できたことを大変光栄に感じ、ご指導いただいた帖佐悦男先生、田島卓也先生に感謝申し上げます。今後もこのような賞がいただけるようさらに日常診療、研究ともに努力していきたいと思います。



第 17 回 宮崎整形外科医学奨励賞の 受賞報告

潤和会記念病院 整形外科 川 野 啓 介

この度は、栄えある宮崎整形外科医学奨励賞をいただき誠にありがとうございました。これまでのご指導いただいた先生方、一緒に働いた同僚や後輩たちに感謝申し上げます。

入局時は自分がこれほど多くの手術を担当するとは思いませんでした。2013年の秋に当時の坂本医局長から公立多良木病院から大学病院への異動を命じられた時は自分が下肢班に配属されたことも知らずに戻ってきました。当時の自分は数年で大学を出るものだと思っていましたのであまり気にせず、同期の永井先生から下肢班に配属になったのを聞かされたのと記憶しています。下肢班専属の時代は入局者が少ない時代でしたので、多くの患者さんを担当させていただき日吉優先生と遅くまで仕事をしましたのも今ではいい思い出です。（日吉先生は今も遅くまで働かれていますと思いますが。）その後、脊椎班を兼任させていただくことになり、大学病院では下肢班や脊椎班など多くの先生と一緒に仕事したのは私の財産となっています。2019年秋より県立延岡病院に赴任しました。延岡という地域はこれまでご縁がなく当直以外で高速道路を降りる機会がありませんでした。延岡は地域柄、宮崎市内の病院と違い可能な限り延岡で完結させる必要があります。コロナ禍で人の交流が少なくなった時代ではありましたが、延岡では絶え間なく患者さんにも恵まれて関節疾患や脊椎疾患など多くの症例を経験させていただきました。私が赴任する以前は「一人

ぼっちの脊椎外科医」だった栗原先生がおひとりで県北の脊椎を守られていたと思うととても大変だったと思います。子供が小さかったこともありコロナ時代でしたが、山や海など自然に囲まれとても良い時間を過ごさせていただきました。

2022年5月より現在の潤和会記念病院で勤務させていただいております。多くの同門の先生方からご支援いただき、少しずつではありますが整形外科の患者さんも増加傾向です。現在は河野翔先生と二人で業務を担当しています。河野翔先生も予期しない医局人事で当院に来ましたが、慣れない脊椎患者さんの症例などに懸命に取り組む姿は昔の自分を思い出します。彼が10年後に脊椎を始めてよかったと感じてもらえばいいかなと思っています。

今回の受賞口演に際し何の話をするか非常に悩みましたが、「二刀流への挑戦」と大それた演題にしてみました。宮崎県の多くの整形外科の先生が一つの専門分野以外関わらないという方はいないと思います。私は様々な巡りあわせもあり「脊椎脊髄病学会指導医」「人工関節学会認定医」を取得することができました。臨床のみならず研究もされている同期の永井先生に比べ、通常業務のみを行ってきた私が受賞できたのも多くのご縁があったからと感謝しております。これからも同門の先生からの暖かいご指導ご鞭撻よろしく申し上げます。



第 17 回宮崎整形外科医学奨励賞 を受賞して (学位取得報告も含めて)

宮崎大学医学部整形外科学教室 永井 琢哉

この度は荣誉ある宮崎県整形外科医学奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。同門会や教室の先生方、ご指導いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。今回の受賞にあたり、本年の同門会で『脊椎と基礎研究（脊柱変形への挑戦）』というテーマで発表させていただきました。私の今までの歩みと基礎研究の楽しみ・苦しさ？についてまとめたいと思います。

私は自分自身いつもご縁に恵まれていると感じることが多いのですが、整形外科になったのもサッカー部の先輩である小島先生や日吉先生にお誘いいただいたことがきっかけです。そして整形外科1年目は脊椎班からローテートが始まりました。脊椎班終了時に『あなたは脊椎留年です』という楯をいただきました。この時に脊椎を専門にすることは決まっていたのかもしれない…。その後、県立延岡病院で外傷を中心に人工関節なども経験させていただき、ここで主治医としての心構えなども培われました。その後、2013年に濱中先生と一緒に脊椎をしないかとお声かけいただき、現在に至ります。そのような中、黒木浩史先生や猪俣尚規先生の外来陪席につかせていただき、自然と側弯症に興味が湧いてきました。はじめての側弯症手術は心配で術後も大学に泊まり不安な夜を過ごしたことは今でも忘れられません。側弯症はバリエーションも多く、時間軸も加味した治療が必要ですが、少しずつできることが増えてきてい

ると思います。これもひとえに脊椎班の先生方、看護師さん、放射線技師さん、MEさん、リハビリの先生、義肢装具士さんなど多くのスタッフのご指導、ご協力のおかげです。これからも安心安全な脊柱変形治療を目指していきたいと思います。

また臨床と並行して2015年より大学院に入学いたしました。私のテーマは黒木修司先生の報告した骨軟骨代謝に関与する新規遺伝子の中から Transmembrane 161a (Tmem161a) という遺伝子の機能を解析することでした。しかし、Tmem161a はほとんど報告がなく、どこから手をつけていいか苦悩する日々でした。さまざまな実験をする中、一度はいい結果が出ても、次はうまくいかないことも多く、正直もう基礎研究はやめようと思ったことは何度もありますが、実験室の皆さんや基礎教室の先生のご協力で『Tmem161a regulates bone formation and bone strength through the P38 MAPK pathway』という形にすることができました。基礎研究で培った研究マインドは臨床にも大いに役立っており、長くはかかりましたが、最終的には大学院生活は大変楽しいものでした。

ご縁に感謝し、向上心を持って精進していきたいと思います。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



学位取得 報告

“Insertion sites of the muscles attached to the clavicle: a cadaveric study of the clavicle”

宮崎大学医学部整形外科学教室 今 里 浩 之

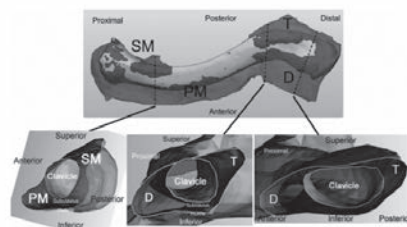
私の学位論文は「鎖骨における筋肉の付着部を視覚的に明らかにし、鎖骨骨幹部骨折を想定した手術で筋肉の付着部をどう温存できるか、検討してみた。」です。興味があれば読んでみてください。

16歳の少年がラグビーの6月の高総体で、タックルされて左鎖骨骨幹部骨折を負いました。近医で手術を受け9月ごろの復帰と言われました。自称気合が入っていたのですが9月になっても、とにかく左タックルとボールが当たると痛くてどうしようもありませんでした。おれの気合が足りないのだろうか？そう考え、メンタル弱い系男子なのか俺は、と若干自我が崩壊しました。

1学年後輩に三四郎という文科系の男が入部してきました。彼も高1の同時期に鎖骨骨幹部骨折を負いました。保存療法を選択したとのことですが、受傷後3・4か月でパチパチタックルに行っていました。俺はあの時期あんなに痛かったし何なら今も痛いのになぜなのだろう。高校生で抱いた違和感が Clinical question であると同時に、ラグビーで挫折し自我を保つために勉強をやったという医師になれた要因でもあります（妻には医学部受かったのは、ただの偶

然と言われています）。13歳から17歳の思春期鎖骨骨折について手術療法を行う利点はない（渡部、臨床整形外科、2024）と出ており、鎖骨に限らず余計な骨接合術・手術は後輩に指導すべきでないと考えます。保存療法の重要性を次の世代へ伝え、その上で術前に勉強し知識を前提とした手術をする。手術と保存療法、侵襲と低侵襲の中庸が重要と考えます。

私の考えや行動を理解し、研究の立案・指導・その間の下肢班に所属しながら研究もやるという欲張りな方針に理解を示し、ご指導いただいた解剖学講座超微形態科学分野の澤口教授、高橋先生に深く感謝いたします。さらに中途半端な臨床活動になっていた僕を理解し信じて下さった、下肢班の皆様そして大学の皆様ありがとうございました。最初に学位取得を相談した濱田先生や彰裕先生、公文先生ありがとうございました。もちろんその間も負担をかけた家族・妻に何より感謝いたします。研究や学位への取り組みが、今後の私の仕事と、そして患者さんのためになれば幸いですと考えております。今後どんな形であれ、燃えていきたいと思います。ありがとうございました。





短期留学支援 報告 Kyushu Sholder Arthroscopy Course in Hawaii に参加して

藤元総合病院 整形外科 神谷俊樹

この度、同門会の短期留学支援制度を利用し、2023年9月16日から17日にかけてハワイで行われた Kyushu Sholder Arthroscopy Course in Hawaii に参加させていただきました。出発時落雷の影響で飛行機が大幅に遅延し、現地に到達するか危ぶまれる等のアクシデントもありましたが、同門の長澤 誠先生を始め、熊本大学の唐杉先生、佐世保共済病院の水城先生といった九州の肩関節外科医の先生方に2日間集中して肩関節鏡の基礎をご指導いただきました。

整形外科を志した時から肩関節をはじめとした上肢疾患に興味を抱いていたのですが、一整形外科医としての実力不足から日常診療に追われる中で肩関節手術、特に関節鏡手術に触れる機会が少ない日々を過ごしておりました。そんな中、関節鏡手術などの環境が整っている藤元総合病院にお世話になっているご縁もあり、長澤先生にこのコースにお誘いいただきました。コース中は腱板断裂と Bankart 損傷のモデルに対して関節鏡の基本操作・手技等を2日間かけて修練することができました。教科書やシミュレーター等とはイメージや実際の操作感覚が異なり、慣れることで精一杯という状態でしたが、長時間集中して関節鏡操作を詰め込む機会自体が貴重で非常に有意義な時間となりました。先を行く同世代の先生方の姿は非常に刺激にもなりましたし、このコースに参加された先生方と交流することで多くの貴重なご意見を伺うこともできました。九州内の肩関節外科の先生方と

のつながりも今回のコースに参加できたことによる大きな収穫であると感じております。帰国後の9月27日には初めて関節鏡下腱板断裂手術を長澤先生のご指導の下執刀させていただき、肩関節外科としての大きな一歩を踏み出すことが出来ました。

円安・物価高の波を痛感させられた日々ではありましたが、このような貴重な機会を得られたのも、お誘いいただいた長澤先生、送り出して下さった矢野先生・黒木 智文先生をはじめ、多くの同門の先生方のご支援・ご協力のおかげです。この場をお借りして御礼申し上げます。より成長していけるよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。この度は誠にありがとうございました。





第7回日本リハビリテーション 医学会秋季学術集会を終えて

宮崎大学医学部附属病院リハビリテーション部 荒川 英 樹

令和5年11月3-5日に開催されました第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会に關しまして御報告させていただきます。帖佐悦男病院長を会長として「リハビリテーション医学イノベーション～継承と革新～」をテーマに掲げ、宮崎・シーガイアコンベンションセンターを会場として開催し、全国から2645名の方々に参加登録をいただくと共に、開催後のオンデマンド配信でも7234回の視聴回数を記録するなど、成功裡に全日程を終了することができました。

日本リハビリテーション医学会秋季学術集会は、2016年に会員総数が1万人を超え大規模化した日本リハビリテーション医学会において、これまで春のみの開催であった学術集会を年2回の開催方式に変更し、多くのリハビリテーション医学・医療に携わる医師、療法士や義肢装具士などの多彩なりハビリテーション専門職の研鑽や研究発表の機会を拡大することを目的として、2017年より開催されています。今回の宮崎県での開催に際しましては、特別講演として室伏広治スポーツ庁長官から「国民のライフパフォーマンス向上に向けた取組」、基調講演では横手幸太郎先生（全国医学部長病院長会議会長・千葉大学医学部附属病院長）から「コロナ禍から医師の働き方改革へ：ピンチを乗り越えるマネジメント」を現地に於て御講演いただき、海外招待講演ではBruce Reider先生（AOSSM Executive Editor and AJSM and OJSM Editor-in-chief）から「Getting Your Research Published（トップジャーナルへのアクセプトの秘

訣など）」をビデオ講演いただきました。とても示唆に富んだ有意義なお話を拝聴することができ、特に室伏長官の講演では定員400名の第1会場で立ち見がでるほどの盛況を博していました。全体としては、上記講演のほか、会長講演、教育講演64セッション、シンポジウム14セッション、他学会合同シンポジウム7セッション、ワークショップ3セッション、専門医規定講習会8セッション、指導医講習会2セッション、企業協賛セミナー13セッションを企画するとともに、一般演題として口演発表271演題、ポスター発表400演題の計671演題が採択され、発表会場では参加者同士の活発な議論がみられました。また、大会2日目には宮崎の食やお酒を楽しんでいただくため、シェラトン・グランデ・オーシャン施設内のグリーンガーデンにて全員懇親会を開催しました。風もなく晴天という素晴らしい天候にも恵まれ、300名ほどの参加者が集い、「これまでの学会で最高の懇親会だった」とのありがたい評価もいただきました。

学会を開催するにあたり、同門会の先生方、医局員の先生方、リハビリテーション部の皆様、事務の皆様の御支援、御協力をいただくとともに、潤和会記念病院や延岡リハビリテーション病院の療法士の皆様、宮崎保健福祉専門学校の教員と学生の皆様にも御支援、御協力をいただきました。皆様の一致団結した御協力の賜物として、日本リハビリテーション医学会の歴史に残る、素晴らしい全国学会が開催できたものと心より嬉しく思います。本当にありがとうございました。



第 25 回同門会テニス大会報告

尾田整形外科医院 尾 田 朋 樹

令和 5 年 11 月 23 日（祝・勤労感謝の日）、エントランスプラザ・テニスコートにて毎年恒例の同門会テニス大会が開催されました。天候にも恵まれ、参加メンバーが日頃の練習の成果を実感しつつ、程よい緊張感の中で競い合い、楽しい時間を共有できる親睦の会です。内に秘めた闘志で連覇を目指す神菌先生（かみぞの整形外科）、密かに優勝を狙い闘志を燃やす松本先生（三財病院）、不気味な静けさで存在感を放つ柏木先生（橘病院）・・・、様々な思惑の中で優勝したのはダークホースの私、尾田（尾田整形外科）でした。思い返せば 10 年以上前、「優勝者は次回の幹事」という不文律の中で、獲得ポイント集計時の微妙な雰囲気を

払拭すべく、私が永久幹事を申し出て以来の優勝です。特に感慨深いものではありませんが（笑）、現在は大会終了後のファミレスでのトロフィー授与式と賞品を省略し、任意参加で当日夜に酒宴の会を開くのも毎年恒例になりました。教室からの補助費は全額コート代（2 面、3 時間）とボール代に充てるため、参加費用は実質無料～1,000 円程度（不足分のみ）とお得です。レベルは初中級～中級レベルで経験者であれば敷居は決して高くありませんので、お酒が好きな人もそうでない人も、興味のある方は同門会事務局経由でご一報ください。随時メンバー募集中です。



第 30 回同門会ゴルフ大会を終えて

県立日南病院 整形外科 平 川 雄 介

平素よりお世話になっております。

2023 年 11 月 26 日に令和 5 年度の同門会ゴルフに参加させていただきました。天候にも恵まれ多くの先生方と交流させていただきました。

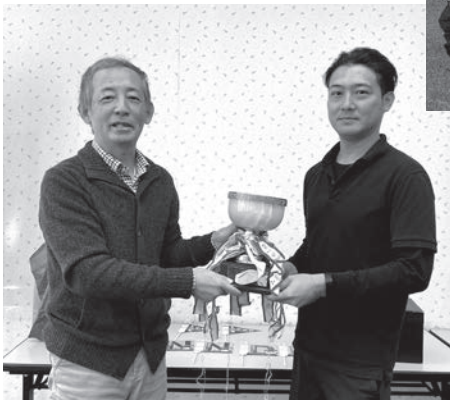
5 組中の 4 組目で、福島秀先生、比嘉先生と fun golf で楽しく過ごすことができました。途中で前の組の先生方に打ち込んでしまったり、右に左にボールを探しに行ったりとご迷惑をおかけしましたが、なんとか 103 といういつも通りのスコアで終了し、幸いにもダブルペリアの恩恵を最大限に活用し優勝させていただきました。

した。100 を超えていてダブルペリアで優勝するのは珍しいとお聞きし、運のおかげだと痛感しております。

去年の柳園先生に続き、日南方面の連続優勝とさせていただきました、それ以上に仕事に関しても頑張っていきたいと思っております。当日、当直や待機を代わりにしていただいた先生方に感謝申し上げます。

また来年は私より若い先生たちの参加も是非お待ちしております。

ありがとうございました。





第 20 回帖佐杯ゴルフ大会報告 ～ 20 年分の感謝を込めて～

宮崎江南病院 益山 松三

2024/4/7 小雨降るレイクサイド、最難関の 17 番を安全にボギーで切り抜けた私は内心勝利を確信していた。『18 番ロング残して 4 オーバーか。流石の豪族もこの雨の中 75 では回れまい、フッ』心の中の声が漏れたのか？実際につぶやいてしまったのか？隣にいる WBC 帯同男の長澤が突如声を発した。「マスピー！何ニヤついてんだ！？あんた豪族に 1 打負けちょっぞ！！」
・・・・・・？？

『どうした、長澤！？礼儀正しいおまえらしくないじゃないか！？先輩に対するその言い草はまるで三橋だぞ（怒）。』一瞬怒りの表情を向けてしまったが、実際には「益山先生、江夏さんに 1 打負けてますよ。」という親切なアドバイスをくれたのであった。改めてゴルフカートの順位表を確認すると確かに 1 打ビハインドであった。『やはり最後は都城の豪族が出てきたか、ジリはゴルフに気合い入れすぎて沈んでるな。。アキちゃんと柳さんは今日も叩いている、走りすぎと打ち過ぎかもな。。アンドウ - と秀も後半大叩きだ、昼にハイボール 4 杯は飲み過ぎだな。。フッ』

最近絶好調という噂の入局同期 2 人と親しいゴルフ仲間の順位を確認し、18 番池越えロングでバーディを取る！と改めて決意した。ドライバー、7 W を強振し 2 オンに成功、最後の 1 m を沈めると横から突如「好！好推球！」、前からは「え～～平川でございます（同門会開

会の挨拶風に）」の声が聞こえた。

・・・・・・？？

追い詰められながら目標のバーディー奪取で興奮状態にあったのだろう。実際には横から帖佐先生が「ナイス！ナイスパット！」。前からは平川先輩が「ナイスプレー、ナイスバーディー！」と褒めてくださっていたのだった。結果、37/38 = 75 で 1 打差のベスグロ優勝を勝ち取った私は、帖佐杯優勝カップを大事に抱え帰宅したのであった。

4/23 に 2 回目のコロナ感染し、隔離中の自宅 2 階にて本文章を書いています。39 度の発熱が 36 時間継続し、元々無礼な私が、さらにおかしくなっていますことをお許し頂ければ幸いです。また昨年は（ちば医経塾）なる千葉大学主催の経営セミナーに参加、11 ヶ月 120 時間の病院経営に関する講義やグループ発表を経験し、さらにおかしくなっている気がします（涙）。帖佐杯では平川先生、帖佐先生という大御所と例年同伴させて頂き、今回は久しぶりの長澤先生も同組というペアリングでした。私にとってはとてもリラックスできる組み合わせであり、お三方のおかげでベスグロ優勝という栄光を手にすることが出来ました。幹事の森田雄大先生含めて改めて深謝申し上げます。

我が家のリビングに飾られた優勝カップと一部染み混じりの優勝ペナントを眺めていると、20 年間の思い出が色々と溢れてきます。開催当初はハイビスカス GC で行われることが多

く、帖佐先生の運転手を自ら志願していながら、私が時間を読み違えて主賓を遅刻させてしまう失態もありました。尊敬する本部浩一先生が2008年優勝、日南激務でシャンク病を発症したアキちゃんが涙の復活優勝を2017年に遂げたことも、とても懐かしい思い出です。帖佐杯開催当時、32歳だった私はベスグロを逃したくない気持ちだけでラウンドしていましたが、市原正彬先生や渡辺雄先生との出会いから紳士的にゴルフすることの重要性を学び、最近ようやく52歳なりの大人のプレーが出来るように

なった気がします。

思えば、園田典生先生をはじめとする多くの先輩・友人に支えられて、入局以来楽しいゴルフ人生を歩むことが出来ました。皆様に感謝するとともに、伝統ある帖佐杯の最後の優勝者となり得た名誉を胸に、今後も自分なりのゴルフ道を歩んでいきたいと思います。関係各位の皆様、今後とも御指導御鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。

2024/4/25 宮崎江南病院 益山松三 拝





2023 年西日本整形外科 親善野球大会のご報告

宮崎大学医学部整形外科学教室 長 澤 誠

2019 年に同大会を宮崎で開催して以来、4 年ぶり、佐賀県での開催となりました。

以前は前日のレセプションで抽選会が行われ、直前まで試合時間や組み合わせがわからないといった状況でしたが、コロナ禍を挟んでキャプテン会議も Zoom 開催、抽選会も事前ネット抽選に変わりました。

事前の抽選で決勝まで 4 試合必要なブロックで 1 回戦は九州大学、勝ったら今一番勢いがあると言われていた福岡大学、それを勝つてようやく準決勝という厳しい組み合わせになりました。なんとか福大相手にエース大野を元気な状態でぶつけたいと考え、私長澤が 1 回戦先発しましたが、ふがいないピッチングとなりリリーフの神谷が頑張ってくれましたが 3 - 5 で敗れ

てしまいました。

2024 年の大会は沖縄で開催され、1 日にトーナメントを終わらせるのではなく、2 日間に分けて行うことが決まりました。大会のあり方など変革の時期に来ていると感じます。以前のように勝って当たり前のチームではなくなっていますが、個人的にも体力的限界を感じることも多いですが、研修医や、学生さんの中に野球部出身で整形外科を希望してくれている有望な人材が複数いますので、ベテランと若手の融合したいチームを作っていけるようもう少し頑張っていきたいと思います。大会に 1 軍 2 軍ともに快く送り出してくださる各病院の先生方に心より感謝いたします。



第 97 回 日本整形外科学会学術総 会サッカー大会を振り返って

宮崎大学医学部整形外科学教室 藤 田 貢 司

2024 年 3 月 17 日に日本整形外科学会サッカー大会の南九州予選が、鹿児島県ビーラインスポーツパーク始良・陸上競技場にて行われました。

天気は曇りで、試合途中より大雨となるあいにくの天気でした。

予選のシステムは例年通りで、鹿児島大学、大分大学との総当たり戦で優勝チームが本戦に出場できる仕組みになっています。

今年度もサッカー経験のある先生 2 名の入局がありましたが、平均年齢は…むしろ上がったでしょうか（笑）

1 試合目の大分大学戦は 7-1 で勝利、2 試合目の鹿児島大学戦は 2-2 と引き分けに終わりましたが、得失点差で本戦への出場権を獲得しました。

今年から念願の黒パンツデビュー（40 歳以上で着用）を果たし、スーパーゴールも決めた永井先生、相変わらず切れのある動きを見せた喜多先生・川越亮先生、キャプテン最終年となった日吉先生を始めとしたフィールドプレイヤーの先生方、今回もまた神セーブを連発した小島大先生の活躍があったのは言うまでもありません。

本戦 1 回戦は 5 月 23 日に福岡市・雁ノ巣グラ

ウンドで開催されました。対戦相手は山形大学でした。医学部サッカー部が天皇杯県予選を優勝するなど、伝統的に強豪校のようです。

試合は相手に走力・技術ともに圧倒された内容で、前半から失点を重ね 0-12 での敗戦となりました。山形大学はそのままトーナメントを勝ち進み優勝しました。

濱中先生や新入局の先生方も応援に駆け付けていただいております、せめて一矢を報いたかったのですがそれも叶いませんでした。

試合を振り返ると課題ばかりですが、その中でも見出せた希望は、若手メンバーの実力は他大学と比較しても遜色がないことでしょうか。新入局の鮫島勇汰先生、佐々木一駿先生、榊昂典先生も試合中はベストを尽くし活躍してくれていました。

メンバーの高齢化も進み、定期的な練習も出ていない状況です。中堅～ベテランメンバーの全体的な底上げが勝利には必須と感じました。

今後は横江先生が主将、平川先生が庶務と体制が変わります。私も微力ながら貢献していきたいと思います。

また同門の先生方には、参加者をいつも快く送り出して頂き大変ありがたく思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



野球検診報告 2023

宮崎市郡医師会病院 整形外科 大野 鉄平

2023年12月17日に宮崎大学医学部附属病院にて第14回宮崎県少年野球検診が実施されました。

学生時代、自分は野球部に所属していたためこの野球検診にはスタッフとして参加していました。当時は検診の内容についてはよくわからず、「(用意していただいている)お昼ご飯少ないな、、、」と生意気なことを思ったり、検診後に頂く謝礼金で焼き肉に行ったことをよく覚えています。(とある先輩が鬼主将として君臨していた時代は、全員の謝礼金は部費という名目ですべて野球ボールになりました。とても、とても、うれしかったです。)

そんな学生時代とは違い今回は初めて医師として参加させていただきました。実際の検診では、自分で身体診察から超音波検査まで実施するのでとても責任ある仕事だなと感じました。あれ、これで合ってるのかなと思った時には長澤先生をはじめ、多くの先生方にご指導をいただきとても勉強になりました。

今回、野球検診についての報告を担当させてい

ただくにあたり、報告書を今一度読み返してみました。

今回は465名の野球少年・少女が受診しました。そのうち85名(18%)が二次検診まで進み、そのなかで65名(76%)に何かしらの異常が見つかりました。

また、肘に痛みがあった時に誰かに知らせましたか?というアンケートでは、96%が親や監督・コーチに伝えているそうですが、実際に練習を休んだのは67%とのことでした。

自分が小学生の時と比較するとこの数字は確実に高いと思います。時代の流れもそうですが、この検診を積み重ねてきた影響もあるのだろうと思いました。この先、この数字がもっと高くなることを祈っており、また、貢献したいと思いました。

という背景もあり、整形外科の野球大会を控えています。自分も肘が痛くなったらキャプテンに報告する勇気を持とうと思いました。

ありがとうございました。



2024 年 医局旅行 in 霧島

宮崎県立延岡病院 整形外科 肥 後 聖

今回、2024 年 1 月 7 日から 8 日より医局旅行でラビスタ霧島ヒルズに行かせていただきました。当初予定していた金沢への医局旅行は元旦に発生した能登半島地震のため中止となりました。本来であれば医局の先生方や事務、看護師の方々が参加予定となっていたがキャンセルとなりました。私たち新入局員だけでも行かせたいという帖佐教授の計らいにより、帖佐教授、大野夫妻、松永、肥後の 5 人で旅行に行かせていただきました。

シャトルバスに乗りし、ラビスタ霧島ヒルズに向かう途中、初めに霧島ファクトリーガーデン（霧島酒造）にて昼食をいただきました。肉料理などと共に全員で霧島ビールの飲み比べセットを注文しました。5 種類の中でそれぞれ好みがあり、ペールエールと日向夏のフレイバーが人気でした。食後には関之尾の滝を観に行きましたが、リニューアルオープンのために工事されており景色を楽しむことが出来ませんでした。関之尾を後にし、ホテルへと向かいました。

ラビスタ霧島ヒルズは霧島にある高級な宿です。ホテルへチェックインし部屋へ向かいしました。部屋は広々としており、露天風呂もついていました。夕食までは各々がホテル内でくつろぐこととなりました。私は部屋の露天風呂で足

湯をしながらのんびりと過ごしました。その後ホテルにある大浴場へ向かい温泉とサウナに 1 時間ほど入浴し心身共にリラックスすることが出来ました。夕食は全員でホテル内のレストランでフレンチをいただきました。その後私の部屋に集合して全員で 2 次会を行い、歓談しました。その後、ホテルの名物である夜泣きラーメンを食べに向かい、しっかりとシメて終了となりました。翌朝はレストランのビュッフェで豪華な朝食を済ませたあと、名残惜しかったです。ホテルをチェックアウトしました。

ホテルチェックアウト後にはシャトルバスに乗りえびの高原へ向かいしました。えびの高原では霧島連山などの景色を楽しみながら 1 時間弱ほどのハイキングを行い、自然を満喫しました。程よく運動し全員のお腹が空いたこともあり、小林市にある牛心という焼肉屋まで移動し宮崎牛の焼肉を楽しみました。牛タンが格別に美味しかったです。

昼食後、宮崎へ帰路に着き無事事故もなく旅行を完了することが出来ました。1 泊 2 日の医局旅行でしたが、同期と帖佐教授との思い出を残すことができ大変嬉しく思います。いつかまた医局旅行に参加できる日を楽しみにしております。



ファクトリーガーデン



夕食



えびの高原



焼肉



開院の挨拶

神宮 川畑整形外科・内科クリニック 川畑 武彦

2022年11月1日に、「神宮 川畑整形外科・内科クリニック」を開院させていただきました。この度、「同門会誌」に寄稿する機会をいただき、誠にありがとうございます。

当院は宮崎神宮一の鳥居の隣、宮崎ラーメンの老舗である栄養軒さんの斜め向かいにあります。厚かましくも、激戦区であるこの地で開業させていただいた理由としましては、私が幼少期を過ごした場所であり古くからの知人も多く思い出があること、そして運よく土地との縁にも恵まれたからです。

少し自己紹介を致しますと、私は1975年に鹿児島市で生を受けました。4400g超で産まれ南日本新聞に掲載されるなど期待されましたが、普通に育ってしまいました。その後、幼稚園の時に奄美大島から宮崎に移住して以来、高校卒業までを宮崎市の船塚～神宮の地で過ごしました。高校卒業後は、千葉大学の理学部で生物学を専攻し、卒業後はIT関連の企業でシステムエンジニアをしておりました。社会人生活を送る中で思うところがあり、浜松医科大学を再受験し進学。卒業後は初期研修を経て、横浜市立大学整形外科に入局しました。入局後は大学病院では上肢・腫瘍を中心に経験しましたが、市中病院の期間が長く主に外傷と人工関節、脊椎手術や膝の内視鏡手術等を学ばせてもらいました。そして、横浜市立大学附属市民総合医療センターの高度救命救急センターに勤務していた時、地元宮

崎の整形外科の先生方と将来について相談させていただく機会に恵まれ、伝統ある宮崎大学整形外科の門を叩かせていただくことになりました。宮崎にUターンしてからは、大学病院、宮崎市郡医師会病院、潤和会記念病院で経験を積ませていただき現在に至ります。また、趣味であるサーフィン関係の医療サポートもJPSA（日本プロサーフィン連盟）や宮崎県サーフィン連盟のメディカルチームで経験させていただいております。

クリニックの方は、整形外科診療とリハビリテーションをメインに、午前中は内科の診療も行っています（内科は妻が担当しております）。整形外科・内科ともに特定の専門分野は掲げておりませんが、幅広く様々な疾患に対応できるよう常に心掛けて診療しております。

開院して1年半、ほんの駆け出しでクリニックも軌道に乗ったとは言えず、クリニックの組織としてのシステムもまだ固まらず悪戦苦闘の毎日です。診療においても、特に近隣の中核病院の先生方にはご相談させていただくことも多く、ご迷惑をお掛けしております。

まだまだ道のりは長そうですが、いつか整形外科のgeneralistと胸を張って言える事を目標に、そして患者様から信頼される相談窓口になれるよう、またリハビリテーションの受け皿として地域医療に貢献できるよう精進したいと思っておりますので、同門の皆様、今

後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

最後に、私のわがまを聞いてくださった同門会の先生方皆様に、深く御礼申し上げます。





開院の挨拶

ふかおスポーツクリニック整形外科 深尾 悠

帖佐悦男教授ならびに同門諸先輩方のご支援をいただき、宮崎大学医学部附属病院のお膝元宮崎市清武町にて、『ふかおスポーツクリニック整形外科』を開院いたしました。宮崎大学医学部整形外科へ入局し約15年、大学病院から始まり、宮崎市郡医師会病院、大江整形外科病院に勤務をさせていただきました。勤務中は整形外科医としての心構えから、入院管理や手術、外来診療まで、患者さんとの関わり方や、チームスタッフとの連携など懇切丁寧にご指導いただきました。この場をお借りしまして、多大なご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

令和5年11月1日に開院した当クリニックでは【身体を動かす喜びをすべての方に】をモットーに、老若男女を問わず身体を動かすことに不安や問題を抱えている方の一助になればという思いで開院させていただきました。これまで医局在籍中も外来診療を担当させていた多く機会が多く、その中で手術加療を行うまでではないが、薬の処方や注射などでは運動時や日常生活でのちょっとした不具合に対応できていない場面にたびたび直面してきました。そのような方々にもっと良質で豊富なりハビリテーションが提供できればという悩みを抱えておりました。当クリニックでは信頼できる理学療法士が4名（日本スポーツ協会公認アスレチック

トレーナー2名含む）入職してくれましたので、今後はその強みを生かし、運動器の不安や問題に対し良質で豊富なりハビリテーションを提供することで、地域の皆様の運動器の健康に寄与できればと考えております。

また開院に際し、近隣の先生方にご挨拶に伺った際には、多くの先生方が気さくに話してくださり、大きな安心感を得ることができました。同門会に参加させていただいた際にも多くの先生方から祝いのお言葉や、身体を気遣ってくださるお言葉をいただき、改めてこれまでの環境のありがたみを痛感するとともに、禪を締め直す思いがしました。

開院して6か月余が経過し、慣れない診療以外の業務も頼りになるスタッフに支えられ、なんとかやり過ごしております。そんなスタッフや来院してくださる患者さんたちの日々の笑顔や笑い声を目にするたび、つくづく私の人生は人に恵まれているなあ実感する毎日です。

今後はいち開業整形外科医として、微力ながら宮崎県の医療に貢献できるよう努力してまいります。またこれまでご指導ご鞭撻いただいた同門の先生方の活動に少しでも貢献できればと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



賛助会員入会ごあいさつ



医療法人共生会びろうの樹脳神経外科 菅田 真生

発展を続ける宮崎大学医学部整形外科学教室同門会の末席に、賛助会員として加えて頂くこととなりました医療法人共生会 菅田真生と申します。令和6年同門会誌の場を頂戴し、入会のご挨拶をさせていただきます。

平成12年鹿児島大学を卒業し鹿児島大学脳神経外科学教室へ入局、鹿児島大学病院および関連施設での研修後、平成30年医療法人共生会びろうの樹脳神経外科へ入職しました。当院は宮崎県の南端に面する鹿児島県志布志市にあり、串間市・都城市へは車で約30分の距離です。平成8年開設の有床診療所で、脳卒中・頭部外傷・てんかん・認知症等を主な対象疾患とし、年間200例程度の直達・血管内手術も行っています。またかかりつけ医として高血圧症・糖尿病等の基礎疾患に対する外来診療を行いながら、通所リハビリテーション、介護事業所を併設しています。平成15年2つ目の有床診療所としてびろうの樹整形外科を開設し、令和2

年より弟である菅田耕が院長として勤めております。令和5年10月法人開設者である菅田育穂が死去しましたが、故人が計画しました3つの有床診療所を統合し回復期病床を有する新病院の設立を、令和7年6月開院を目標に鋭意準備中です。

これまで教室および同門会の先生方より熱心なご指導を賜りましたこと、日々の診療支援・手術指導を頂いておりますことを、改めまして御礼申し上げます。令和5年同門会誌を拝見しますと、豊富な臨床業績はもちろんのこと、活発な臨床研究・学会活動に加え、限られた人員のなかで安定した新人教育、地域医療への貢献を確立しておられ、その教室運営に敬服しております。整形外科医1名での診療体制であり地域医療への貢献は限られますが、今後も変わらぬご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

新入会員自己紹介（正会員）



名 前：佐々木 一駿

生年月日：1990 年 2 月 18 日

卒業高校：宮崎県立延岡高等学校

卒業大学：宮崎大学

はじめまして。医師 7 年目、整形外科 5 年目の佐々木一駿と申します。延岡市出身です。高校卒業後は、東京にある国際基督教大学（ICU）に進学、将来就く仕事を考えたときに医師になりたいと思い、卒業と同年に宮崎大学へ入学しました。

部活動は、水泳部・陸上部に所属し、水泳部では部長も務めました。学生時代は、個人的にトライアスロン競技にも打ち込んでおり、目標であったインカレ出場も果たしました。シーガイアトライアスロンにも何度か出場しておりますが、今後はメディカル側でサポートができればと思っています。

整形外科を目指すきっかけは、これまでのスポーツ分野での親近感があったことはもちろんですが、術後の経過で元気になっていく患者さんの様子をみていく中で、やりがいを感じたことが一番大きかったと思います。初期研修は福岡県、整形外科専門医研修は熊本県で行い、紆余曲折ありましたが、昨年度専門医を取得して、4 月より入局いたしました。

趣味というほどではありませんが、身体を動かすこと、お酒を飲むこと、ご飯を食べることが好きです。

今後は整形外科分野に貢献できるよう、精進していきたいです。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

新入会員自己紹介（正会員）



名 前：榊 昂典

生年月日：1993 年 12 月 19 日

卒業高校：大阪府立茨木高等学校

卒業大学：宮崎大学

お初にお目にかかります。榊 昂典と申します。この度、宮崎大学整形外科に入局させていただきました。よろしくお願い致します。生まれも育ちも大阪府高槻市で、途中長崎大学歯学部にしり寄り道をさせていただきます、宮崎大学医学部を卒業させていただきました。

中学時代は、バスケットボールをしていましたが、高校時代からは軽音楽部で主に歌を担当しておりました。研修医として、県立日南病院で学ばせていただいた際より整形外科の魅力に惹かれ、大学での1ヶ月の研修や様々な縁で入局させていただくことができました。諸先輩方のかっこいい背中を追いかけて、自分も一人前になれるように一生懸命頑張りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



名 前：鮫島 勇汰

生年月日：1996 年 7 月 5 日

卒業高校：宮崎県立都城西高等学校

卒業大学：宮崎大学

今年度、宮崎大学整形外科に入局させていただきました、鮫島勇汰と申します。

鹿児島県曾於市出身で都城西高校卒業後、宮崎大学医学部に進学しました。大学卒業後、県立宮崎病院で初期研修を行い、今年度宮崎大学整形外科に入局させていただきました。

趣味は海外サッカー観戦、筋トレ、ドライブです。今後はゴルフなどにも挑戦してみようと思っています。慢性疾患だけでなく、スポーツや外傷など幅広い分野があるところが整形外科の魅力だと感じています。

ご迷惑をおかけすることもたくさんあるかと存じますが、日々精一杯努力して参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

新入会員自己紹介（正会員）



名 前：田中 涼太

生年月日：1997 年 12 月 14 日

卒業高校：宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校

卒業大学：宮崎大学

今年度宮崎大学整形外科に入局させていただきました、田中涼太と申します。学生時代はバレーボールをやっており、整形外科の先生のお世話になる機会も多く、以前から整形外科には興味がありました。さらに研修医 2 年目の時に大学の整形外科を選択し、大学の先生方からの熱烈的な勧誘を受け、整形外科の道に進むことを決めました。バレーボールは小学校から大学までやっていて、ポジションはセッターでした。現在もミニバレーをやっておりますが、歴に見合った華麗なプレーはできておりません。専攻医になって 2 ヶ月が経とうとしていますが、分からないことだらけで、日々自分の未熟さを痛感しております。少しでも早く先生方のような整形外科医になれるよう、一生懸命頑張ります。先生方にはご迷惑をおかけする事も多いと思いますが、ご指導ご鞭撻の程、宜しく願いいたします。



名 前：土屋 慧祐

生年月日：1996 年 7 月 26 日

卒業高校：弘学館高等学校

卒業大学：長崎大学

生まれは都城市、中学まで宮崎市で過ごしていました。高校より県外（佐賀、北九州、長崎）に出て、初期研修に際して故郷に戻ってきました。

働き始めてからはかなり運動不足な日々を過ごしていますが、大学までは様々なスポーツに触れてきました（小学校：ハンドボール、中学：野球、高校・大学：卓球）。医師を目指す自分が、好きなスポーツとかかわることのできる整形外科という仕事に自然とあこがれを持つようになり、現在夢を叶えることができ大変ながらも楽しく働かせていただいております。趣味は野球観戦で、その趣味も高じて肩・肘領域の診療に興味を持っております。

まだまだ至らない点も多くご迷惑をかけることが多いと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

新入会員自己紹介（正会員）



名 前：山下 紀美子

生年月日：1990 年 2 月 7 日

卒業高校：宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校

卒業大学：宮崎大学

宮崎大学整形外科に入局させていただいた山下 紀美子と申します。

幼い頃から宮崎で育ち、現在実家は北諸県郡三股町にあります。宮崎と言えばプロ野球のキャンプや、マリンスポーツ、太平洋マラソンなどスポーツと関係が深い地域ですが、私自身は小さい頃から水泳をしていました。高校卒業後まで水泳や競泳を続けていましたが、今ではプールに行く機会も減り、また何かの機会泳げる時間を作れたらいいなと思っています。学生の頃から整形外科医の先生方に憧れており、少しでも先生方に近づけたらという思いで整形外科医を志すこととなりました。まだまだ未熟で日々の診療でも助けて頂いており、毎日のように先輩方のすごさを実感しています。

亀のような歩みですが一歩ずつ精進していきますので、ぜひ今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



名 前：坂本 竜一

生年月日：1995 年 9 月 8 日

卒業高校：宮崎県立宮崎西高等学校

卒業大学：宮崎大学

令和 6 年度より宮崎大学リハビリテーション科専門研修プログラムを専攻し、整形外科の同門会に入門させていただきました坂本竜一と申します。

宮崎生まれ宮崎育ちで、現在は研修プログラムの協力病院である“ちゅうざん病院”がある沖縄県で初の県外生活を送っております。小学生の頃から柔道をしており、宮崎大学でも柔道部に所属しておりました。

趣味は釣りで沖縄ならではの Big fish を釣ることも密かな目標にしております。学生時代に荒川先生（現 宮崎大学医学部附属病院 リハビリテーション部 教授）の外来に陪席させていただき、患者さんを長い期間診ることが出来て退院後の実際の生活に関わる医療であることに興味をもったことがリハビリテーション科医を志すきっかけとなりました。

同門会の一員として日々精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

新入会員自己紹介（正会員）



名 前：天野 翔太

生年月日：1990 年 8 月 1 日

卒業高校：東大寺学園高等学校

卒業大学：防衛医科大学校

2024 年 8 月より宮崎大学医学部整形外科学教室同門会に入会させていただきました天野翔太と申します。出身は宮崎市（旧清武町）で大淀小学校・宮崎大学附属中学校を卒業し、県外の高校を経て 2015 年に防衛医大を卒業しました。大学卒業後は陸上自衛隊整形外科医官として防衛医大病院や各地の自衛隊病院などで勤務しましたが、幸か不幸か大きな災害派遣や海外派遣の機会には巡り合わず、主に日常診療や駐屯地の隊員の健康管理等の業務に従事していました。義務年限の卒後 9 年が経過し今後の自身の身の振り方を考えた際に、地元宮崎で働きたい思いが強くなり、自衛隊を退職し宮崎大学に入職させていただきました。整形外科を志したきっかけは、学生の病院実習の際に当時の担当の先生から熱心にご指導いただいたことと、患者の治療方針の潔さ・シンプルさに感銘を受けたことです。（実際に働いてみてそのような割り切れる症例ばかりではないことに気づかされましたが・・・）経験知識ともに未熟でありまた入職してから日も浅く右往左往する日々で、教室及び同門の先生方には多々ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

1年を振り返って

2023.4.8

新入教室員歓迎会、第16回宮崎整形外科医学奨励賞受賞式・講演



(写真左から)
正会員：肥後 聖 先生、大野 鉄平 先生、松永 美穂 先生
賛助会員：迫田 京佳 先生、朝戸 幹雄 先生、竹之内 剛 先生



(受賞者 写真左から)
日吉 優 先生
宮崎 志保子 先生
梅崎 哲矢 先生

2023.4.24

今里 浩之 先生 学位論文審査会



2023.8.21

エコーセミナー



2023.10.22 市民公開講座

ひむか骨と関節を考える会
—動く喜び、動ける幸せ—

第15回
宮崎リハビリテーション講習会
高次脳機能障害



2023.11.3-11.5

第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会

会場:シーガイアコンベンションセンター



2023.11.19

国体メディカルチェック



2023.11.25

はまゆう整形外科セミナー・同門会忘年会



山口 奈美 先生
『女性アスリートのメディカルサポート』



渡邊 信二 先生
『整形外科医が知っておくべき介護保険』



座長：矢野 浩明 先生

開院の御挨拶



坂田整形外科クリニック
坂田 勝美 先生



ふかおスポーツクリニック整形外科
深尾 悠 先生

2023.12.17

宮崎県少年野球検診



2024.1.4

永井 琢哉 先生 学位記授与



教室主催研究会

◆2023.6.10

第86回宮崎整形外科懇話会

◆2023.5.27

第34回ひむか骨関節・脊椎脊髄疾患セミナー

◆2023.10.21

第69回宮崎県スポーツ学会

◆2023.10.14

第35回ひむか骨関節・脊椎脊髄疾患セミナー

◆2023.12.23

第87回宮崎整形外科懇話会

◆2023.10.15

ロコモメイト養成講座

◆2024.2.10

第46回宮崎リハビリテーション研究会

◆2024.1.27

ロコモメイト
スキルアップ講座

◆2024.3.9

第70回宮崎県スポーツ学会

◆毎月第3水曜日

三水会

第293回 **三水会Zoom
セミナーご案内**

2024年 **2月21日 水 19:00-21:00**

場所：宮崎市よりZoomにて参加
※参加費は無料です。
※Zoomの接続方法は裏面に記載されています。

【趣意表示】
多くの症例に悩まれている方がいます。当院、大学病院にて取り組んでいる最新の医療
技術が皆様にも伝わるように、このセミナーを開催いたします。是非ご参加ください。

【レクチャー】
司会 宮崎大学医学部附属病院 整形外科 中村 善宏
「股関節手術におけるALSアプローチ」
講師：宮崎市立総合医療院 整形外科 北電 尚史先生

★アクセスURL・接続方法は裏面をご覧ください★

遠隔で、宮崎大学医学部、整形外科、三水会
お問い合わせ 1111000000000000 事務局 1111 1111
主催：三水会



同門会総会 議事報告

令和6年度総会：令和6年4月6日（土）17：00～17：30 宮崎観光ホテル

1. 令和5年度（R5.4 / 1～R6.3 / 31）事業報告

（1） 会員状況（令和5年3月31日現在）

正会員：193名、賛助会員：45名

（2） 入会・退会

正会員入会：大野 鉄平 先生（令和5年4月1日付）

肥後 聖 先生（令和5年4月1日付）

松永 美穂 先生（令和5年4月1日付）

賛助会員入会：竹之内 剛 先生（令和5年4月1日付）

迫田 京佳 先生（令和5年4月1日付）

賛助会員退会：甲斐 佐 先生（令和5年10月23日付）

物故会員：菅田 育穂 先生（令和5年10月7日）

鶴田 明土 先生（令和5年12月8日）

結婚：大野 鉄平 先生（令和5年5月7日）

福永 幹 先生（令和5年9月9日）

森田 恭史 先生（令和6年3月21日）

開業：深尾 悠 先生（令和5年11月1日）

（3） 事業報告

令和5年4月8日（土）：第1回役員会、同門会総会、奨励賞、新入局員歓迎会
「宮崎観光ホテル」

8月：第34号同門会誌発行

10月23日（月）：第2回役員会「ホテルメリージュ マンダリン」

11月：同門会名簿・会則発行

11月23日（祝）：第25回同門会テニス大会（優勝者：尾田 朋樹 先生）

11月25日（土）：第3回役員会、はまゆう整形外科セミナー、忘年会
「宮崎観光ホテル」

11月26日（日）：第30回同門会ゴルフ大会（優勝者：平川 雄介 先生）

令和6年3月7日（木）：第4回役員会「ホテルメリージュ マンダリン」

（4） 第16回宮崎整形外科医学奨励賞

受賞：梅崎 哲矢 先生『小児整形外科患者から小児整形外科医へ：1例報告』

日吉 優 先生『18年目の初心』

宮崎 志保子 先生『研究と臨床と私』

(5) 教室支援（留学・学会・研究助成など）

英語論文作成支援経費

短期留学支援費

(6) 会計報告

令和5年度決算は監査報告があり総会にて承認された

2. 令和6年度（R 6. 4/ 1～R 7. 3/ 3 1）事業計画・予算

(1) 令和6年度の予算案は総会（R 6. 4/ 6）にて承認された

(2) 役員会開催

第1回役員会（令和6年4月6日、宮崎観光ホテル）

第2回役員会（令和6年10月、ホテルメリージュマンダリン）

第3回役員会（令和6年11月30日、宮崎観光ホテル）

第4回役員会（令和7年3月、ホテルメリージュマンダリン）

(3) 総会、歓迎会、忘年会開催

令和6年4月6日（土）：同門会総会、奨励賞、新入医局員歓迎会「宮崎観光ホテル」

令和6年11月30日（土）：講演会、忘年会「宮崎観光ホテル」

(4) 第17回宮崎整形外科医学奨励賞

受賞者：川野 啓介 先生、永井 琢哉 先生

＊表彰式および講演は、令和6年4月6日の新入局員歓迎会で実施

(5) 講演会

令和6年11月30日（土）：第16回はまゆう整形外科セミナー

(6) 親睦行事

令和6年11月23日（祝）：第26回同門会テニス大会

令和6年12月1日（日）：第31回同門会ゴルフ大会

(7) 同門会誌第35号発行：令和6年9月発行予定

(8) 同門会会則・名簿発行：令和6年11月発行予定

(9) 教室支援（留学・学会・研究助成など）

第46回九州手外科学研究会（令和7年2月1日、宮崎市民プラザ）

記念祝賀会関連

英語論文作成支援経費

短期留学支援費

教室同門の研究実績

[2022.1 ~ 2022.12]

◆原 著

- 1) Sarcopenia, Ectopic Fat Infiltration into the Lumbar Paravertebral Muscles, and Lumbo-Pelvic Deformity in Older Adults Undergoing Lumbar Surgery.
Lee D, Kuroki T, Nagai T, Kawano K, Higa K, Kurogi S, Hamanaka H,
Chosa E
Spine, 47 (2) : p46–57, 2022, 1
- 2) Serum rheumatoid factor IgA, anti-citrullinated peptide antibodies with secretory components, and anti-carbamylated protein antibodies associate with interstitial lung disease in rheumatoid arthritis
Shomi Oka, Takashi Higuchi, Hiroshi Furukawa, Kota Shimada,
Akira Okamoto, Atsushi Hashimoto, Akiko Komiya, Koichiro Saisho,
Norie Yoshikawa, Masao Katayama, Toshihiro Matsui, Naoshi Fukui,
Kiyoshi Migita and Shigeto Tohma
BMC Musculoskeletal Disorders, 23 : p46, 2022, 1
- 3) 原発性骨粗鬆症に対するロモソズマブの実臨床成績の検討
小牧亘, 深野木快士, 太田尾佑史, 福富雅子, 前原孝政, 内村裕起, 大久保節子,
植村貞仁, 帖佐悦男
日本骨粗鬆症学会雑誌, 8 (1) : p31–43, 2022, 2
- 4) Effect of total hip arthroplasty on improving locomotive syndrome in hip disease patients:
A prospective cohort study focused on total clinical decision limits stage 3
Miyazaki S, Tsuruta K, Yoshinaga S, Yamaguchi Y, Fujii Y, Arakawa H,
Ochiai M, Kawaguchi T, Unoki A, Sakamoto T, Tajima T, Nakamura Y,
Funamoto T, Hiyoshi M, Chosa E
Journal of Orthopaedic Science, 27 (2) : p408–413, 2022, 3
- 5) Symptomatic discoid lateral meniscus shows a relationship between types and tear patterns, and between causes of clinical symptom onset and the age distribution
Nami Yamaguchi, Etsuo Chosa, Takuya Tajima, Yudai Morita, Takuji Yokoe
Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy,
30 (4) : p1436–1442, 2022, 4

- 6) Angiotensin II Induces Aortic Rupture and Dissection in Osteoprotegerin-Deficient Mice
Toshihiro Tsuruda, Atsushi Yamashita, Misa Otsu, Masanori Koide,
Yuko Nakamichi, Yoko Sekita-Hatakeyama, Kinta Hatakeyama,
Taro Funamoto, Etsuo Chosa, Yujiro Asada, Nobuyuki Udagawa,
Johji Kato, Kazuo Kitamura
Journal of the American Heart Association,
11 (8) : e025336, 2022, 4
- 7) The impact of helicopter emergency medical services and craniocervical traction on the
early reduction of cervical spine dislocation in a rural area of Japan
Deokcheol Lee, Keisuke Kawano, Shotaro Ishida, Yoichiro Yamaguchi,
Tomofumi Kuroki, Takuya Nagai, Kiyoshi Higa, Syuji Kurogi,
Hideaki Hamanaka, Hidenobu Ochiai, Etsuo Chosa
Journal of Orthopaedic Science, 27 (3) : p606–613, 2022, 4
- 8) A longer duration from injury to surgery is associated with preoperative deterioration of
an isolated meniscal tear in patients aged 40 years or older
Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi, Yudai Morita, Etsuo Chosa
Journal of Orthopaedic Surgery (Hong Kong) ,
30 (2) : p10225536221101692, 2022, 5
- 9) Elective one-stage all four-ligament reconstruction after open knee dislocation: A case
report
Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi, Etsuo Chosa
Journal of Orthopaedic Science, 27 (3) : p743–749, 2022, 5
- 10) Remnant-Reserved Single-Bundle Anterior Cruciate Ligament Augmentation in Multi-
ligamentous Knee Reconstruction
Takuya Tajima, PhD NamiYamaguchi, Yudai Morita, Takuji Yokoe, Makoto
Nagasawa, Tomomi Ota, Shuichi Kawagoe, Yoshihiro Nakamura, Etsuo
Chosa,
The Journal of Knee Surgery, 2022, 6

- 11) EPLIN β Is Involved in the Assembly of Cadherin-catenin Complexes in Osteoblasts and Affects Bone Formation
Shihoko Miyazaki, Taro Funamoto, Tomohisa Sekimoto, Syuji Kurigi,
Tomomi Ohta, Takuya Nagai, Takuya Tajima, Mai Imasaka, Kumiko
Yoshinobu, Kimi Araki, Masatake Araki, Narantsog Choijookhuu,
Yoshitaka Hishikawa, Etsuo Chosa,
ACTA HISTOCHEMICA ET CYTOCHEMICA, 55 (3) : p99–110,
2022, 6
- 12) 宮崎県の高校ラグビーにおけるメディカルサポートー3年間の外傷調査ー
森田恭史, 今里浩之, 岩佐一真, 横江琢示, 森田雄大, 比嘉聖, 山口奈美,
中村嘉宏, 田島卓也, 帖佐悦男, 吉川大輔
九州・山口スポーツ医・科学研究会誌, 33 : p37–40, 2022, 7
- 13) サーフィン競技会における医療体制の向上と重症事故発生予防を目的とした安全評価法の作成
石田翔太郎, 小島岳史, 帖佐悦男, 田島卓也
九州・山口スポーツ医・科学研究会誌, 33 : p6–11, 2022, 7
- 14) サーファー外来ははじめました
小島岳史, 柏木輝行, 岩佐一真, 吉田尚紀, 帖佐悦男
九州・山口スポーツ医・科学研究会誌, 33 : p1–5, 2022, 7
- 15) Spatiotemporal expression of HMGB2 regulates cell proliferation and hepatocyte size during liver regeneration
Koichi Yano, Narantsog Choijookhuu, Makoto Ikenoue, Fidya,
Tomohiro Fukaya, Katsuaki Sato, Deokcheol Lee, Noboru Taniguchi,
Etsuo Chosa, Atsushi Nanashima, Yoshitaka Hishikawa
Scientific Reports, 12 (1) : p11962, 2022, 7
- 16) 短下肢装具が脳性麻痺片麻痺児に及ぼす影響についての三次元歩行分析
梅崎哲矢, 川野彰裕, 門内一郎, 帖佐悦男
日本脳性麻痺の外科研究会誌, 31 : p35–40, 2022, 7
- 17) The anterior talofibular ligament ratio was greater in young men with generalized joint laxity than in those without generalized joint laxity.
Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi, Yudai Morita, Etsuo Chosa
Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy, 2022, 8

- 18) 健常者スポーツ, パラスポーツの相互理解を目指してー合同メディカルチェックの試みー
喜多恒允, 田島卓也, 横江琢示, 森田雄大, 長澤誠, 山口奈美, 帖佐悦男
日本臨床スポーツ医学会,
30 (3) : p695-702, 2022, 8
- 19) 化膿性肩関節炎後にリバース型人工肩関節全置換術を施行した1例
泉俊彦, 長澤誠, 川越秀一, 大田智美, 帖佐悦男
肩関節, 46 (1) : p254-257, 2022, 8
- 20) HMM-Based Action Recognition System for Elderly Healthcare by Colorizing Depth Map.
Ye Htet, Thi Thi Zin, Pyke Tin, Hiroki Tamura, Kazuhiro Kondo,
Etsuo Chosa
International Journal of Environmental Research and Public Health,
19 (19) : p12055, 2022, 9
- 21) 骨軟部組織感染症に対する局所高濃度抗菌薬灌流療法 (iSAP/iMAP) による治療経験
北堀貴史, 森治樹, 池尻洋史, 福永幹, 神谷俊樹, 塩月康弘
整形外科と災害外科, 71 (1) : p62-65, 2022, 9
- 22) 関節鏡下腱板修復術前後におけるT-scale (Translation of the humeral head-scale) と
Critical shoulder angleの関係
岩崎大志, 海江田英泰, 前迫真吾, 谷口昇
整形外科と災害外科, 71 (3) : p386-389, 2022, 9
- 23) 膝関節内の遺残散弾が原因と思われる変形性膝関節症の1例
藤善卓弥, 恒吉康弘, 川畑英之, 永吉隆作, 富村奈津子, 古賀公明, 吉野伸司,
川内義久, 谷口昇
整形外科と災害外科, 71 (3) : p438-441, 2022, 9
- 24) 観血的治療を要したJuvenile Tillaux骨折の2例
北堀貴史, 森治樹, 池尻洋史, 福永幹, 神谷俊樹
整形外科と災害外科, 71 (3) : p520-523, 2022, 9
- 25) 足趾末節骨伸筋腱付着部剥離骨折に対して経皮的鋼線固定術を施行した2例
藤善大成, 島ノ江研斗, 上釜浩平, 瀬戸山傑, 中島隆之, 谷口昇
日整形外科と災害外科, 71 (3) : p580-583, 2022, 9

26) 特発性脊髄硬膜外血腫の小経験

石原和明, 川野啓介, 木戸義隆, 高橋巧, 小菌敬洋, 栗原典近
整形外科と災害外科, 71 (3) : p592-594, 2022, 9

27) 石灰沈着性頸長筋炎の一例

山田佳奈, 松山金寛, 菊野竜一郎, 冨永博之, 谷口昇
整形外科と災害外科, 71 (3) : p603-605, 2022, 9

28) びまん性突発性骨増殖法に伴う腰椎骨折に対しDouble endplates penetrating screw (DEPS) 法にて後方固定術を施行した一例

黒木啓吾, 黒木智文, 永井琢哉, 比嘉聖, 黒木修司, 濱中秀昭, 帖佐悦男
整形外科と災害外科, 71 (3) : p352-354, 2022, 9

29) 頸椎前方固定術後の食道損傷2例

河野翔, 黒木智文, 李徳哲, 永井琢哉, 比嘉聖, 黒木修司, 濱中秀昭, 帖佐悦男
整形外科と災害外科, 71 (3) : p333-338, 2022, 9

30) 非定型大腿骨転子下骨折術後に偽関節によるインプラント折損に対してセメント人工骨頭置換術を施行した一例

福永幹, 神谷俊樹, 北堀貴史, 池尻洋史, 森治樹
整形外科と災害外科, 71 (4) : p849-852, 2022, 9

31) 誘因なく発症した前腕急性コンパートメント症候群の一例

天辰愛弓, 松野下幸弘, 岩崎正大, 桑畑健太郎, 城光寺豪, 瀬戸山傑, 嶋田博文,
中村雅洋, 安武祐貴, 谷口昇
整形外科と災害外科, 71 (4) : p816-818, 2022, 9

32) 当科における無計画切除後に追加広範切除を行った粘液線維肉腫の治療成績

大西啓志朗, 増田裕介, 佐々木裕美, 篠原直弘, 永野聡, 谷口昇
整形外科と災害外科, 71 (4) : p737-739, 2022, 9

33) 当院における足舟状骨疲労骨折の治療経験

佐保卓, 東郷泰久, 海江田光祥, 高野純, 有島善也, 小倉雅, 谷口昇
整形外科と災害外科, 71 (4) : p633-637, 2022, 9

34) 診断に時間を要したIliosacral screw挿入に伴う上殿動脈仮性動脈瘤の1例

森田恭史, 今里浩之, 日吉優, 山元楓子, 平川雄介, 山口洋一朗, 船元 太郎,
中村 嘉宏, 坂本 武郎, 帖佐 悦男
整形外科と災害外科, 71 (4) : p842-844, 2022, 9

- 35) 股関節鏡での摘出術後にSurgical dislocationを用いて摘出を行った股関節滑膜性軟骨腫症の一例
山元楓子, 日吉優, 今里浩之, 平川雄介, 山口洋一郎, 中村嘉宏, 船元太郎,
坂本武郎, 帖佐悦男
整形外科と災害外科, 71 (4) : p744-746, 2022, 9
- 36) 足部びまん性色素性絨毛結節性滑膜炎に対し, 関節鏡下腫瘍切除術を施行した一例
外山宗樹, 横江琢示, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 長澤誠, 森田雄大,
川越秀一, 帖佐悦男
整形外科と災害外科, 71 (4) : p725-729, 2022, 9
- 37) 転位の大きい上前腸骨棘裂離骨折に対してSuture anchorを用いて固定した3例
高橋巧, 帖佐悦男, 栗原典近, 小藺敬洋, 川野啓介, 石原和明, 木戸義隆
整形外科と災害外科, 71 (4) : p625-627, 2022, 9
- 38) Head Injury Assessment in the Elite Level Rugby Union in Japan:Review of 3 Seasons
Takuya Tajima, Osamu Ota, Masataka Nagayama, Masayasu Takahashi,
Mutsuo Yamada, Nobuo Ishiyama, Ichiro Yoshida, Masahiro Takemura,
Kenji Hara, et al.
International Journal of Sports Medicine, 43 (10) : p889-894,
2022, 9
- 39) Does the contralateral healthy ankle of patient with ipsilateral mechanical lateral ankle
laxity show greater lateral ankle laxity? Evaluation of the anterior talofibular ligament by
stress ultrasonography
Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Shuichi Kawagoe, Nami Yamaguchi,
Yudai Morita and Etsuo Chosa
BMC Musculoskeletal Disorders, 23 (1) : p887, 2022, 9
- 40) 起立と着座動作における足圧中心と表面筋電位測定に基づく膝装具の評価
鄧鋼, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 大内宏輝, 宮崎茂明, 阿部歳樹, 古池仁暢
臨床バイオメカニクス, 43 : p309-318, 2022, 10
- 41) Fixation of an Osteochondral Lesion of the Femoral Intercondylar Groove Using
Autogenous Osteochondral Grafts and Bioabsorbable Pins in a Patient with Open
Physes:A Case Report
Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi, Yudai Morita, Etsuo Chosa
medicina, 58 (11) , 2022, 10

- 42) The Results of Orthopaedic Medical Examinations in Adolescent Amateur Weightlifters
Takui Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi, Makoto Nagasawa,
Yudai Morita, Etsuo Chosa
International Journal of Environmental Research and Public Health,
19 (21) : p13947, 2022, 10
- 43) Morel-Levallee lesionの1例
戸田雅, 矢野浩明, 泉俊彦
宮崎整形外科研究会誌, 27 : p4-5, 2022, 11
- 44) 原発性骨粗鬆症に対するロモソズマブからデノスマブでの後治療の実臨床成績の検討-前治療の影響も含めて-
小牧亘, 深野木快士, 太田尾佑史, 福富雅子, 前原孝政, 内村裕起, 大久保節子,
植村貞仁, 帖佐悦男
宮崎整形外科研究会誌, 27 : p11-17, 2022, 11
- 45) 脆弱性骨折に対する当院の二次骨折予防の取り組みについて
小牧亘, 前原孝政, 太田尾佑史, 内村裕起, 大久保節子, 福富雅子, 深野木快士,
植村貞仁, 帖佐悦男
宮崎整形外科研究会誌, 27 : p18-20, 2022, 11
- 46) 大腿骨転子部骨折術後患者の10年生存率
柏木悠吾, 柏木輝行, 小島岳史, 吉田尚紀, 福嶋研人
宮崎整形外科研究会誌, 27 : p21-22, 2022, 11
- 47) Oxford UKAの経験と考察
石田翔太郎, 川添浩史
宮崎整形外科研究会誌, 27 : p23-25, 2022, 11
- 48) ロボット支援TKAの設置正確性
小島岳史, 柏木輝行, 柏木悠吾, 福嶋研人, 吉田尚紀
宮崎整形外科研究会誌, 27 : p26-28, 2022, 11
- 49) 当院における人工膝関節感染に対する加療と検討
石原和明, 小園敬洋, 森田恭史, 福永幹, 北島潤弥, 川野啓介, 栗原典近
宮崎整形外科研究会誌, 27 : p29-30, 2022, 11

- 50) Pivotal role of High-Mobility Group Box 2 in ovarian folliculogenesis and fertility.
Shinichiro Shirouzu, Naohiro Sugita, Narantsog Choijookhuu,
Yu Yamaguma, Kanako Takeguchi, Takumi Ishizuka, Mio Tanaka, Fidya,
Kengo Kai, Etsuo Chosa, Yoshihiro Yamashita, Chihiro Koshimoto,
Yoshitaka Hishikawa
Journal of Ovarian Research, 15 (1) : p133, 2022, 12
- 51) Investigation of cryotherapy for pain relief after arthroscopic shoulder surgery
Rinko Uchida, Amy Hombu, Yasuyuki Ishida, Makoto Nagasawa,
Etsuo Chosa
Journal of Orthopaedic Surgery and Research, 17 (1) : p553, 2022, 12

◆総 説

- 1) 特集 スポーツ疫学―スポーツ外傷・障害の統計―ラグビーにおける外傷・障害統計
田島卓也, 帖佐悦男, 中村明彦
臨床スポーツ医学, 39 (1) : p74-81, 2022, 1
- 2) 子どものスポーツとロコモ―宮崎県における学童期運動器検診の結果から
田島卓也, 帖佐悦男
CLINICIAN, 69 (3) : p38-43, 2022, 1
- 3) Ganz periacetabular osteotomyの手技と工夫
帖佐悦男
整形外科サージカルテクニック, 12 (2) : p101-108, 2022, 4
- 4) 骨粗鬆症と骨折
帖佐悦男
総合リハビリテーション, 50 (6) : p673-681, 2022, 6
- 5) 幼児・学童期における運動の在り方と医師の関わり (整形外科系)
帖佐悦男
健康スポーツ医学実践ガイド 多職種連携のすすめ, : p39-42, 2022, 6
- 6) 社会参加をサポートするロコモマネジメント―地域共生社会を目指して―
帖佐悦男
日本整形外科学会雑誌, 96 (7) : p542-551, 2022, 7

- 7) COVID-19パンデミック下におけるジャパンラグビートップリーグ運営体制の構築
田島卓也, 堀野哲也, 赤間高雄, 外山幸正, 東原潤一郎, 三森教雄, 天野国明,
岡山明洙, 國島広之, 帖佐悦男, 中村明彦
日本臨床スポーツ医学会誌, 30 (3) : p587-590, 2022, 8
- 8) 股関節疾患に伴う歩行障害
帖佐悦男
日本医師会雑誌, 151 (7) : p1226-1227, 2022, 10
- 9) 腱板断裂治療のエキスパートを目指そう introduction
帖佐悦男
関節外科 基礎と臨床, 41 (11) : p5-5, 2022, 10
- 10) 鏡視下腱板修復術: 腱板断裂は何で縫うか
長澤誠, 帖佐悦男
関節外科 基礎と臨床, 41 (11) : p68-76, 2022, 10
- 11) 膝関節後外側支持機構 (PLC) 損傷に対するmodified Larson法
田島卓也, 帖佐悦男
整形外科サージカルテクニック, 12 (6) : p731-737, 2022, 12

◆学会報告 (口演)

- 1) 側弯が急速に進行したキアリ奇形を伴ったヌーナン症候群の一例
永井琢哉, 黒木修司, 比嘉聖, 黒木智文, 帖佐悦男
第37回九州小児整形外科集談会, 2022, 1, 福岡
- 2) 麻痺性股関節障害に対する外科的治療プロトコールについて
川野彰裕, 帖佐悦男, 門内一郎, 梅崎哲矢
第37回九州小児整形外科集談会, 2022, 1, 福岡
- 3) 健常者スポーツ、パラスポーツの合同を目指して～合同メディカルチェックの試み～
喜多恒允, 川越秀一, 横江琢示, 森田雄大, 長澤誠, 泉俊彦, 山口奈美, 田島卓也,
帖佐悦男
第44回宮崎リハビリテーション研究会, 2022, 2, 宮崎

- 4) 中学生バスケット選手のコンディション自己管理能力アップには女性アスリートダイアリーが有効である

豊永梨紗, 柏木輝行, 小島岳史, 塩崎猛

第44回宮崎リハビリテーション研究会, 2022, 2, 宮崎

- 5) 当院の地域包括ケア病棟入院患者の歩行自立予測因子の検討

上嶋徹, 豊永理人, 林田友樹, 嘉月惟能, 那須優一, 浪平辰州, 北島潤弥

第44回宮崎リハビリテーション研究会, 2022, 2, 宮崎

- 6) 通所リハビリ利用者の転倒リスク予測ツールには何が最も適しているか?

元山翔太, 塩崎猛, 柏木輝行, 小島岳史

第44回宮崎リハビリテーション研究会, 2022, 2, 宮崎

- 7) THA抜去後8年間非荷重期間を経て再々置換術を施行した症例における認知行動療法の成功例

小田洸介, 塩崎猛, 柏木輝行, 小島岳史

第44回宮崎リハビリテーション研究会, 2022, 2, 宮崎

- 8) 股関節屈曲角度の違う下肢伸展挙上時の側腹筋群と胸腰筋膜について

本田真之輔, 伊集院万人, 森川健人, 上原佑衣, 山本さおり, 木村英志, 三股奈津子, 坂田勝美, 安藤徹

第44回宮崎リハビリテーション研究会, 2022, 2, 宮崎

- 9) 再生医療を施行した脊髄損傷患者のリハビリテーションを経験して

川越彩加, 美原伸忠, 柳田梨恵, 永井琢哉, 荒川英樹, 宮崎茂明, 帖佐悦男

第44回宮崎リハビリテーション研究会, 2022, 2, 宮崎

- 10) 神経サルコイドーシスによって口腔期を中心とする摂食嚥下障害、構音障害を呈した症例

柳橋奈帆, 坂元由貴, 荒川英樹, 帖佐悦男

第44回宮崎リハビリテーション研究会, 2022, 2, 宮崎

- 11) 当院におけるがんリハビリテーションの現状と課題について

福田洸希, 久留聖也, 林田友樹, 高田晴紀, 岩崎智代, 嘉月惟能, 浪平辰州, 北島潤弥

第44回宮崎リハビリテーション研究会, 2022, 2, 宮崎

- 12) コロナ禍前後の当院における入院患者のリハビリテーション対象患者の動向について

東友和, 竹井大地, 満安隆之, 砂川一馬, 前原孝政, 蓑原勝哉, 圓福陽介, 茂利久嗣, 野海渉, 渡辺一徹, 植村郁, 太田尾祐史, 植村真人, 深野木快士, 小牧亘

第44回宮崎リハビリテーション研究会, 2022, 2, 宮崎

- 13) 高次脳機能障害者の自動車運転に関する意識調査
小林智之, 中武潤, 荒川英樹, 帖佐悦男
第44回宮崎リハビリテーション研究会, 2022, 2, 宮崎
- 14) 当科におけるRA頸椎病変の手術成績の検討
平川雄介, 黒木智文, 今里浩之, 舩元太郎, 濱中秀昭, 帖佐悦男
第63回九州リウマチ学会, 2022, 3, 福岡
- 15) 膝関節術後に生じた大腿四頭筋収縮不全に対し機能的テーピングを用いたことでエクササイズ効率が向上した一例
郷之原愛也, 徳山沙紀, 尾崎勝博, 原田昭彦, 田島卓也
第66回宮崎県スポーツ学会, 2022, 3, 宮崎
- 16) 左膝外側円板状半月板形成術後の鷲足部痛に対して足部機能に着目した運動療法で階段昇降動作が改善した1症例
岩田昌, 徳山沙紀, 西岡健太, 原田昭彦, 尾崎勝博, 三橋龍馬
第66回宮崎県スポーツ学会, 2022, 3, 宮崎
- 17) 高校空手選手における腰椎分離症発症前後の身体柔軟性の比較
長田響生, 落合優, 鶴木彩, 川口翼, 宮崎茂明, 田島卓也, 山口奈美, 長澤誠, 森田雄大, 横江琢示, 荒川英樹, 帖佐悦男
第66回宮崎県スポーツ学会, 2022, 3, 宮崎
- 18) サーフィン競技会における医療体制の向上と重症事故発生予防を目的とした安全評価法の作成
石田翔太郎, 小島岳史, 田島卓也
第66回宮崎県スポーツ学会, 2022, 3, 宮崎
- 19) サーファー外来はじめました
小島岳史, 柏木輝行, 岩佐一真, 吉田尚紀, 帖佐悦男
第66回宮崎県スポーツ学会, 2022, 3, 宮崎
- 20) 宮崎県におけるラグビー競技会に対する安全度評価：14年間の評価から
吉川大輔, 吉留綾, 甲斐糸乃, 益山松三
第66回宮崎県スポーツ学会, 2022, 3, 宮崎

- 21) サッカープロチームにおけるメディカルサポートの構築ーテゲバジャーロ宮崎のJリーグ参入に際してー
山口奈美, 川越秀一, 横江琢示, 森田雄大, 永井琢哉, 日吉優, 長澤誠, 大田智美, 田島卓也, 帖佐悦男, 樋口潤一, 樋口誠二
第66回宮崎県スポーツ学会, 2022, 3, 宮崎
- 22) 第五中足骨疲労骨折に踵骨骨嚢腫を合併した1例
三橋龍馬, 福田一, 松本尊行, 久保紳一郎, 田島直也, 野崎正太郎
第66回宮崎県スポーツ学会, 2022, 3, 宮崎
- 23) 膝MCL損傷の治療方針～早期修復例の検討～
喜多恒允, 川越秀一, 横江琢示, 森田雄大, 長澤誠, 山口奈美, 田島卓也, 帖佐悦男
第66回宮崎県スポーツ学会, 2022, 3, 宮崎
- 24) 宮崎県における外側型足関節捻挫に対する整形外科医によるマネジメントの現状：宮崎県アンケート調査
横江琢示, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 長澤誠, 森田雄大, 川越秀一, 帖佐悦男
第66回宮崎県スポーツ学会, 2022, 3, 宮崎
- 25) 柔道競技における膝前十字靱帯損傷の特徴
森田雄大, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 長澤誠, 横江琢示, 川越秀一, 帖佐悦男
第66回宮崎県スポーツ学会, 2022, 3, 宮崎
- 26) RELATIONSHIP BETWEEN ANKLE LAXITY AND GENERALIZED JOINT LAXITY IN DSUBJECTS WITH HEALTHY ANKLES
Takuji Yokoe
20th ESSKA CONGRESS, 2022, 4, フランス
- 27) WHAT ARE FACTORS TO ASSOCIATE WITH THE POSTERIOR TOBIAL RETRANSLATION AFTER DOUBLE-DOUBLE POSTEROR CRUCIATE LIGAMENT RECONSTRUCTION WITH AUTOGENOUS HAMSTRING GRAFTS?
Takuya Tajima
20th ESSKA CONGRESS, 2022, 4, フランス
- 28) 側弯症学校検診の現状と未来
黒木浩史
第51回日本脊椎脊髓病学会学術集会, 2022, 4, 神奈川

- 29) 掌側月状骨窩骨片に二重骨折のある橈骨遠位端骨折についての検討
甲斐糸乃, 吉留綾, 戸田雅, 大田智美, 帖佐悦男
第65回日本手外科学会学術集会, 2022, 4, 福岡
- 30) 重度の脊椎強直を起こした乾癬性関節炎の1例
濱田浩朗, 吉川教恵, 税所幸一郎
第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022, 4, 横浜
- 31) 関節リウマチ関連間質性肺病変と抗シトルリン化ペプチド抗体、リウマトイド因子、抗カルバミン化蛋白抗体
岡笑美, 樋口貴士, 古川宏, 島田浩太, 岡本享, 小宮明子, 税所幸一郎, 吉川教恵, 片山雅夫, 松井利浩, 福井尚志, 右田清志, 當間重人
第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022, 4, 横浜
- 32) Neural Network Consoleを利用した股関節X線画像分類モデル作成
山口洋一郎, 平川雄介, 今里浩之, 日吉優, 舩元太郎, 中村嘉宏, 坂本武郎, 帖佐悦男
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 33) 整形外科外傷の教育と研究：日本骨折治療学会の新しい取り組み
渡部欣忍, 今谷潤也, 井上尚美, 岩部昌平, 黒住健人, 帖佐悦男, 徳永真己, 松村福広, 峰原宏昌, 野田知之, 池田和夫, 佐藤徹
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 34) インプラント予後因子に対するHounsfield Unitの有用性
石原和明, 川野啓介, 木戸義隆, 高橋巧, 小藺敬洋, 栗原典近
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 35) 腰椎疾患患者におけるDEXA法を用いた腰椎と大腿骨頸部骨円量の関係
比嘉聖, 濱中秀昭, 黒木修司, 永井琢哉, 黒木智文, 帖佐悦男
第143回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 6, 福岡
- 36) 半月板前付根着部異常と大腿骨形態異常を伴い大腿骨外顆骨軟骨病変を生じたNail-patella症候群の1例
横江琢示, 田島卓也, 山口奈美, 森田雄大, 大田智美, 長澤誠, 川越秀一, 帖佐悦男
第143回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 6, 福岡

- 37) 当科におけるRA頸椎病変の手術成績の検討
黒木智文, 濱中秀昭, 黒木修司, 比嘉聖, 永井琢哉, 帖佐悦男
第143回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 6, 福岡
- 38) 外科的治療を要した橈骨遠位端開放骨折術後の非結核性抗酸菌感染症の1例
北堀貴史, 森治樹, 池尻洋史, 福永幹, 神谷俊樹
第143回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 6, 福岡
- 39) 人工膝関節全置換術後に生じた偽痛風発作の一例
福永幹, 神谷俊樹, 北堀貴史, 池尻洋史, 森治樹
第143回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 6, 福岡
- 40) 小児橈骨遠位端骨折後の偽関節
石原和明, 川野啓介, 木戸義隆, 高橋巧, 小藺敬洋, 栗原典近
第143回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 6, 福岡
- 41) Gustilo III解放骨折にグラム陰性菌をカバーする初回抗菌薬を投与しても手術部位感染は減少しない
鈴木卓, 石井桂輔, 乾貴博, 岡敬之, 黒住健人, 渡部欣忍, 帖佐悦男,
骨折治療学会レジストリー委員会
第48回日本骨折治療学会学術集会, 2022, 6, 神奈川
- 42) 寛骨臼骨折術後成績と術者の手術経験数の関連：多施設後ろ向き観察研究
石井桂輔, 小久保安朗, 神田倫秀, 松垣亨, 宮本俊之, 本宮真, 池間正英, 前原孝,
程原誠, 帖佐悦男
第48回日本骨折治療学会学術集会, 2022, 6, 神奈川
- 43) 骨盤輪骨折に対する術中3D-C t navigationを用いた経皮的screw挿入は透視下挿入よりも安全か？
日吉優, 帖佐悦男, 中村嘉宏, 今里浩之, 山口洋一郎
第48回日本骨折治療学会学術集会, 2022, 6, 神奈川
- 44) 脆弱性骨折に対する当院の取り組みー活動をOLSからFLSに的を絞って得られた効果についての検討ー
小牧亘, 帖佐悦男
第48回日本骨折治療学会学術集会, 2022, 6, 神奈川

- 45) 高齢者四肢長管骨折開放骨折の疫学
大野一幸, 石井桂輔, 黒住健人, 乾貴博, 渡部欣忍, 帖佐悦男
第48回日本骨折治療学会学術集会, 2022, 6, 神奈川
- 46) 大腿骨転子部・転子下骨折術後偽関節症例のサルベージ戦略
今里浩之, 日吉優, 中村嘉宏, 山口洋一郎, 帖佐悦男
第48回日本骨折治療学会学術集会, 2022, 6, 神奈川
- 47) DISHに伴う胸腰椎骨折には椎体終板貫通スクリューと5.5mmチタン合金ロッドのしなりを用いた経皮的後方固定が有用である
永井琢哉, 濱中秀昭, 黒木修司, 比嘉聖, 黒木智文, 帖佐悦男
第12回最小侵襲脊椎治療学会, 2022, 6, 富山
- 48) 健康寿命延伸のために我々自身が改革すべき事、そして伝えるべき事～運動機能低下者に対する乳酸菌含有高タンパク質食の有用性～
中村嘉宏, 帖佐悦男
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2022, 6, 北海道
- 49) 麻痺性股関節完全脱臼に対して筋解離術後に外固定を併用して治療を行った6例
梅崎哲矢, 川野彰裕, 川越悠輔, 帖佐悦男
第61回日本小児股関節研究会, 2022, 6, Web開催
- 50) 右足関節巨大痛風結節に対して外科的切除を行った1例
森治樹, 池尻洋史, 北堀貴史, 帖佐直紀, 喜多恒允
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 51) 手根管開放術中に急性大動脈解離を発症した1例
甲斐糸乃, 益山松三, 吉川大輔, 戸田雅, 鎌田綾
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 52) 橈骨遠位端開放骨折術後の非結核性抗酸菌感染症の1例
北堀貴史, 池尻洋史, 帖佐直紀, 喜多恒允, 森治樹
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 53) 足部コンパートメント症候群の一例
三股奈津子, 黒木修司, 坂田勝美, 安藤徹
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎

- 54) Withコロナ時代の整形外科外傷 当院での医療体制
喜多恒允, 森治樹, 池尻洋史, 北堀貴史, 帖佐直紀
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 55) 脆弱性骨折に対する当院の二次骨折予防の取り組みについて
小牧亘, 前原孝政, 太田尾祐史, 内村裕起, 大久保節子, 福富雅子, 深野木快土,
植村貞仁, 帖佐悦男
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 56) 大腿骨転子部骨折術後患者の10年生存率
柏木悠吾, 柏木輝行, 小島岳史, 吉田尚紀, 福嶋研人
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 57) Oxford UKAの経験と考察
石田翔太郎, 川添浩史
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 58) ロボット支援TKAの設置正確性
小島岳史, 柏木輝行, 柏木悠吾, 福嶋研人, 吉田尚紀
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 59) 腰椎前側方固定術後のインストゥルメンテーション周囲感染の治療経験
鯨島央, 濱中秀昭, 黒木修司, 比嘉聖, 永井琢哉, 黒木智文, 日高三貴
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 60) 当院におけるリバーズ型人工肩関節置換術後感染の2例
川越秀一, 長澤誠, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 森田雄大, 横江琢示, 川越亮,
帖佐悦男
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 61) 整形外科領域感染に対する手術治療
福田一, 田島直也, 久保紳一郎, 三橋龍馬, 高橋巧
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 62) 当院における人工股関節置換術後晩期感染例の検討
日吉優, 坂本武郎, 中村嘉宏, 船元太郎, 山口洋一郎, 今里浩之, 平川雄介,
飯田暁人, 座間味陽, 帖佐悦男
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎

- 63) 当院における人工膝関節感染に対する加療と検討
石原和明, 小蘭敬洋, 森田恭史, 福永幹, 北島潤弥, 栗原典近
第84回宮崎整形外科懇話会, 2022, 6, 宮崎
- 64) 自家ハムストリング腱を用いてBi-socket PCL再建術後に緩みが生じ再建靱帯機能不全を呈する症例の特徴と要因
田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 長澤誠, 森田雄大, 横江琢示, 川越秀一, 帖佐悦男
第47回九州膝関節研究会, 2022, 7, 福岡
- 65) コロナ禍における感染対策に配慮した避難所設営に関する研究
川崎弘貴
第52回日本リハビリテーション医学会九州地方会, 2022, 9, 熊本
- 66) 病理所見より検討した非定型大腿骨骨折の骨癒合遷延の要因
小牧亘, 深野木快土, 植村貞仁, 舩元太郎, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 67) 骨表現型スクリーニングで選別したTmem161a欠損トラップマウスは酸化ストレス応答に関与し骨量増加を呈する
永井琢哉, 関本朝久, 山口洋一郎, 黒木修司, 舩元太郎, 田島卓也, 今坂舞, 吉信公美子, 荒木喜美, 荒木正健, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 68) EPLIN β は骨芽細胞間接着に関与する
舩元太郎, 宮崎志保子, 黒木修司, 関本朝久, 永井琢哉, 大田智美, 田島卓也, 荒木喜美, 荒木正健, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 69) 鎖骨骨幹部骨折に対する筋温存手術の術後改善を目的とした解剖学的研究
今里浩之, 高橋伸育, 澤口朗, 平川雄介, 山口洋一郎, 日吉優, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 70) 重心移動でロボットを操作する「LOCOBOT」は, 人工股関節全置換術後の立位体重負荷率を改善する
宮崎茂明, 山子剛, 荒川英樹, 坂本武郎, 川口翼, 伊東きらり, 中村嘉宏, 日吉優, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎

- 71) Biomechanical effect of intertrochanteric curved varus osteotomy on stress reduction in femoral head osteonecrosis:A finite element analysis
Yuzhu Wang, Yoshihiro Nakamura, Etsuo Chosa, Go Yamako
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 72) 緩みのある高位脱臼したTHAに対して大腿骨遠位短縮骨切り併用し再置換施行した一例
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 日吉優
第49回日本股関節学会学術集会, 2022, 10, 山形
- 73) 当院における人工関節置換術後晩期感染例の検討
日吉優, 帖佐悦男, 坂本武郎, 船元太郎, 今里浩之, 山口洋一朗, 平川雄介
第49回日本股関節学会学術集会, 2022, 10, 山形
- 74) Noonan症候群に伴う側弯症に対して手術を施工した2症例
永井琢哉, 黒木浩史, 比嘉聖, 黒木智文, 帖佐悦男
第56回日本側弯症学会学術集会, 2022, 11, 千葉
- 75) Lenke type1症例に対するCoplanar法における側弯矯正率と肩上方移動との関連
志村有永, 野尻英俊, 森平泰, 新井秀和, 高田知史, 山田勝嵩, 近藤直也,
森野忠夫, 中村英一郎, 友利正樹, 大谷和之, 明田光司, 永井琢哉, 豊田宏光,
伊藤研悠, 片柳順也, 種市洋
第56回日本側弯症学会学術集会, 2022, 11, 千葉
- 76) AIS Lenke type1,2におけるCoplanarによる短期治療成績の検討ー多施設共同研究ー
村上悠介, 森野忠夫, 森平泰, 新井秀和, 高田知史, 山田勝嵩, 近藤直也,
野尻英俊, 志村有永, 中村英一郎, 友利正樹, 大谷和之, 明田浩司, 永井琢哉,
豊田宏光, 伊藤研悠, 片柳順也, 種市洋
第56回日本側弯症学会学術集会, 2022, 11, 千葉
- 77) 多施設データベースによる思春期特発性側弯症に対するCoplanar法の生理的胸椎後弯形成
山田勝嵩, 近藤直也, 森平泰, 新井秀和, 高田知史, 野尻英俊, 志村有永,
森野忠夫, 中村英一郎, 友利正樹, 大谷和之, 明田浩司, 永井琢哉, 豊田宏光,
伊藤研悠, 片柳順也, 種市洋
第56回日本側弯症学会学術集会, 2022, 11, 千葉

78) Lumbar modifier BまたはC胸椎特発性側弯症に対する選択的胸椎固定術のLIVは何を基準とすべきか

森平泰, 新井秀和, 高田知史, 山田勝嵩, 近藤直也, 野尻英俊, 志村有永,
森野忠夫, 中村英一郎, 友利正樹, 大谷和之, 明田浩司, 永井琢哉, 豊田宏光,
伊藤研悠, 片柳順也, 種市洋

第56回日本側弯症学会学術集会, 2022, 11, 千葉

79) Coplanar法でConcave screw densityを減らす事が出来るか?

友利正樹, 森平泰, 新井秀和, 高田知史, 山田勝嵩, 近藤直也, 野尻英俊,
志村有永, 森野忠夫, 中村英一郎, 大谷和之, 明田浩司, 永井琢哉, 豊田宏光,
伊藤研悠, 片柳順也

第56回日本側弯症学会学術集会, 2022, 11, 千葉

80) ジャパンラグビーリーグワンにおける脳振盪評価—ディビジョン1,2,3別の評価—

田島卓也, 中村明彦, 赤間高雄, 三森教雄, 中村夫佐央, 村上英孝, 堀野哲也,
山田睦雄, 吉川大輔, 石川信男, 原賢二, 大垣亮, 帖佐悦男

第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022, 11, 北海道

81) 宮崎県の高校ラグビーにおけるメディカルサポート体制-3年間の外傷調査

森田恭史, 今里浩之, 岩佐一真, 吉川大輔, 中村嘉宏, 田島卓也, 帖佐悦男

第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022, 11, 北海道

82) サッカープロチームにおけるメディカルサポートの構築: Jリーグ参入に際して

山口奈美, 田島卓也, 長澤誠, 森田雄大, 横江琢示, 帖佐悦男

第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022, 11, 北海道

83) Mechanism and pathogenesis of blood-induce articular cartilage degeneration

Takuya Tajima

17th Annual Autumn symposium of the Korean Society of Stem Cell and
Regenerative Medicine for Locomotor System, 2022, 11, 韓国

84) 県境をまたいで転送されたGustilo3B足関節開放骨折—南九州重度四肢外傷トラウマネットワーク初回症例—

村岡辰彦, 上野宜功, 増田圭吾, 日吉優, 今里浩之, 石原和明, 天辰愛弓, 瀬戸山傑
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口

85) 当院における重度四肢外傷治療の実情と今後の課題

日吉優, 帖佐悦男, 中村嘉宏, 今里浩之, 平川雄介, 山口洋一朗, 森田雄大
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口

86) 股関節高位脱臼に対して大腿骨遠位短縮骨切りを併用した人工股関節再置換術の一例

座間味陽, 帖佐悦男, 坂本武郎, 中村嘉宏, 船元太郎, 日吉優, 山口洋一朗,
今里浩之, 平川雄介
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口

87) 第2趾DIP関節脱臼に対する観血的整復術後の早期スポーツ復帰の一例

川越亮, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 長澤誠, 森田雄大, 横江琢示, 帖佐悦男
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口

88) 腰椎前側固定術後のインストゥルメンテーション周囲感染の治療経験

鯨島央, 濱中秀昭, 黒木修司, 比嘉聖, 永井琢哉, 黒木智文, 日高三貴, 帖佐悦男
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口

89) 頸部傍脊椎領域原発悪性リンパ腫に対し、椎弓形成術を施行した小児の1例

飯田暁人, 濱中秀昭, 黒木修司, 比嘉聖, 永井琢哉, 黒木智文, 日高三貴
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口

90) 手の内軟骨腫に対する鏡視下手術における人工骨漏出の検討

橋口大雅, 篠原直弘, 井手貴之, 佐々木裕美, 永野聡, 谷口昇
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口

91) 症候群性側彎症術後遠位偽関節に対し前方固定を追加施行した2例

佐久間大輔, 河村一郎, 富永博之, 徳本寛人, 眞田雅人, 小倉拓馬, 谷口昇,
山元拓哉
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口

92) 妊娠中に下肢麻痺と膀胱直腸障害出現し腹臥位手術に至った2例

小倉拓馬, 富永博之, 河村一郎, 徳本寛人, 佐久間大輔, 眞田雅人, 谷口昇
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口

93) 腱板断裂患者における肘前方突出運動テストと肩関節可動域との関連

上釜浩平, 宮崎宣丞, 海江田英泰, 前迫真吾, 谷口昇
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口

- 94) Withコロナ時代の整形外科外傷 当科での医療体制
喜多恒允, 森治樹, 池尻洋史, 北堀貴史, 帖佐直紀
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口
- 95) 当院における高齢脊髄損傷患者の経験
石原和明, 森田恭史, 福永幹, 北島潤弥, 小菌敬洋, 栗原典近
第144回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2022, 11, 山口
- 96) びまん性骨増殖 (DISH) を伴う椎体骨折に対する治療経験—OPEN法、PPS法、側臥位PPS法、DEPS法—
濱中秀昭, 比嘉聖, 帖佐悦男, 黒木浩史
第31回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2022, 11, 大阪
- 97) ロープロファイルロッキングプレートを使用し遠位脛骨斜め骨切り術を行った治療経験
岡村龍, 小菌敬洋, 石原和明, 北島潤弥, 福永幹, 森田恭史, 栗原典近
第47回日本足の外科学会, 2022, 11, 愛媛
- 98) 当科における野球選手上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の手術成績
長澤誠, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 森田雄大, 横江琢示, 鮫島央, 川越亮
第34回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2022, 12, 福岡
- 99) 片側mechanical lateral ankle laxity症例の健常側lateral ankle laxityの評価：ストレス超音波検査による両側足正常コントロールとの比較
横江琢示, 田島卓也, 山口奈美, 森田雄大, 帖佐悦男
第34回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2022, 12, 福岡
- 100) 両側前脛骨筋ヘルニアに対し筋膜切開術を施行した一例
川越亮, 横江琢示, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 長澤誠, 森田雄大, 帖佐悦男
第34回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2022, 12, 福岡
- 101) 両側反復性膝蓋骨脱臼に対して内側膝蓋大腿靱帯再建術および脛骨粗面内側移行術を施行した一例
鮫島央, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 長澤誠, 森田雄大, 横江琢示, 帖佐悦男
第34回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2022, 12, 福岡

- 102) 宮崎式サーフィン競技安全度評価を1シーズン使用してみても
小島岳史, 柏木輝行, 柏木悠吾, 福嶋研人, 吉田尚紀, 石田翔太郎, 田島卓也,
帖佐悦男
第34回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2022, 12, 福岡
- 103) 膝外側半月板損傷を呈したビッグウェーブサーファーの一例
一井竜弥, 河原勝博, 小島岳史
第34回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2022, 12, 福岡
- 104) 手指の骨髄炎に対する高気圧酸素療法の有効性
戸田雅, 甲斐糸乃, 吉川大輔, 益山松三, 信國里沙
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎
- 105) 当院における先天性腓骨列欠損の治療経験
川越悠輔, 梅崎哲矢, 川野彰裕
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎
- 106) 小指PIP関節陳旧性橈側側副靱帯損傷に対する治療経験
大田智美, 田島卓也, 山口奈美, 長澤誠, 森田雄大, 横江琢示, 飯田暁人, 帖佐悦男
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎
- 107) 当院におけるコンドリアーゼの治療成績の報告
高橋巧, 久保紳一郎, 三橋龍馬, 福田一, 野崎正太郎, 田島直也
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎
- 108) 人工膝関節置換術におけるドレーン不使用での輸血回避について
河野翔, 松岡知己, 増田寛, 川越隆行
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎
- 109) 人工骨頭置換術における前外側アプローチの超短期臨床成績の報告
北堀貴史, 森治樹, 池尻洋史, 帖佐直紀, 喜多恒允
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎
- 110) 100歳以上の大腿骨近位部骨折患者の予後についての検討
帖佐直紀, 森治樹, 池尻洋史, 北堀貴史, 喜多恒允
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎

- 111) 世界骨粗鬆症デー (WOD) に合わせた都城市における啓発活動の取り組みについて
小牧亘, 前原孝政, 太田尾祐史, 内村裕起, 大久保節子, 山下理恵, 南中道里香,
森本直美, 野崎千穂, 胡摩窪冬杏, 深野木快士, 植村貞仁, 帖佐悦男
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎
- 112) ジストニアに伴う環軸椎変形性関節症に対し、後方固定を施行した一症例
永井琢哉, 濱中秀昭, 黒木修司, 比嘉聖, 黒木智文, 川越亮, 帖佐悦男
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎
- 113) 人工関節術後20年フォローしてみても気付いたインプラントの問題点—インプラントの保証
制度の必要性—
福嶋研人, 柏木輝行, 小島岳史, 吉田尚紀, 柏木悠吾
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎
- 114) PSITKAとロボット支援TKAの設置正確性の比較
小島岳史, 柏木輝行, 柏木悠吾, 福嶋研人, 吉田尚紀
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎
- 115) 変形性足関節症に対する手術治療～関節温存は可能になったか～
岡村龍, 小藺敬洋, 石原和明, 北島潤弥, 福永幹, 森田恭史, 栗原典近
第85回宮崎整形外科懇話会, 2022, 12, 宮崎

◆学会報告 (ポスター)

- 1) 髄膜腫と神経鞘腫の画像診断的特徴—Ginkgo-leaf-signに着目して—
戸田雄, 森本忠嗣, 濱中秀明, 李徳哲, 吉里広, 吉原智仁, 塚本正紹, 馬渡正明
第51回日本脊椎脊髓病学会学術集会,
2022, 4, 神奈川
- 2) 当科にて観血的治療を要した Charcot spine の3症例
黒木修司, 黒木智文, 永井琢哉, 比嘉聖, 濱中秀昭, 帖佐悦男
第51回日本脊椎脊髓病学会学術集会, 2022, 4, 神奈川
- 3) ハローベストのスカルピン頭蓋骨穿破のリスク因子の検討
濱中秀昭, 黒木修司, 比嘉聖, 永井琢哉, 黒木智文, 帖佐悦男
第51回日本脊椎脊髓病学会学術集会, 2022, 4, 神奈川

- 4) 寛骨臼骨折に対する人工股関節置換術－急性期 THA か？保存療法後 THA か？積極的骨接合か？－
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 日吉優
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 5) 健常足における足関節外側不安定性と全身関節弛緩性の関係
横江琢示, 田島卓也, 山口奈美, 森田雄大, 大田智美, 長澤誠, 川越秀一, 帖佐悦男
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 6) 若年者の大腿骨頸部骨折の骨接合術における Hansson Pin と Hansson Pinloc の治療成績
の比較検討
神谷俊樹, 福永幹, 北堀貴史, 池尻洋史, 森治樹
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 7) 中高年者に対する関節鏡下半月板縫合術の治療成績
吉川大輔, 吉留綾, 甲斐糸乃, 益山松三
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 8) 髄膜腫と神経鞘腫の画像診断的特徴－ Ginkgo-leaf-sign に着目して－
戸田雄, 森本忠嗣, 濱中秀明, 李徳哲, 吉里広, 吉原智仁, 塚本正紹, 馬渡正明
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 9) 骨付き膝蓋腱およびハムストリングス腱を用いた解剖学的二重束前十字靱帯再建術の治療体験
山口奈美, 田島卓也, 泉俊彦, 大田智美, 長澤誠, 森田雄大, 横江琢示, 川越秀一,
森田恭史, 喜多恒允, 帖佐悦男
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 10) 筋膜の構造究明のための基礎的研究－ Deep fascia の三重構造－
今里浩之, 澤口朗, 高橋伸育, 平川雄介, 山口洋一郎, 日吉優, 船元太郎,
中村嘉宏, 坂本武郎, 帖佐悦男
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 11) 新型コロナウイルス感染症流行下におけるロコモ度の悪化は下肢筋力の低下による
船元太郎, 帖佐悦男, 田島卓也, 永井琢哉, 山口洋一郎
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 12) コンタクトスポーツにおける半月損傷と傾向および競技特異性
田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 長澤誠, 森田雄大, 横江琢示, 川越秀一, 帖佐悦男
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫

- 13) ハローベストのスカルビン頭蓋骨穿破のリスク因子の検討
濱中秀昭, 黒木修司, 比嘉聖, 永井琢哉, 黒木智文, 帖佐悦男
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 14) 寛骨臼骨折手術治療成績に術者の手術経験数による差はあるかー多施設後ろ向き観察研究ー
石井桂輔, 神田倫秀, 井口浩一, 野田知之, 小久保安朗, 宮本俊之, 大野一幸,
岩瀬弘明, 日吉優, 松垣亨, 屋形幸久
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 15) Well fixed stem をどう抜くかー基礎的解剖学を見据えた確実安全な手術手技の提案ー
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 日吉優
第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, 5, 兵庫
- 16) コロナ禍での野球検診
長澤誠, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 森田雄大, 横江琢示, 川越秀一
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2022, 6, 北海道
- 17) 骨付き膝蓋腱およびハムストリングス腱を用いた解剖学的二重束前十字靱帯再建術
山口奈美, 田島卓也, 大田智美, 長澤誠, 森田雄大, 横江琢示, 帖佐悦男
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2022, 6, 北海道
- 18) 柔道競技における膝前十字靱帯損傷の特徴
森田雄大, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 長澤誠, 横江琢示, 川越秀一, 帖佐悦男
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2022, 6, 北海道
- 19) 脛骨付着部を温存した自家半腱様筋腱グラフトによる逆V字型 MCL 浅層再建術の術後短期成績
田島卓也, 山口奈美, 森田雄大, 横江琢示, 大田智美, 長澤誠, 川越秀一, 帖佐悦男
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2022, 6, 北海道
- 20) 宮崎県における外側型足関節捻挫に対する一般整形外科医によるマネージメントの現状
横江琢示, 田島卓也, 山口奈美, 森田雄大, 長澤誠, 帖佐悦男
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2022, 6, 北海道

- 21) 両側脛骨内果疲労骨折に対し吸収性スクリューを用いて手術を施工した1例
三橋龍馬, 田島卓也, 帖佐悦男
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会, 2022, 6, 北海道
- 22) 整形外科外来を訪れるサーファーの特徴
小島岳史, 帖佐悦男
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会, 2022, 6, 北海道
- 23) 筋膜の構造究明のための基礎的研究ー Deep fascia の三重構造ー
今里浩之, 高橋伸育, 澤口朗, 平川雄介, 山口洋一朗, 日吉優, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 24) 日常生活動作における内側半月板後根の shear stress
横江琢示, 大内宏輝, 田島卓也, 山口奈美, 山口洋一朗, 森田雄大, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 25) 前十字靱帯再建術後関節内出血が軟骨変性に及ぼす影響
森田雄大
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 26) 人工関節置換術施術後の生活向上を目的としたジョギング時の股関節反力の調査
松本大世, 大内宏輝, 中村嘉宏, 鳥取部光司, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 27) 片側変形性股関節症患者の歩行時の股関節反力
大内宏輝, 鳥取部光司, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 28) 手根管症候群の診断における超音波検査, 電気生理学的検査および CTS-6 で評価した臨床症状の比較
大倉俊之, 黒田宏, 松岡篤, 松岡知己, 福田一, 田島卓也, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 29) Trunionosis に対する治療戦略 偽腫瘍再発の観点からスリーブ変更だけでいいのか? ステム再置換まで行うのか?
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 日吉優
第49回日本股関節学会学術集会, 2022, 10, 山形

- 30) 人工関節置換術後の Perijoint infection に合併した大腿動脈損傷の 1 例
今里浩之, 帖佐悦男, 平川雄介, 山口洋一朗, 日吉優, 船元太郎, 中村嘉宏
第49回日本股関節学会学術集会, 2022, 10, 山形
- 31) 大腿骨図骨折に対して surgical dislocation を用いた自家骨軟骨柱移植術の治療経験
帖佐直紀, 中村嘉宏, 日吉優, 坂本武郎, 帖佐悦男
第49回日本股関節学会学術集会, 2022, 10, 山形
- 32) 販売終了したステムを温存することができた ARMD の一例
山口洋一朗, 今里浩之, 平川雄介, 日吉優, 中村嘉宏, 坂本武郎, 帖佐悦男
第49回日本股関節学会学術集会, 2022, 10, 山形
- 33) 重心移動でロボットを操作する Locomotion Robot は, 人工股関節全置換術後の立位体重負荷率とバランス能力を改善する
宮崎茂明, 山子剛, 荒川英樹, 坂本武郎, 川口翼, 伊東きらり, 中村嘉宏, 日吉優, 帖佐悦男
第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022, 11, 岡山
- 34) 頸椎症性脊髄症術後患者のコップ飲み動作の運動学的特徴ー Statistical parametric mapping による解析ー
中武潤, 前田翔吾, 荒川英樹, 濱中秀昭, 鳥取部光司, 帖佐悦男
第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022, 11, 岡山
- 35) 再生医療を施行した脊髄損傷患者に対しロボットスーツ HAL 腰タイプを併用したリハビリテーション治療の経験
川越彩加, 川口翼, 永井琢哉, 荒川英樹, 宮崎茂明, 帖佐悦男
第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022, 11, 岡山
- 36) 脳腫瘍患者の自動車運転能力に関するリハビリテーション評価の重要性
小林知之, 中武潤, 荒川英樹, 帖佐悦男
第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022, 11, 岡山
- 37) 言語野温存のため覚醒下手術が行われた右大脳半球優位左側頭葉神経膠腫の一例
金岡敦, 荒川英樹, 帖佐悦男
第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022, 11, 岡山
- 38) ラグビー競技の当院における脳振盪の実態
岩佐一真, 今里浩之, 田島卓也, 帖佐悦男
第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022, 11, 北海道

- 39) 第5中足骨疲労骨折と踵骨骨嚢腫を認め手術を施行した1例
三橋龍馬, 田島直也, 田島卓也, 帖佐悦男
第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022, 11, 北海道
- 40) 宮崎県のコロナ禍からのラグビー競技再開ー重症事故を含めた外傷報告ー
今里浩之, 田島卓也, 森田恭史, 岩佐一真, 吉川大輔, 中村嘉宏, 帖佐悦男
第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022, 11, 北海道
- 41) 日本プロサーフィン連盟 (JPSA) メディカルサポートチーム「CURE」での競技会における安全度評価
石田翔太郎, 小島岳史, 高木俊介, 東島紋子, 稲田邦匡, 三谷玄弥
第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022, 11, 北海道
- 42) 膝 PCL 断裂に対し保存加療で復帰した競技サーファーの一例
一井達弥, 河原勝博, 小島岳史
第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022, 11, 北海道
- 43) Ankle fusion plate lateral TT の使用経験
石原和明, 岡村龍, 木戸義隆
第47回日本足の外科学会, 2022, 11, 愛媛

◆学会報告 (シンポジウム)

- 1) 医療関係者が知っておきたいロコモを取り巻く環境ー骨粗鬆症・フレイル・サルコペニアー
帖佐悦男
第34回日本肘関節学会学術集会, 2022, 2, 愛知
- 2) 側弯症学校検診の現状と未来側弯症学校検診の現状と未来
黒木浩史
第51回日本脊椎脊髄病学会 (シンポジウム), 2022, 4, 横浜市
- 3) 東京オリンピックにおける7人制ラグビー競技のメディカルサポート
田島卓也, 帖佐悦男, 中村明彦
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2022, 6, 北海道

- 4) ラグビーフットボール競技のドクター活動に必要なもの
田島卓也, 帖佐悦男, 中村明彦
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2022, 6, 北海道
- 5) ロコモティブシンドロームにおける運動器疼痛に対するリハビリテーション医療
帖佐悦男
第26回日本ペインリハビリテーション学会 学術大会, 2022, 6, 兵庫
- 6) 医療関係者に必要なロコモティブシンドローム関連の最新知識
帖佐悦男
第59回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2022, 6, 神奈川
- 7) COVID-19 による当院の大腿骨転子部骨折の手術待機日数の変化
石原和明, 村岡辰彦, 川野啓介
第48回日本骨折治療学会学術集会, 2022, 6, 神奈川
- 8) 運動器基礎研究のイノベーション継承と革新
帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 9) 進行期変形性股関節症に対する関節温存手術の位置づけと長期成績
帖佐悦男, 坂本武郎, 中村嘉宏, 舩元太郎, 日吉優, 山口洋一朗, 平川雄介,
今里浩之
第49回日本股関節学会学術集会, 2022, 10, 山形
- 10) 人工股関節置換術後の力学的未来を予測する
山子剛, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 11) 人生 100 年時代, われわれ自身が改革すべきことそして伝えるべきことー運動機能低下に対する乳酸菌含有高タンパク質食の有用性
中村嘉宏, 帖佐悦男, 舩元太郎
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 12) スポーツ外傷による関節内出血から軟骨を守るために
田島卓也, 山口奈美, 森田雄大, 横江琢示, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎

- 13) 足関節の解剖：超音波検査による足関節外側靱帯の評価
横江琢示, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 長澤誠, 森田雄大, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 14) 機械学習を用いたロコモ検診アンケートからのロコモ度予測
山口洋一朗, 今里浩之, 平川雄介, 日吉優, 船元太郎, 中村嘉宏, 坂本武郎,
帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 15) パラスポーツ取り巻く環境と課題に関する基礎的調査
荒川英樹, 山口洋一朗, 森田雄大, 鳥取部光司, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 16) HMGB 蛋白と関節疾患
谷口昇
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 17) 地方都市で実施しているロコモ検診とその課題
船元太郎, 帖佐悦男
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022, 10, 宮崎
- 18) 医療関係者が知っておきたいロコモを取り巻く最新の話題－運動器の視点から－
帖佐悦男
第49回日本股関節学会学術集会, 2022, 10, 山形
- 19) 医療関係者が知っておきたいロコモ（運動器）の Up to Date
帖佐悦男
第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022, 11, 岡山
- 20) 側弯症学校検診－世界の動向と宮崎県の実態－
黒木浩史
第56回日本側弯症学会（スポンサードシンポジウム）, 2022, 11, 浦安市

◆ 講演

- 1) 当院における犬・猫咬創の治療経験－2010年から12年間187例の検討－
高見博昭
第155回大分県ちっと手を見る会, 2022, 1, 大分

- 2) 小児期の麻痺性関節障害に対する整形外科的アプローチ
川野彰裕
第8回大分運動器医療セミナー，2022，3，大分
- 3) スポーツ外傷・障害の基礎知識
帖佐悦男
宮崎県スポーツ協会認定アスレティックトレーナー養成講習会，
2022，6，宮崎
- 4) AT の役割・ドクターとの連携、スポーツ整形外科
田島卓也
宮崎県スポーツ協会認定アスレティックトレーナー養成講習会，
2022，6，宮崎
- 5) 側弯症検診
黒木浩史
日本小児整形外科学会 第29回研修会（ハイブリッド開催） シンポジウム
「小児検診」，2022，8，神奈川
- 6) ロコモについての基礎講義
帖佐悦男
ロコモ予防養成・普及講座，2022，9，宮崎
- 7) 骨粗鬆症について
船元太郎
2022年度放送大学宮崎学習センター公開講演会「骨粗鬆症の理解、治療および骨折予防」，2022，9，宮崎
- 8) 発育発達期の子供への指導
帖佐悦男
日本スポーツ協会認定「コーチⅠ」養成講習会，2022，11，宮崎
- 9) ホネ折り損にならないために～日曜に勉強、月曜から実践～
日吉優
市民公開講座ひむか骨と関節を考える会ー動く喜び、動ける幸せー，
2022，10，宮崎

10) あなたの腰痛はどのタイプ？治療法はなに？

後藤啓輔

市民公開講座ひむか骨と関節を考える会ー動く喜び、動ける幸せー，
2022，10，宮崎

11) 手のしびれ

川越正一

市民公開講座ひむか骨と関節を考える会ー動く喜び、動ける幸せー，
2022，10，宮崎

12) 若年者の上肢疾患症例について考える

矢野浩明

第14回はまゆう整形外科セミナー，2022，12，宮崎

13) 痙縮に対する整形外科的アプローチ

川野彰裕

第14回はまゆう整形外科セミナー，2022，12，宮崎

編 集 後 記

2024年は変革の年でした。帖佐悦男先生が御退官され、広島大学から亀井直輔先生が新教授に就任されました。

また、本学は医学部開講50周年を迎え、同門会誌ではこれまで宮崎大学整形外科教室と同門会を支えてくださった歴代教授、同門会長にご寄稿いただきました。

菅田育穂先生、鶴田明土先生を偲んでご寄稿いただきました。

毎年恒例となりました開業の先生、関連病院の近況報告をいただきました。

新入会員としまして、佐々木一駿先生、榊 昂典先生、鮫島勇汰先生、田中涼太先生、土屋慧祐先生、山下紀美子先生、坂本竜一先生、天野翔太先生、菅田真生先生にご入会いただきました。今後の先生方のご活躍を楽しみにしています。

その他、同門会長と医局長挨拶、帖佐教授の新入教室員歓迎、学会賞・同門会奨励賞、学位取得報告、同門会行事、医局行事等があります。皆様には楽しんで読んでいただけると幸いです。

ご多忙のなか、本誌に御寄稿いただいた先生方に深謝申し上げます。

令和6年12月吉日

渡邊 信二

大田 智美（文責）

Initia[®]

Hip System

AG-PROTEX[®]

AG-PROTEX (エージプロテクス) は、抗菌スペクトルの広い銀を含有した、ハイドロキシアパタイトの溶射技術です。

抗菌性・骨伝導性の両立^(※)

(※) 非臨床試験結果で確認されています。



AG-PROTEXに関する
詳しい情報はこちら

一般的名称：人工股関節大腿骨コンポーネント
AG-PROTEX Initiaシステム [医療機器承認番号：30400BZX00228000]
Initiaシステム [医療機器承認番号：22800BZX00145000]
BIO CERAM AZULヘッド [医療機器承認番号：22600BZX00510000]

一般的名称：全人工股関節
AG-PROTEX HIPシステム [医療機器承認番号：22700BZX00259000]

一般的名称：人工股関節寛骨臼コンポーネント
Aquala VEライナー [医療機器承認番号：22800BZX00099000]

「Initia」「AG-PROTEX」は、京セラ株式会社の登録商標です。

京セラ株式会社 メディカル事業部

本社
東京事業所
大阪事業所

京都市伏見区竹田鳥羽殿町 6 番地
東京都港区三田三丁目 5 番 19 号
大阪府大阪市淀川区宮原 3 丁目 3 - 3 1

〒612-8501 Tel.075-778-1980
〒108-8316 Tel.03-6364-5562
〒532 0003 Tel 06 6350 1017

札幌営業所 Tel.011-280-6020
名古屋営業所 Tel.052-977-0676

東北営業所 Tel.022-216-5176
岡山営業所 Tel.086-803-3620

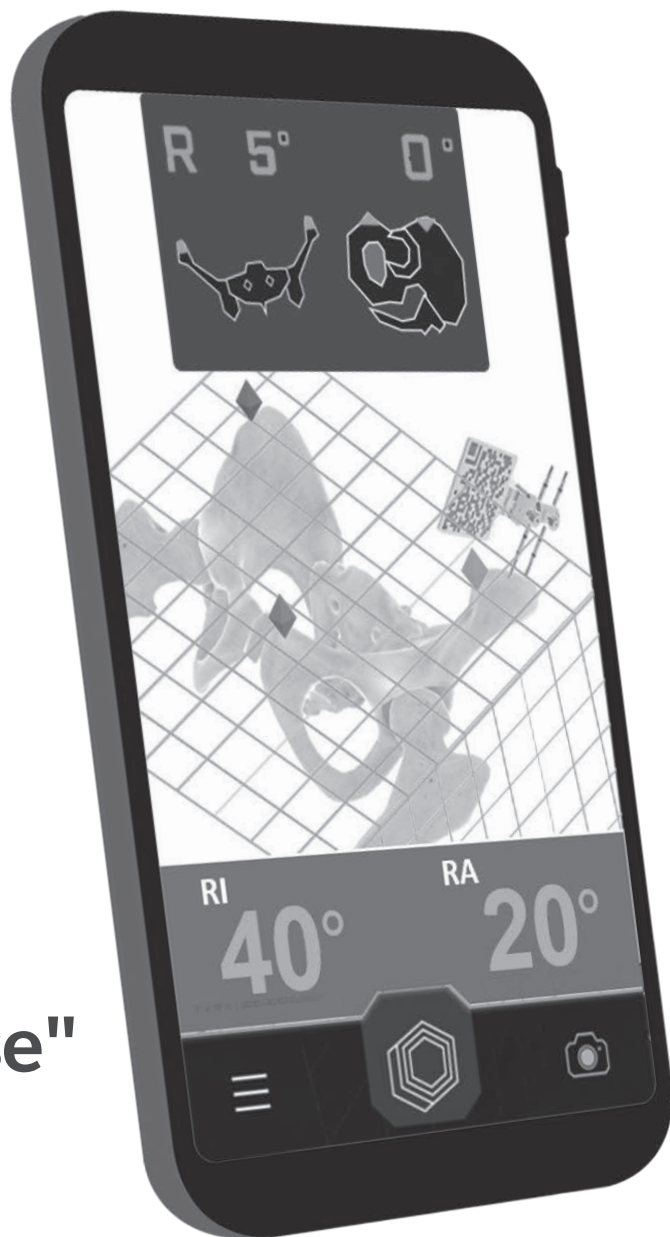
大宮第2営業所 Tel.048-640-7779
広島営業所 Tel.082-212-1003

浜松営業所 Tel.052-977-0676
九州営業所 Tel.092-452-8140

<http://www.kyocera.co.jp/prdct/medical/index.html>

© 2023 KYOCERA Corporation

AR Navigation System



"Simple"
"Accessible"
"Ready-to-use"

販売名：ARナビゲーションシステム（滅菌）
医療機器製造販売承認番号：30400BZX00130000
規制区分：管理医療機器 特定保守管理医療機器
一般的名称：手術用ナビゲーションユニット

販売名：ARナビゲーションシステム
医療機器製造販売承認番号：30300BZX00029000
規制区分：管理医療機器 特定保守管理医療機器
一般的名称：手術用ナビゲーションユニット

販売名：ARナビゲーションシステム器械
医療機器製造販売届出番号：13B1X102284P0016
規制区分：一般医療機器
一般的名称：関節手術用器械

販売名：スレッドピン滅菌
医療機器製造販売承認番号：304AFBZX00038000（国内他社品）
規制区分：管理医療機器
一般的名称：単回使用骨手術用器械

ジンマー バイオメット <https://www.zimmerbiomet.com/ja>

本社 〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目11番1号 住友不動産芝公園タワー 15階
Tel. 03-6402-6600(代)

 ZIMMER BIOMET



オート
インジェクター
新発売

TNF α 阻害薬(一本鎖ヒト化抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤)
オゾラリズマブ(遺伝子組換え)製剤

薬価基準収載



ナゾラ[®]皮下注30mg シリンジ
Nanozora[®] 30mg Syringes / Autoinjectors for S.C. Injection

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品[※] 注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等については電子添文をご参照ください。

® 大正製薬株式会社登録商標



製造販売 [文献請求先]

大正製薬株式会社

〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1

お問い合わせ先: ☎ 0120-591-818

メディカルインフォメーションセンター

2024年1月作成

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

患者さんの Quality of Life の向上が 私たちの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人ヘルスケア株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD001-TB-2103-1

What Matters?

Partnerships パートナリシップ

私たちは先生方のパートナーとして、患者様に最も優先して力を注ぐことができるよう、効率的な手法や持続性の高い技術、優れたサービスを提供して参ります。



Performance パフォーマンス

私たちは、先生方の治療に対する要求にお応えし、先生方がより良い結果を収めることができるよう手技や器械、インプラントの開発に力を入れて参ります。

Education 教育

私たちは先生方が常に最新の技法や学術情報に触れ、テクニックに関する最新の情報を得ることができるよう、継続的な教育プログラムを提供して参ります。



Results 結果

私たちは先生方の成功に力になったかどうかで、自らの結果を評価します。私たちが何よりも優先しているのは、先生方や患者様の利益です。私たちは先生方や患者様にとって最高の結果を提供できるよう努力して参ります。

日本ストライカー株式会社

112-0004 東京都文京区後楽 2-6-1 tel: 03-6894-0000
www.stryker.co.jp

・医療従事者向けサイト-Stryker Medical Professional Site
www.stryker.co.jp/medical.html

製造販売業者

日本ストライカー株式会社

550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀2-1-1

Hisamitsu



経皮吸収型 持続性疼痛治療剤
処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること)
ジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤

薬価基準収載

ジクトルテープ® 75mg

ZICTHORU® Tapes 75mg

1枚中 日局ジクロフェナクナトリウム75mg含有

● 効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元  **久光製薬株式会社** 〒841-0017 鳥栖市田代大官町408番地

文献請求先及び問い合わせ先：お客様相談室 〒135-6008 東京都江東区豊洲三丁目3番3号

TEL. 0120-381332 FAX. (03)5293-1723

受付時間／9:00—17:50 (土日・祝日・会社休日を除く)

URL: <https://www.hisamitsu.co.jp/medical/index.html>



2022年6月作成

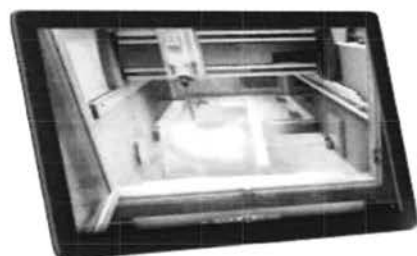
最先端3D CAD/CAMシステム



1. 3Dスキャンの非接触型採型により
患者様の負担を軽減



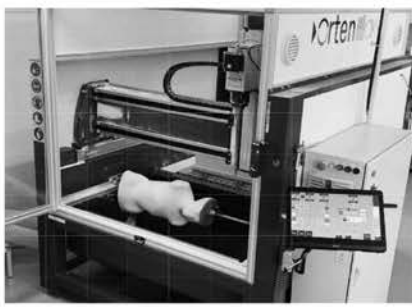
2. 専用ソフトウェアによる
モデル修正



3. 3D-CAM切削加工機による
モデル加工



3Dスキャンシステムで身体形状を、効率的にスキャン加工しデジタル保存



3Dスキャンの動画の紹介



上のQRコードをスマホで読み取ると動画が見れます

義肢・装具・整形靴・座位保持・車いす・介護用品・住宅改修



株式会社マキタ義肢製作所
マキタ福祉用具レンタル事業所

本社：都城市鷹尾1丁目27街区11-2号
TEL(0986)24-6598 FAX(0986)24-6630

宮崎営業所：宮崎市大字恒久6011-3
TEL(0985)65-6178 FAX(0985)65-6179

AMISTM Experience

ANTERIOR MINIMALLY INVASIVE SURGERY
IN HIP REPLACEMENT

SURGICAL TECHNIQUE

DEDICATED IMPLANTS

TOOLS AND SERVICES



MEDICAL EDUCATION

ADVANCED INSTRUMENTATION

More than an Anterior Approach

届出番号: 13B1X10060H01001
販売名: AMIS モバイル レッグポジショナー

© 2021 Medacta International SA. All rights reserved. ref:99.98XPADV rev. MIYAZAKI2021



製造販売業許可番号: 13B1X10060
メダクタジャパン株式会社
〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-5 麹町中田ビル2F
TEL 03-6272-8797 FAX 03-6272-8798

in | HIP.MEDACTA.JP |



DISCOVER
MORE

いのちの数だけ、
アンサーを。



旭化成ファーマ株式会社

旭化成ファーマの医療関係者向けサイト
<https://akp-pharma-digital.com>

Pharma DIGITAL



まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。

 **astellas**

アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/



ヤヌスキナーゼ (JAK) 阻害剤

リンヴォック[®] 錠 15 mg
7.5 mg

薬価基準収載

ウパダシチニブ水和物錠

RINVOQ[®]

創薬 処方箋医薬品^{※1}

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

- 効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等については電子化された添付文書 (電子添文) をご参照ください。

製造販売元

アッヴィ合同会社

東京都港区芝浦3-1-21

2023年10月作成

JP-RNQR-200012-4.0

(文献請求先及び問い合わせ先)

くすり相談室

フリーダイヤル 0120-587-874

abbvie



薬価基準収載

生物由来製品、創薬、処方箋医薬品*

完全ヒト型可溶性TNF α /LT α レセプター製剤

エタネルセプト BS

Etanercept BS for S.C. Injection

エタネルセプト (遺伝子組換え) [エタネルセプト後続1]

*注意—医師等の処方箋により使用すること

皮下注用10mg「MA」

皮下注用25mg「MA」

皮下注 25mg シリンジ 0.5mL「MA」

皮下注 50mg シリンジ 1.0mL「MA」

皮下注 25mg ペン 0.5mL「MA」

皮下注 50mg ペン 1.0mL「MA」

[効能又は効果]、[用法及び用量]、
[警告・禁忌を含む使用上の注意]等については
電子化された添付文書 (電子添文) をご参照ください。

販売 (資料請求先)
あゆみ製薬株式会社
東京都中央区銀座四丁目12番15号

製造販売元
持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地

ETNB5②M-22KAY06



hbc
human health care

患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病气とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病气を見つめるだけではなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



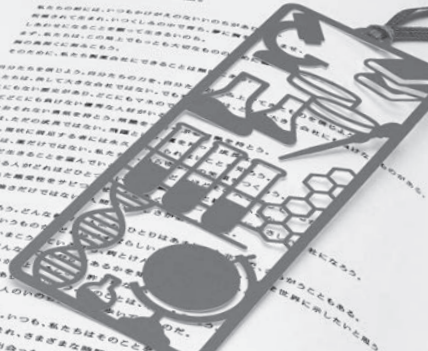
AFUTUREPERSPECTIVE
Eisai

エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

協和キリン株式会社

たった一度の
いのちと
歩く。

私たちの志 ここに在る責任と幸福。



たった一度の、いのちと歩く。

KYOWA KIRIN

私たちの志

検索

2019年7月作成

SHIONOGIは いま、まさに 立ち向かっている。

半世紀以上、
感染症と向き合い続けてきた誇りを胸に。
ヘルスケアの未来を見据え、
健やかで豊かな人生に貢献するために。



2024.3.852

ジャック
自家培養軟骨

自家培養軟骨 ジャック®

ジャックは、患者様から採取した健常な軟骨組織より分離した軟骨細胞を、アテロコラーゲンゲルに包埋して培養し、患者様自身に適用する自家培養軟骨です。軟骨細胞を含むアテロコラーゲンゲルを欠損部に移植することにより、臨床症状を緩和します。

保険適用 特定保険医療材料

ジャック 再生医療等製品
承認番号 22400FZX00266001
承認年月日 2012年7月27日
一般的名称 ヒト（自己）軟骨由来組織
類別 ヒト細胞加工製品 01 ヒト体細胞加工製品

再生医療という選択肢。 新たな治療戦略。

※効能、効果又は性能、警告、禁忌・禁止を含む使用上の注意等の詳細につきましては、
製品添付文書をご参照ください。

医療従事者専用
ジャックに関するお問い合わせは
TEL.0533-63-5752
受付時間／9:00～17:00



製造販売元
株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング
Japan Tissue Engineering Co.,Ltd
〒443-0022 愛知県蒲郡市三谷北通6丁目209番地の1

<https://www.jppte.co.jp>

J-TEC

検索

ジャックの使用に関する情報、安全性に関する最新の情報は、ホームページでご確認ください。

<2022年10月作成>



世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献する

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。



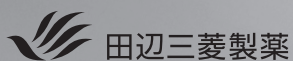
第一三共株式会社

選択肢をつくる。 希望をつくる。

なんでも選べるこの時代に、
まだ選択肢が足りない世界があります。
そこでは、たったひとつの選択肢が生まれることが、
たくさんの希望につながります。
だから、田辺三菱製薬はつくります。

病と向き合うすべての人に、希望ある選択肢を。

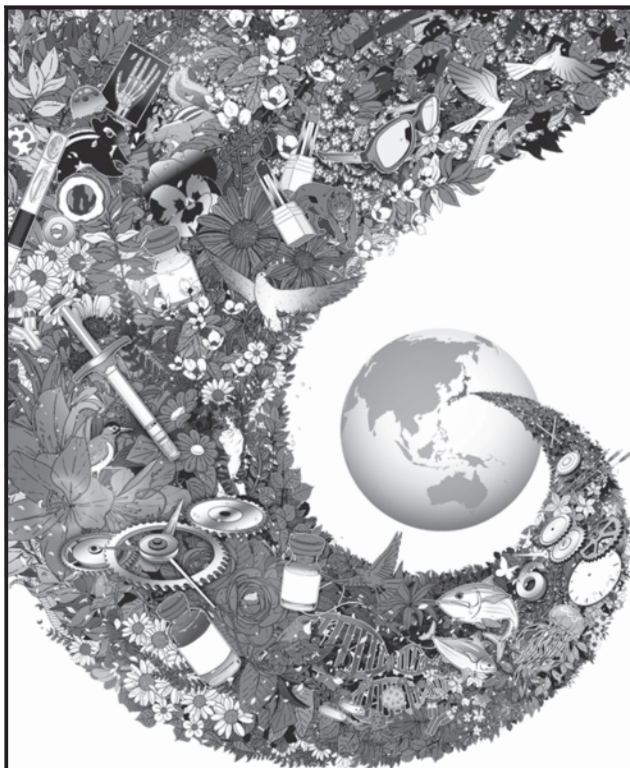
この国でいちばん長く培ってきた
薬づくりの力を生かして、
さまざまな分野で、挑みつづけていきます。
そこに待っている人がいるかぎり。



田辺三菱製薬

<https://www.mt-pharma.co.jp/>





ヒト化抗ヒトIL-6レセプターモノクローナル抗体 【薬価基準収載】
生物由来製品、創薬、処方薬医薬品^{※1} 注）注意—医師等の処方箋により使用すること

アクトテムラ[®] 点滴静注用 80mg
200mg
400mg
ACTEMRA[®] tocilizumab トシリズマブ（遺伝子組換え）注

ヒト化抗ヒトIL-6レセプターモノクローナル抗体 【薬価基準収載】
生物由来製品、創薬、処方薬医薬品^{※1} 注）注意—医師等の処方箋により使用すること

アクトテムラ[®] 皮下注162mgシリリング
皮下注162mgオートインジェクター
ACTEMRA[®] tocilizumab トシリズマブ（遺伝子組換え）注

「効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む
注意事項等情報」等については電子化された
添付文書をご参照ください。

<https://chugai-pharm.jp/>

製造販売元



中外製薬株式会社

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

Roche ロシュグループ

【文献請求先及び問い合わせ先】 メディカルインフォメーション部
TEL.0120-189-706 FAX.0120-189-705

【販売情報提供活動に関する問い合わせ先】
<https://www.chugai-pharm.co.jp/guideline/>

2024年3月作成



漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラ
は考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤に
とって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える
私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを
抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を
生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。



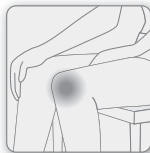
株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/> 資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。

医療関係者の皆様 tel.0120-329-970 患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930 受付時間 9:00~17:30（土・日・祝日は除く）

2021年4月制作 （審）

慢性化しやすい痛み

変形性関節症



腰痛症



頸肩腕症候群



帯状疱疹後神経痛



肩関節周囲炎



下行性疼痛抑制系賦活型
疼痛治療剤（非オピオイド、非シクロオキシゲナーゼ阻害）

ナイトロピン®錠4単位

ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液含有製剤 〈薬価基準収載〉

【禁忌】（次の患者には投与しないこと）：
本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

帯状疱疹後神経痛、腰痛症、頸肩腕症候群、
肩関節周囲炎、変形性関節症

【用法・用量】

通常、成人には1日4錠を朝夕2回に分けて経口投与
する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

帯状疱疹後神経痛に対しては、4週間で効果の認められ
ない場合は漫然と投薬を続けまいよう注意すること。

【使用上の注意】

1. 副作用

承認時までの調査では、1,706例中89例（5.22%）に、市
販後の副作用頻度調査（再審査終了時点）では、18,140例
中98例（0.54%）に副作用が認められている。以下の副作
用は、上記の調査及び自発報告等で認められたものである。

（1）重大な副作用

- 1) 肝機能障害、黄疸（いずれも頻度不明）：AST(GOT)、
ALT(GPT)、 γ -GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸
があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が
認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を
行うこと。
- 2) 本薬の注射剤において、ショック、アナフィラキシーがあらわ
れたとの報告があるので、観察を十分に行い、異常が認めら
れた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

その他の使用上の注意などにつきましては、
添付文書をご参照下さい。

製造販売元

日本臓器製薬

〒541-0046 大阪市中央区平野町4丁目2番3号

資料請求先：学術部

くすりの相談窓口 ☎0120-630-093

土・日・祝日を除く 9:00～17:00

2020年12月作成

三笠製薬



経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤 【薬価基準収載】

ロキソプロフェンNaテープ[®] 50mg「三笠」

LOXOPROFEN Na TAPE 50mg / 100mg 「MIKASA」

ロキソプロフェンナトリウム水和物貼付剤



製造販売元（文献請求先及び問い合わせ先）

三笠製薬株式会社

〒176-8585

東京都練馬区豊玉北2-3-1

<https://www.mikasaseiyaku.co.jp/>

- 効能又は効果、用法及び用量、禁忌
を含む注意事項等情報等について
は電子添文をご参照ください。

2023年9月作成